

令和 2 年度市政アンケート調査 報告書

令和 3 年 3 月
河内長野市

目次

第1章 調査の概要

1-1. 調査目的	1
1-2. 調査方法	1
1-3. 調査内容	1
1-4. 配布・回収結果	2
1-5. 調査結果の見方	2

第2章 アンケート調査結果

■調査結果の概要	3
2-1. 属性	
A 性別	8
B 年齢	8
C 家族構成	8
D 居住期間	9
E 小学校区	10
F 以前住んでいたところ	10
G 職業	11
2-2. 河内長野市での定住意向について	
(1) 市での定住意向(問1)	12
(2) 住みつづけたい理由(問2)	14
(3) 市外に移りたい理由(問3)	16
(4) 市に住みつづけるために必要なもの(問4)	19
2-3. 河内長野市の取組みについて	
(1) 市の取組みに対する満足度・重要度(問5)	21
(2) 不満に感じる取組みとその理由(問6)	35
(3) 地域やまちづくり活動の参加度(問7)	37
(4) 市の取組みに対する感じ方(問8)	38
2-4. 災害に対する備えについて	
(1)-1 非常食の備蓄量(問9-1)	39
(1)-2 水の備蓄量(問9-2)	39
(1)-3 生活用品の備蓄の有無(問9-3)	40
(2) 災害時の避難方法で想定している場所(問10)	40
2-5. 人権問題について	
2-5-1. 人権問題全般について	
(1) 人権問題で関心のあるもの(問11)	41
(2) 「差別」に対する考え方(問12)	44
2-5-2. 人権問題についての学習経験について	
(1) 人権問題についての学習経験(問13)	52
(2) 人権意識を高める上で特に役立ったもの(問14)	55
(3) 学校や職場、地域で経験した人権問題の学習分野(問15)	57

2-5-3. 人権問題についての考え	
(1)-1 結婚相手を考える際に気になること（回答者自身）（問 16 ①）	60
(1)-2 結婚相手を考える際に気になること（回答者の子供）（問 16 ②）	63
(2) 家を買ったり借りたりする際に重視する立地条件（問 17）	66
2-5-4. さまざまな人権問題について	
(1) 女性に関しての人権問題（問 18）	69
(2) 子どもに関しての人権問題（問 19）	72
(3) 高齢者に関しての人権問題の意識（問 20）	75
(4) 障がい者に関しての人権問題の意識（問 21）	78
(5) 日本に居住している外国人に関しての人権問題の意識（問 22）	81
(6) ヘイトスピーチを伴うデモや集会などの認知（問 23）	84
(7) ヘイトスピーチを伴うデモや集会などの印象（問 24）	86
(8) インターネットによる人権侵害に関しての人権問題の意識（問 25）	89
(9) 性的マイノリティに関しての人権問題の意識（問 26）	92
(10) 「同性パートナーシップ宣誓証明制度」の今後の取組み（問 27）	95
2-5-5. 人権侵害について	
(1) 家族などが人権侵害を受けた際の対応（問 28）	97
2-5-6. 部落差別等の同和問題について	
(1) 部落差別等の同和問題を初めて知ったきっかけ（問 29）	100
(2) 部落差別等の同和問題に対する認知（問 30）	102
(3) 部落差別等の同和問題に対する意識（問 31）	105
(4) 部落差別等の同和問題を解消するための対応（問 32）	108
2-5-7. 自由意見	
(1) 人権問題や人権教育・啓発についての自由意見（問 33）	111
（参考） アンケート調査票	116

第1章 調査の概要

1-1. 調査目的

河内長野市における「住みよさ指標」と「人権意識」について、満18歳以上の市民2,000名へ意識調査を行うことにより、それぞれの市民意識を把握して今後の施策推進のための参考資料とすることを目的とします。

1-2. 調査方法

調査区域：河内長野市全域

調査対象：18歳以上の市民の中から2,000人を無作為抽出

調査時期：令和2年8月

調査方法：郵送による配布・回収

1-3. 調査内容

アンケート調査の内容は、以下の通りです。

■アンケート調査の項目

●属性 A 性別 B 年齢 C 家族構成 D 居住期間 E 小学校区 F 以前住んでいたところ G 職業	問15. 学校や職場、地域で経験した人権問題の学習分野 問16. ①結婚相手を考える際に気になること（回答者自身） ②結婚相手を考える際に気になること（回答者の子供） 問17. 家を買ったり借りたりする際に重視する立地条件 問18. 女性に関しての人権問題 問19. 子どもに関しての人権問題 問20. 高齢者に関しての人権問題の意識 問21. 障がい者に関しての人権問題の意識 問22. 日本に居住している外国人に関しての人権問題の意識 問23. ヘイトスピーチを伴うデモや集会などの認知 問24. ヘイトスピーチを伴うデモや集会などの印象 問25. インターネットによる人権侵害に関しての人権問題の意識 問26. 性的マイノリティに関しての人権問題の意識 問27. 「同性パートナーシップ宣誓証明制度」の今後の取り組み 問28. 家族などが人権侵害を受けた際の対応 問29. 部落差別等の同和問題を初めて知ったきっかけ 問30. 部落差別等の同和問題に対する認知 問31. 部落差別等の同和問題に対する意識 問32. 部落差別等の同和問題を解消するための対応 問33. 人権問題や人権教育・啓発についての自由意見
--	---

1-4. 配布・回収結果

配布・回収結果を示したものが下表です。

配布数 (A)	回収数	有効回収数 (B)	有効回収率 (B/A)
2,000	1,066	1,065	53.3%

1-5. 調査結果の見方

- ・回答結果の割合「%」は、小数点以下第2位を四捨五入したものです。このため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ形式）の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ・図表中の「無回答」とは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ・図表中の「n」（サンプル数）は有効標本数（集計対象者総数）、あるいは分類別の該当対象者数を示しています。
- ・文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。
- ・表中の網掛け（）は、選択肢の中で最も高い割合のものを示しています。
- ・文中の表現で、本年度実施した調査を**今回調査**又は**2020年度調査**といます。
- ・問11以降の**2015年度調査**とは2015年度「＜森林づくり＞と＜人権＞について」河内長野市民意識調査をいいます。
- ・問11以降の**大阪府調査**とは2015年度「人権問題に関する府民意識調査」をいいます。
- ・問11以降の**内閣府調査**とは2017年度「人権擁護に関する世論調査」をいいます。

第2章 アンケート調査結果

■調査結果の概要

(1) 河内長野市での定住意向について

- ・河内長野市での定住意向については、「ずっと今の場所で住みつづけたい」(42.4%)とする積極的な意見が約4割、“今のところ住みつづけるつもり”とする意見まで含めると約8割が定住意向を示しています。(問1)
- ・住みつづけたい理由では、「生まれ育ったまちだから」(87.5%)、「親せきや知人がいるから」(51.5%)が上位を占めており、一方で市外に移りたい理由では「買い物など日常生活に不便だから」(40.0%)、「通勤・通学に不便だから」(35.8%)が上位を占めています。(問2、問3)
- ・河内長野市に住みつづけるために必要なものについては、「老後も安心して暮らせる福祉サービスの充実」(46.9%)、「買い物などの日常生活の便利さの充実」(45.1%)が上位を占めています。(問4)

(2) 河内長野市の取組みについて

- ・市の取組みに対する『現在の満足度』『今後の重要度』について、上位3項目、下位3項目をまとめたものが下表です。

『満足度』では、自然や生活環境のよさを評価する意見が高く、『重要度』では消防・救急、防災、防犯といった安全・安心に係る意見が高くなっています。

■「現在の満足度」「今後の重要度」の上位・下位3項目

		1 位	2 位	3 位
満足度	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.46)	騒音・悪臭などの少なさ(3.35)	消防・救急(3.33)
	下位	商業地などの賑わい(2.25)	身近な場での働きやすさ(2.37)	バスなどの公共交通サービス(2.54)
重要度	上位	消防・救急(4.56)	防災(4.54)	防犯(4.51)
	下位	国際交流や多文化共生社会の推進(3.58)	文化芸術活動などの環境(3.64)	男女共同参画の推進(3.68)

(注)表中()内の数字は5点を満点とした時の加重平均を示す。

- ・さらに『満足度』と『重要度』のクロス分析で、下記の4区分を行い散布図を作成してみました。（報告書P29参照）。
- エリア「A」には、「福祉・社会保障」や「市街地・道路・交通整備」に関する分野が位置しており、『重要度』が高いものの『満足度』が低くなっていることから対応が求められています。
- エリア「B」の「安全・安心」「生活環境・景観・自然」に関する分野は、特に『重要度』『満足度』が高いことから、より強化が期待されるとともに本市の強みとなっています。
- 一方、エリア「D」の「文化・芸術・共生等」に関する分野は、『満足度』が平均付近に位置し『重要度』が低いことから、安定的な維持が期待されているといえます。（問5）

エリア	内容	項目
A 早急な対応が求められるエリア	満足度→低 重要度→高	5. 消費者行政／7. 高齢者にとっての暮らしやすさ／8. 障がい者にとっての暮らしやすさ／9. 社会保障制度／14. 青少年の健全な育成／26. 市街地の整備／29. 道路や橋などの交通網／30. バスなどの公共交通サービス／32. 商業地などの賑わい／35. 身近な場での働きやすさ／37. 行政改革への取り組み／38. 適正で透明性の高い財政運営
B より強化されることが期待されるエリア	満足度→高 重要度→高	1. 防災／2. 消防・救急／3. 防犯／4. 交通安全／11. 児童に対する福祉／12. 子育てのしやすさ／13. 小中学校の教育環境／22. 自然環境への配慮／23. リサイクル施策など循環型社会への取り組み／24. 騒音・悪臭などの少なさ／25. まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ／27. 住環境／31. 上下水道
C 他項目との優先順位を考え取り組むエリア	満足度→低 重要度→低	18. スポーツ施設や活動などの環境／33. 農林業の振興／34. 観光事業／36. 市民同士の連携や市民と行政の協働／40. 都市ブランドの創出・都市魅力の発信
D 安定的な維持が期待されるエリア	満足度→高 重要度→低	6. 地域の支え合い／10. 健康づくりを進める環境／15. 各種講座や施設など生涯学習の環境／16. 文化芸術活動などの環境／17. 歴史文化遺産の保存・活用／19. 人権の尊重と平和意識の高揚／20. 男女共同参画の推進／21. 国際交流や多文化共生社会の推進／28. 公園や緑地などの環境

- ・市の取り組みについて特に不満を感じている項目については、「商業地などの賑わい」（133件）、「バスなどの公共交通サービス」（114件）、「道路や橋などの交通網」（74件）（いずれも意見数）が上位3位となっています。（問6）
- ・地域やまちづくり活動の参加度については、「ほとんどない」（49.0%）が約半数となっています。（問7）
- ・河内長野市に対する感じ方として『地域のまちづくり活動が充実していると感じている』『河内長野市に住みつづけたいと感じている』『河内長野市に愛着と誇りを感じている』の3項目については、いずれも「普通」という意見が最も多く約3～4割となっています。（問8）

（3）災害に対する備えについて

- ・「非常食」や「水」の備蓄について、3日分以上備蓄しているのは、「非常食」では41.7%、「水」では44.5%といずれも4割強となっている一方で、「備蓄していない」はいずれも約3割となっており、家庭内備蓄の必要性を周知していく必要があります。
- また、生活用品（ラジオ、懐中電灯、毛布等）については、70.9%が備蓄しています。（問9）
- ・災害時の避難方法（場所）については、「在宅避難」（76.0%）が約3/4を占めている一方で、「近隣避難所へ避難」（16.3%）が2割弱となっています。過去に起きた大災害の知見から、安全な場所にいる人まで避難所に行く必要はないということが浸透してきていると考えられます。今後は、大規模災害発生時において、自宅避難者や車中泊の避難者に対する支援方法を具体的に検討することが必要です。（問10）

(4) 人権問題について

1) 人権問題全般について

- ・ 人権問題で関心のあるものについては、「インターネットによる人権侵害」(41.2%)、「子どもの人権問題」(32.1%)、「高齢者の人権問題」(30.7%)が上位を占めています。
2015年度調査と比較すると「インターネットによる人権問題」が8.8ポイント、「性的マイノリティの人権問題」が4.8ポイント増えていますが、全体的な傾向として、それぞれの人権問題に対する関心度は低く表れています。一方で「特にない」が11.2ポイント高くなっており、当事者意識に結びつく啓発等が必要です。(問11)
- ・ 差別に対する考え方の8項目について「そう思うか」「そう思わないか」についてたずねたところ、“思う”(「そう思う」+「ややそう思う」)が高い項目は『差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない』(91.6%)、『差別をなくすために、行政は努力する必要がある』(79.4%)、『差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である』(77.9%)となっています。一方、“思わない”(「あまり思わない」+「思わない」)が高い項目は『差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い』(50.6%)となっており、引き続き差別問題に関する啓発等が必要です。(問12)

2) 人権問題についての学習経験について

- ・ 人権問題についての学習経験については、「小学校で受けた」(45.9%)、「中学校で受けた」(41.0%)、「高校・高等専修学校で受けた」(28.3%)が上位を占めており、学校教育の中での学習割合が高くなっています。(問13)
- ・ 上記の経験のうち特に役立ったものについては、小学校や中学校で受けたもの以外に「職場の研修で受けたもの」(17.9%)が上位に入っています。(問14)
- ・ 学校、職場及び、地域で経験した人権問題についてのその学習分野については、「同和問題」(39.5%)、「障がい者の人権問題」(30.5%)、「女性の人権問題」(23.0%)が上位を占めています。
2015年度調査との比較では、学習分野の上位に大きな変化は見られないものの、「同和問題」が13.6ポイント低くなる一方、「インターネットによる人権侵害」や「性的マイノリティの人権問題」などが高くなっており、学習分野の多様化が進んでいるように見受けられます。(問15)

3) 人権問題についての考え

- ・ 結婚相手を考える際に気になることのうち回答者自身については、「人柄、性格」(87.5%)、「趣味や価値観」(51.5%)、「経済力」(37.9%)が上位を占めています。
2015年度調査との比較では、人権に深く係る「同和地区出身者かどうか」「国籍・民族」などの割合が低くなっており、忌避意識の解消につながっているように見受けられますが、依然として気になる回答される人が一定数います。
また、回答者の子供についても、「同和地区出身者かどうか」「国籍・民族」などが気になるとする回答が一定数あり、その回答数は自身の時よりも多くなる傾向が見受けられます。(問16)
- ・ 家を買ったり借りたりする際に重視する立地条件については、「都心部、最寄り駅や幹線道路へのアクセス」(61.8%)、「公共施設や商業、医療施設、公園や緑地などの状況」(58.9%)、「日照・眺望など」(47.3%)が上位を占めています。(問17)

4) さまざまな人権問題について

- ・女性に関しての人権問題については、「セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)」(48.2%)、「痴漢やストーカーなどの性的暴力」(44.1%)、「男女の固定的な役割分担意識(「家事は女性」等)に基づく差別的取扱いを受けること」(42.4%)が上位を占めています。
2015年度調査との比較では、全体的に低くなる傾向が表れていますが、「男女の固定的な役割分担意識(「家事は女性」等)に基づく差別的取扱いを受けること」については高くなっています。(問18)
- ・子どもに関しての人権問題については、「いじめを受けること」(71.6%)、「携帯電話・スマートフォン・SNS等での仲間はずれや無視があったり、犯罪に巻き込まれたりすること」(64.1%)、「虐待(身体的・心理的・性的・経済的虐待または子育ての放棄等)を受けること」(62.3%)が上位を占めており、2015年度調査との比較でも同様の傾向が見受けられます。(問19)
- ・高齢者に関しての人権問題については、「悪徳商法の被害が多いこと」(57.9%)、「働く能力を発揮する機会が少ないこと」(35.1%)、「病院での看護や養護施設において劣悪な処遇や虐待を受けること」(33.0%)が上位を占めており、2015年度調査との比較でも同様の傾向が見受けられます。(問20)
- ・障がい者に関しての人権問題については、「就職・職場で不利な扱いを受けること」(48.8%)、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」(44.9%)、「差別的な言動をされること」(41.0%)が上位を占めており、2015年度調査との比較でも同様の傾向が見受けられます。(問21)
- ・日本に居住している外国人に関しての人権問題については、「就職・職場で不利な扱いを受けること」(36.9%)、「風習や習慣等の違いが受け入れられないこと」(30.3%)、「差別的な言動をされること」(26.6%)が上位を占めています。
2015年度調査との比較では、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」「就職・職場で不利な扱いを受けること」「差別的な言動をされること」が高くなっている一方、「風習や習慣等の違いが受け入れられないこと」では低くなっています。(問22)
- ・ヘイトスピーチを伴うデモや集会などの認知については、「知らない」(48.4%)と「知っている」(46.5%)となっており、内閣府調査と比較すると、「知っている」の割合が10.9ポイント低くなっています。(問23)
- ・「知っている」回答者のヘイトスピーチを伴うデモや集会などの印象については、「不愉快で許せないと思った」(50.3%)、「日本に対する印象が悪くなると思った」(41.2%)が上位を占めており、内閣府調査と比較すると、「わからない」が5.4ポイント高くなっている一方、「表現の自由」の範囲内のものだと思った」が7.9ポイント低くなっています。(問24)
- ・インターネットによる人権侵害に関しての人権問題については、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」(78.0%)、「ラインやツイッターなどによる交流が犯罪を誘発する場となっていること」(52.0%)、「プライバシーに関する情報が掲載されること」(50.5%)が上位を占めています。
2015年度調査との比較では、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」と「他人に差別をしようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような情報が掲載されること」が高くなっている一方、他の項目では低くなっています。(問25)
- ・性別マイノリティに関しての人権問題については、「差別的な言動をされること」(41.0%)、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」(36.9%)、「わからない」(36.8%)が上位を占めています。

2015 年度調査との比較では、全体的に高くなる傾向が表れていますが、特に、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」「就職・職場で不利な扱いを受けること」「差別的な言動をされること」などが高くなっています。(問 26)

- ・「同性パートナーシップ宣誓証明制度」の今後の取組みについては、「わからない」(36.7%)、「証明制度が必要なくなるよう、国において、同性婚等の法制度を進めていく」(30.4%)、「大阪府の証明制度を活用し、河内長野市における支援の取組みを広げていく」(25.7%)が上位を占めています。(問 27)

5) 人権侵害について

- ・家族などが人権侵害を受けた際の対応については、「身近な人(家族や友人、教師など)に相談する」(45.4%)、「弁護士に相談する」(37.7%)、「人権問題に詳しい人に相談する」(36.1%)が上位を占めています。

2015 年度調査との比較では、「我慢する」「相手に抗議する」「身近な人(家族や友人、教師など)に相談する」が低くなっていますが他の項目では高くなっています。(問 28)

6) 部落差別等の同和問題について

- ・部落差別等の同和問題について初めて知ったきっかけについては「学校の授業で教わった」(37.7%)、「父母や家族から聞いた」(18.0%)、「なんとなく知っている」(9.9%)が上位を占めています。

2015 年度調査との比較では、「父母や家族から聞いた」「学校の授業で教わった」が低くなっています。(問 29)

- ・同和問題に関しての人権問題発生の認知については、「結婚問題で周囲の反対を受けること」(53.0%)、「就職・職場で不利な扱いを受けること」(30.0%)、「身元調査をされること」(29.8%)が上位を占めています。

内閣府調査との比較では、全体的に同様の傾向が見受けられますが、「結婚問題で周囲の反対を受けること」と「わからない」が高く表れています。(問 30)

- ・同和問題が存在する理由については、「昔からある偏見や差別意識を、そのまま受け入れる人が多いから」(56.5%)、「部落差別の知識がなかったり、無関心だったりする人がいるから」(33.6%)、「同和地区の住民が行政から優遇されていると思う人が多いから」(22.9%)が上位を占めており、内閣府調査との比較でも同様の傾向が見受けられます。(問 31)
- ・同和問題を解消するための対応については、「人権尊重の意識を一人ひとりがもっと自覚すべき」(50.6%)、「行政がもっと積極的に教育・啓発、相談体制の充実などの施策を講ずべき」(24.3%)、「インターネットにおける差別的な書込みをする人を処罰すべき」(19.7%)が上位を占めています。

内閣府調査との比較では、「インターネットにおける差別的な書込みをする人を処罰すべき」「えせ同和行為をする人を処罰すべき」が高くなっている一方、「行政がもっと積極的に教育・啓発、相談体制の充実などの施策を講ずべき」が低くなっています。(問 32)

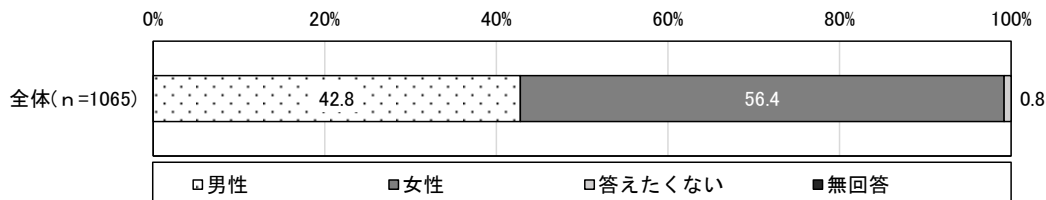
2-1. 属性

A 性別

A 性別をおたずねします。(自認する性別の番号に○は1つだけ)

性別は「男性」が42.8%、「女性」が56.4%、「答えたくない」が0.8%となっています。

■性別（単数回答／全体）

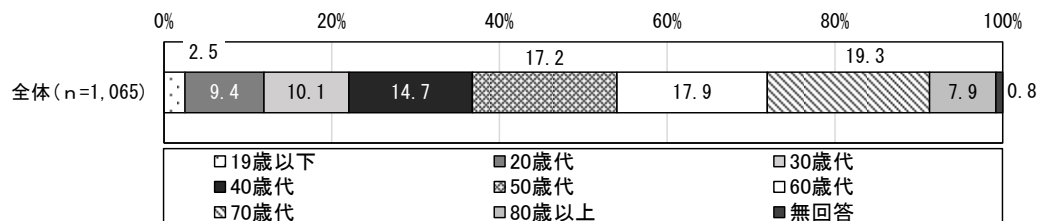


B 年齢

B 年齢をおたずねします。() 内に数字を記載してください。

年齢は「70歳代」が19.3%と最も高く、次いで「60歳代」が17.9%、「50歳代」が17.2%となっています。

■年齢（単数回答／全体）

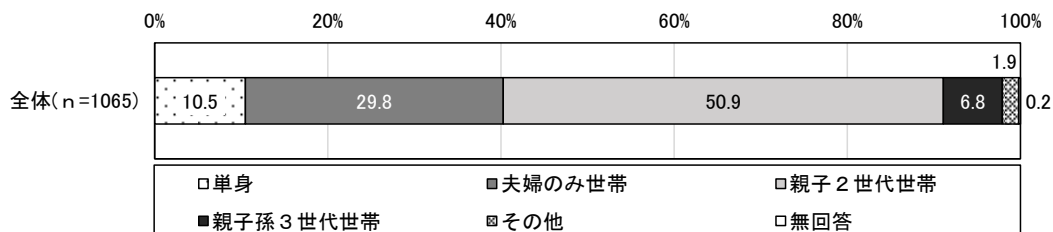


C 家族構成

C あなたの家族構成はどれですか。(○は1つだけ)

家族構成は「親子2世代世帯」が50.9%と最も高く、次いで「夫婦のみ世帯」が29.8%、「単身」が10.5%となっています。

■家族構成（単数回答／全体）

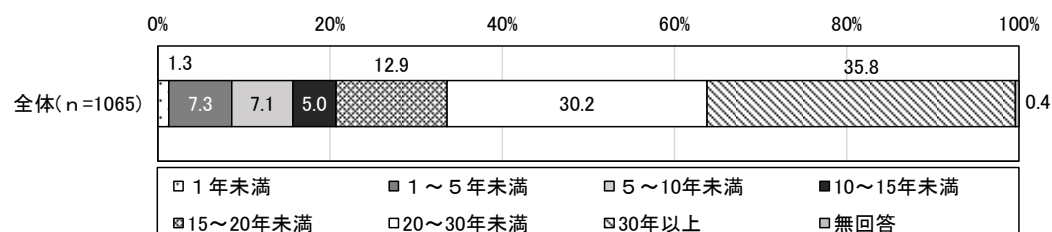


D 居住期間

D あなたは、どのくらいの期間、河内長野市にお住まいですか？（○は1つだけ）

居住年数は「30年以上」が35.8%と最も高く、次いで「20～30年未満」が30.2%、「15～20年未満」が12.9%となっています。

■居住期間（単数回答／全体）



年代別にみると、『19歳以下』では「15～20年未満」が、『20歳代』『50歳代』では「20～30年未満」が、『30歳代』では「1～5年未満」が、『40歳代』、60歳代以上では「30年以上」がそれぞれ最も高くなっています。

■居住期間（複数回答／年代別）

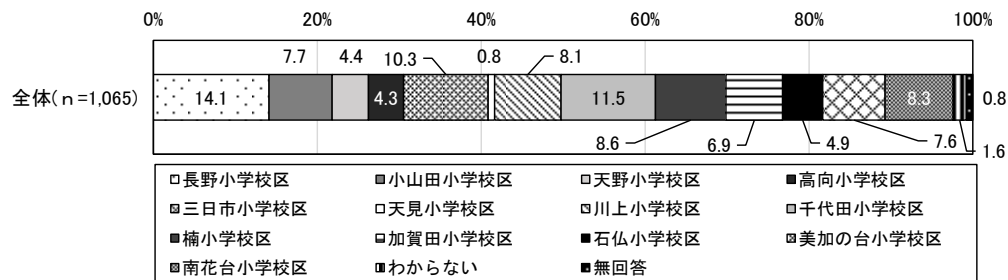
	n 数	1 年 未 満	1 ～ 5 年 未 満	5 ～ 1 0 年 未 満	1 0 ～ 1 5 年 未 満	1 5 ～ 2 0 年 未 満	2 0 ～ 3 0 年 未 満	3 0 年 以 上	無 回 答
全 体	100.0 1,065	1.3 14	7.3 78	7.1 76	5.0 53	12.9 137	30.2 322	35.8 381	0.4 4
性別									
19歳以下	100.0 27	3.7 1	3.7 1	— —	3.7 1	88.9 24	— —	— —	— —
20歳代	100.0 100	3.0 3	5.0 5	3.0 3	3.0 3	16.0 16	70.0 70	— —	— —
30歳代	100.0 108	2.8 3	28.7 31	19.4 21	9.3 10	8.3 9	14.8 16	15.7 17	0.9 1
40歳代	100.0 157	2.5 4	8.9 14	12.7 20	7.6 12	19.1 30	22.3 35	26.8 42	— —
50歳代	100.0 183	0.5 1	6.0 11	7.7 14	4.9 9	12.6 23	38.3 70	30.1 55	— —
60歳代	100.0 191	— —	4.2 8	4.2 8	3.7 7	7.3 14	38.7 74	41.9 80	— —
70歳代	100.0 206	0.5 1	2.9 6	3.4 7	2.4 5	7.3 15	20.9 43	61.7 127	1.0 2
80歳以上	100.0 84	— —	2.4 2	3.6 3	6.0 5	4.8 4	13.1 11	70.2 59	— —
無回答	100.0 9	11.1 1	— —	— —	11.1 1	22.2 2	33.3 3	11.1 1	11.1 1

E 小学校区

E あなたは、現在どこ（小学校区）に住んでおられますか？（○は1つだけ）

住まいの小学校区は、「長野小学校区」が14.1%と最も高く、次いで「千代田小学校区」が11.5%、「三日市小学校区」が10.3%となっています。

■小学校区（単数回答／全体）



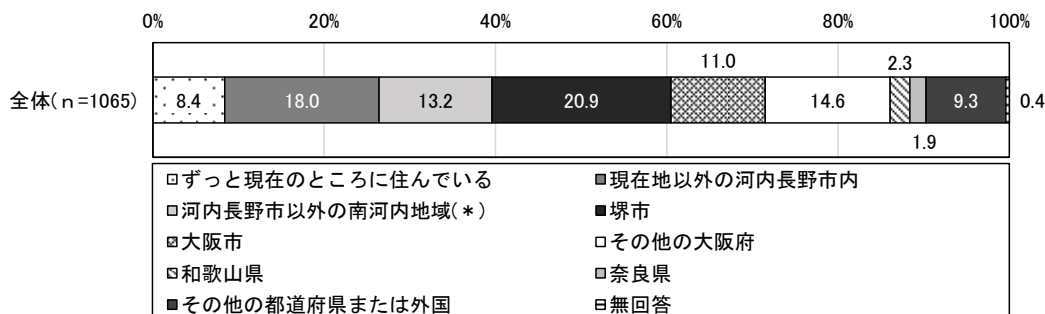
	全体	長野小学校区	小山田小学校区	天野小学校区	高向小学校区	三日市小学校区	天見小学校区	川上小学校区	千代田小学校区	楠小学校区	加賀田小学校区	石仏小学校区	美加の台小学校区	南花台小学校区	わからない	無回答
件数	1,065	150	82	47	46	110	9	86	122	92	74	52	81	88	17	9
%	100.0	14.1	7.7	4.4	4.3	10.3	0.8	8.1	11.5	8.6	6.9	4.9	7.6	8.3	1.6	0.8

F 以前住んでいたところ

F あなたは、現在のお住まいに来られる以前はどこに住んでおられましたか？

以前の居住地は、「堺市」が20.9%と最も高く、次いで「現在地以外の河内長野市内」が18.0%、「その他の大阪府」が14.6%となっています。

■以前住んでいたところ（単数回答／全体）



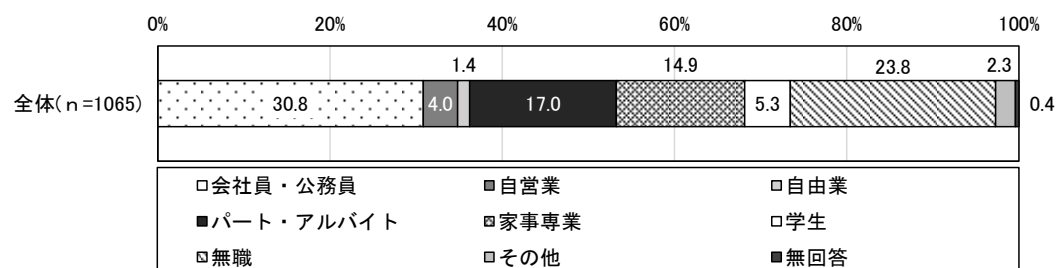
(*) 富田林市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村

G 職業

G あなたの職業は何ですか。(○は1つだけ)

職業は、「会社員・公務員」が30.8%と最も高く、次いで「無職」が23.8%、「パート・アルバイト」が17.0%となっています。

■職業（単数回答／全体）



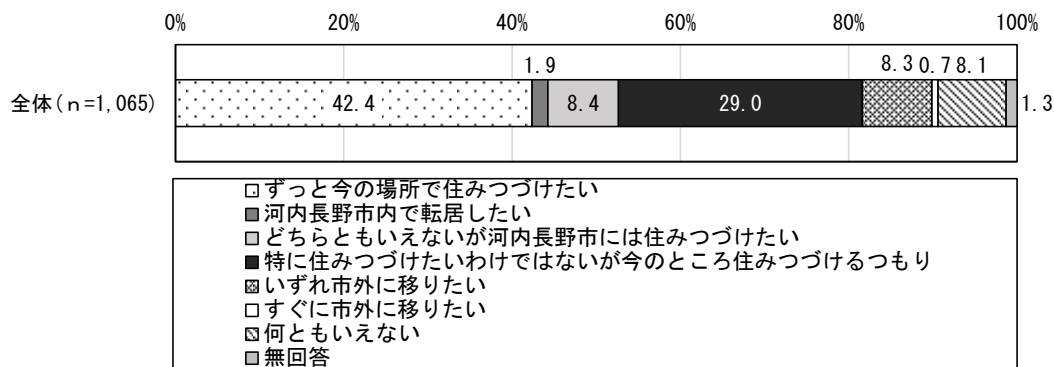
2-2. 河内長野市での定住意向について

(1) 市での定住意向

問1 あなたは、これからも河内長野市に住みつづけたいと思いますか？
(○は1つだけ)

市での定住意向についてみると、「ずっと今の場所で住みつづけたい」が42.4%と最も高く、次いで「特に住みつづけたいわけではないが今のところ住みつづけるつもり」が29.0%、「どちらともいえないが河内長野市には住みつづけたい」が8.4%となっています。

■市での定住意向（単数回答／全体）



性別にみると、『男性』『女性』ともに「ずっと今の場所で住みつづけたい」がそれぞれ45.8%、40.3%と最も高くなっています。

年代別にみると、『19歳以下』で「いずれ市外に移りたい」が37.0%、『20歳代』で「特に住みつづけたいわけではないが今のところ住みつづけるつもり」が28.0%、『30歳代』で「ずっと今の場所で住みつづけたい」「特に住みつづけたいわけではないが今のところ住みつづけるつもり」がいずれも33.3%、『30歳代』から『80歳以上』で「ずっと今の場所で住みつづけたい」が最も高くなっています。

小学校別にみると、ほとんどの小学校区で「ずっと今の場所で住みつづけたい」が最も高くなっています。

■市での定住意向（複数回答／性別、年代別、小学校区別）

	n 数	ず つ と 今 の 場 所 で 住 み つ づ け たい	河 内 長 野 市 内 で 転 居 し た い	河 内 長 野 市 に は 住 み 続 け た い	特 に 住 み つ づ け た い わ け で は な い が 、 今 の と こ ろ 住 み つ づ ける つ も り	い ず れ 市 外 に 移 り た い	す ぐ に 市 外 に 移 り た い	何 と も い え な い	無 回 答
全 体	100.0 1,065	42.4 452	1.9 20	8.4 89	29.0 309	8.3 88	0.7 7	8.1 86	1.3 14

性別

男性	100.0 456	45.8 209	0.9 4	7.7 35	28.5 130	8.1 37	0.2 1	7.7 35	1.1 5
女性	100.0 601	40.3 242	2.7 16	8.8 53	29.1 175	8.5 51	1.0 6	8.2 49	1.5 9
答えたくない	100.0 8	12.5 1	—	12.5 1	50.0 4	—	—	25.0 2	—
無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—

年代別

19歳以下	100.0 27	3.7 1	—	11.1 3	29.6 8	37.0 10	—	18.5 5	—
20代	100.0 100	18.0 18	4.0 4	10.0 10	28.0 28	22.0 22	2.0 2	16.0 16	—
30代	100.0 108	33.3 36	8.3 9	5.6 6	33.3 36	7.4 8	1.9 2	8.3 9	1.9 2
40代	100.0 157	37.6 59	0.6 1	7.6 12	32.5 51	10.2 16	0.6 1	8.9 14	1.9 3
50代	100.0 183	37.2 68	1.1 2	10.9 20	34.4 63	5.5 10	0.5 1	9.3 17	1.1 2
60代	100.0 191	46.6 89	0.5 1	8.4 16	31.9 61	5.2 10	0.5 1	6.8 13	—
70代	100.0 206	60.7 125	1.5 3	7.8 16	18.4 38	3.9 8	—	5.3 11	2.4 5
80歳以上	100.0 84	64.3 54	—	6.0 5	23.8 20	3.6 3	—	—	2.4 2
無回答	100.0 9	22.2 2	—	11.1 1	44.4 4	11.1 1	—	11.1 1	—

小学校区

小学校区	n 数	た い ず つ と 今 の 場 所 で 住 み つ づ け	河 内 長 野 市 内 で 転 居 し た い	河 内 長 野 市 に は 住 み 続 け た い	特 に 住 み つ づ け た い わ け で は な い が、 今 の と こ ろ 住 み つ づ け る つ も り	い ず れ 市 外 に 移 り た い	す ぐ に 市 外 に 移 り た い	何 と も い え な い	無 回 答
長野小学校	100.0 150	43.3 65	5.3 8	7.3 11	31.3 47	4.7 7	-	6.7 10	1.3 2
小山田小学校	100.0 82	42.7 35	3.7 3	14.6 12	24.4 20	6.1 5	2.4 2	4.9 4	1.2 1
天野小学校区	100.0 47	40.4 19	-	8.5 4	21.3 10	12.8 6	2.1 1	12.8 6	2.1 1
高向小学校区	100.0 46	58.7 27	2.2 1	8.7 4	10.9 5	13.0 6	-	4.3 2	2.2 1
三田市小学校区	100.0 110	46.4 51	1.8 2	7.3 8	25.5 28	7.3 8	-	10.9 12	0.9 1
天見小学校区	100.0 9	66.7 6	-	11.1 1	22.2 2	-	-	-	-
川上小学校区	100.0 86	54.7 47	2.3 2	7.0 6	20.9 18	5.8 5	-	8.1 7	1.2 1
千代田小学校区	100.0 122	29.5 36	0.8 1	9.8 12	38.5 47	11.5 14	-	9.8 12	-
楠小学校区	100.0 92	39.1 36	1.1 1	5.4 5	38.0 35	6.5 6	1.1 1	6.5 6	2.2 2
加賀田小学校区	100.0 74	33.8 25	-	8.1 6	28.4 21	13.5 10	1.4 1	14.9 11	-
石仏小学校区	100.0 52	46.2 24	1.9 1	9.6 5	28.8 15	3.8 2	-	5.8 3	3.8 2
美加の台小学校区	100.0 81	33.3 27	-	7.4 6	37.0 30	9.9 8	1.2 1	8.6 7	2.5 2
南花台小学校区	100.0 88	47.7 42	1.1 1	9.1 8	27.3 24	10.2 9	1.1 1	3.4 3	-
わからない	100.0 17	52.9 9	-	5.9 1	23.5 4	5.9 1	-	11.8 2	-
無回答	100.0 9	33.3 3	-	-	33.3 3	11.1 1	-	11.1 1	11.1 1

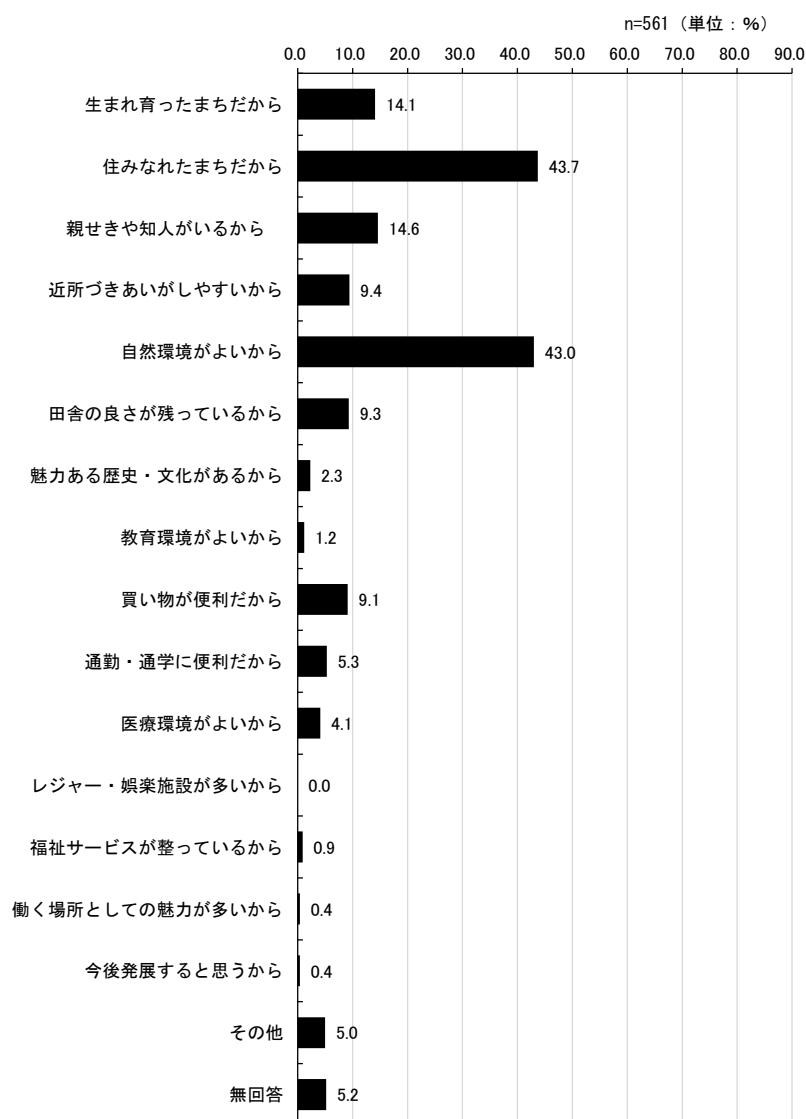
(2) 住みつづけたい理由

(問1で「1. ずっと今の場所で住みつづけたい」「2. 河内長野市内で転居したい」「3. 1. 2. のどちらともいえないが河内長野市には住みつづけたい」と答えられた方におたずねします。)

問2 住みつづけたい理由は何ですか。(〇は2つまで)

住みつづけたい理由についてみると、「住みなれたまちだから」が43.7%と最も高く、次いで「自然環境がよいから」が43.0%、「親せきや知人がいるから」が14.6%となっています。

■住みつづけたい理由（複数回答／全体）



性別にみると、『男性』で「住みなれたまちだから」が42.7%、『女性』で「住みなれたまちだから」「自然環境がよいから」がいずれも44.1%と最も高くなっています。

年代別にみると、『19歳以下』から『30歳代』、及び『50歳代』、『60歳代』で「住みなれたまちだから」が、『40歳代』、及び『70歳代』、『80歳以上』で「自然環境がよいから」が最も高くなっています。

■住みつづけたい理由（複数回答／性別、年代別）

	n 数	生 ま れ 育 つ た ま ち だ か ら	住 み な れ た ま ち だ か ら	親 せ き や 知 人 が い る か ら	か ら 近 所 づ き あ い が し や す い	自 然 環 境 が よ い か ら	田 舎 の 良 さ が 残 つ て い る	魅 力 あ る 歴 史 ・ 文 化 が あ る	教 育 環 境 が よ い か ら	買 い 物 が 便 利 だ か ら	通 勤 ・ 通 学 に 便 利 だ か ら	医 療 環 境 が よ い か ら	レ ジ ヤ ー ・ 娯 楽 施 設 が 多 い か ら	福 祉 サ ー ビ ス が 整 つ て い る	働 く 場 所 と し て の 魅 力 が 多 い	今 後 発 展 す る と 思 う か ら	そ の 他	無 回 答
全 体	100.0 561	14.1 79	43.7 245	14.6 82	9.4 53	43.0 241	9.3 52	2.3 13	1.2 7	9.1 51	5.3 30	4.1 23	- -	0.9 5	0.4 2	0.4 2	5.0 28	5.2 29
性別																		
男性	100.0 248	14.1 35	42.7 106	11.7 29	7.3 18	41.9 104	8.9 22	2.8 7	0.8 2	10.1 25	5.6 14	4.4 11	- -	1.2 3	- -	0.4 1	6.9 17	5.6 14
女性	100.0 311	13.8 43	44.1 137	17.0 53	11.3 35	44.1 137	9.6 30	1.9 6	1.3 4	8.4 26	5.1 16	3.9 12	- -	0.6 2	0.6 2	0.3 1	3.5 11	4.8 15
答えたくない	100.0 2	50.0 1	100.0 2	- -	- -	- -	- -	- -	50.0 1	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
無回答	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
年代別																		
19歳以下	100.0 4	50.0 2	75.0 3	- -	25.0 1	- -	- -	- -	- -	- -	25.0 1	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
20代	100.0 32	37.5 12	50.0 16	25.0 8	3.1 1	21.9 7	9.4 3	3.1 1	3.1 1	- -	6.3 2	- -	- -	- -	- -	- -	3.1 1	6.3 2
30代	100.0 51	13.7 7	33.3 17	31.4 16	5.9 3	31.4 16	15.7 8	2.0 1	5.9 3	- -	11.8 6	- -	- -	- -	- -	2.0 1	11.8 6	7.8 4
40代	100.0 72	23.6 17	26.4 19	19.4 14	8.3 6	33.3 24	13.9 10	- -	1.4 1	9.7 7	8.3 6	1.4 1	- -	- -	- -	- -	11.1 8	4.2 3
50代	100.0 90	17.8 16	48.9 44	15.6 14	8.9 8	33.3 30	8.9 8	3.3 3	1.1 1	11.1 10	7.8 7	2.2 2	- -	- -	2.2 2	- -	3.3 3	5.6 5
60代	100.0 106	8.5 9	52.8 56	6.6 7	8.5 9	43.4 46	10.4 11	- -	- -	12.3 13	5.7 6	6.6 7	- -	- -	- -	- -	3.8 4	6.6 7
70代	100.0 144	6.3 9	47.9 69	13.9 20	10.4 15	59.0 85	5.6 8	4.2 6	- -	10.4 15	1.4 2	4.9 7	- -	2.1 3	- -	0.7 1	4.2 6	3.5 5
80歳以上	100.0 59	11.9 7	33.9 20	3.4 2	16.9 10	52.5 31	6.8 4	3.4 2	1.7 1	10.2 6	- -	10.2 6	- -	3.4 2	- -	- -	- -	5.1 3
無回答	100.0 3	- -	33.3 1	33.3 1	- -	66.7 2	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -

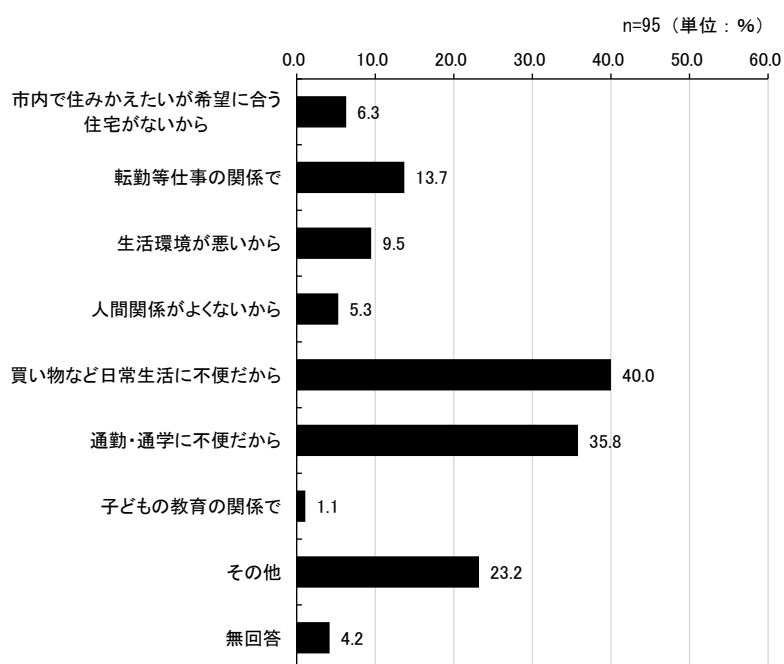
(3) 市外に移りたい理由

(問1で「5. いずれ市外に移りたい」「6. すぐに市外に移りたい」と答えられた方におたずねします。)

問3 市外に移りたい理由は何ですか。(〇は2つまで)

市外に移りたい理由についてみると、「買い物など日常生活に不便だから」が40.0%と最も高く、次いで「通勤・通学に不便だから」が35.8%、「その他」が23.2%となっています。

■市外に移りたい理由（複数回答／全体）



性別にみると、『男性』で「その他」が31.6%、『女性』で「買い物など日常生活に不便だから」が49.1%とそれぞれ最も高くなっています。

年代別にみると、『19歳以下』から『40歳代』で「通勤・通学に不便だから」が、『60歳代』から『80歳以上』で「買い物など日常生活に不便だから」が最も高くなっています。

小学校区別にみると、ほとんどの小学校区で「買い物など日常生活に不便だから」または「通勤・通学に不便だから」が最も高くなっています。

■市外に移りたい理由（複数回答／性別、年代別、小学校区別）

	n 数	望市 内に 合う 住宅 が ない から 希	転 勤 等 仕 事 の 関 係 で	生 活 環 境 が 悪 い か ら	人 間 関 係 が よ く な い か ら	買 い 物 な ど 日 常 生 活 に 不 便 だ か ら	通 勤 ・ 通 学 に 不 便 だ か ら	子 ど も の 教 育 の 関 係 で	そ の 他	無 回 答
全 体	100.0 95	6.3 6	13.7 13	9.5 9	5.3 5	40.0 38	35.8 34	1.1 1	23.2 22	4.2 4
性別										
男性	100.0 38	5.3 2	13.2 5	7.9 3	7.9 3	26.3 10	28.9 11	-	31.6 12	2.6 1
女性	100.0 57	7.0 4	14.0 8	10.5 6	3.5 2	49.1 28	40.4 23	1.8 1	17.5 10	5.3 3
答えたくない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年代別										
19歳以下	100.0 10	-	10.0 1	-	-	30.0 3	50.0 5	-	30.0 3	-
20歳代	100.0 24	8.3 2	29.2 7	8.3 2	-	37.5 9	45.8 11	-	8.3 2	4.2 1
30歳代	100.0 10	10.0 1	20.0 2	10.0 1	10.0 1	20.0 2	50.0 5	10.0 1	10.0 1	-
40歳代	100.0 17	-	-	23.5 4	5.9 1	41.2 7	52.9 9	-	29.4 5	-
50歳代	100.0 11	-	9.1 1	-	-	45.5 5	27.3 3	-	54.5 6	9.1 1
60歳代	100.0 11	9.1 1	18.2 2	9.1 1	-	36.4 4	9.1 1	-	27.3 3	9.1 1
70歳代	100.0 8	12.5 1	-	-	25.0 2	75.0 6	-	-	25.0 2	-
80歳以上	100.0 3	33.3 1	-	-	-	66.7 2	-	-	-	33.3 1
無回答	100.0 1	-	-	100.0 1	100.0 1	-	-	-	-	-

小学校区

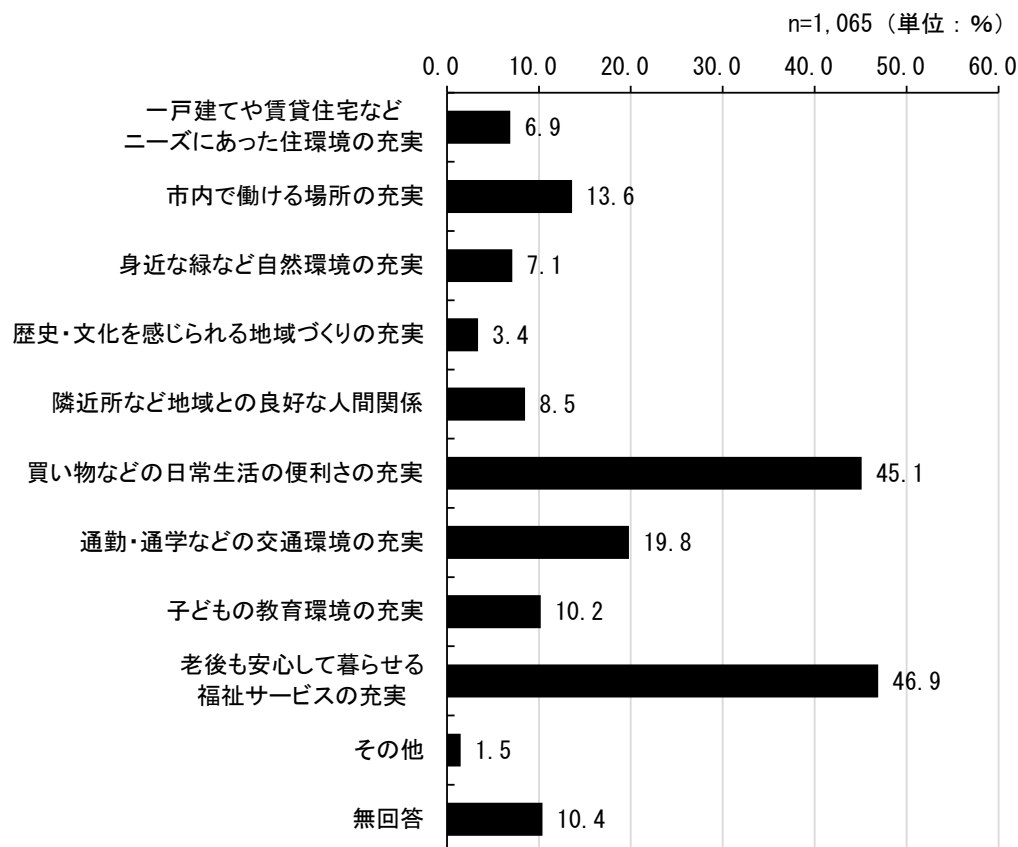
	n 数	市内で 住みか えたい が希	転勤 等仕事 の関係 で	生活 環境が 悪いから	人間 関係が よくない から	買い物 など日 常生活 に不便 だから	通勤・ 通学に 不便だ から	子ども の教育 の関係 で	その他	無回 答
長野小学校	100.0 7	28.6 2	28.6 2	14.3 1	- -	42.9 3	14.3 1	- -	14.3 1	- -
小山田小学校	100.0 7	14.3 1	14.3 1	42.9 3	28.6 2	28.6 2	42.9 3	- -	14.3 1	- -
天野小学校区	100.0 7	- -	- -	- -	14.3 1	57.1 4	14.3 1	- -	14.3 1	28.6 2
高向小学校区	100.0 6	16.7 1	16.7 1	16.7 1	- -	50.0 3	33.3 2	- -	16.7 1	16.7 1
三日市小学校区	100.0 8	12.5 1	25.0 2	12.5 1	- -	37.5 3	37.5 3	- -	12.5 1	- -
天見小学校区	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
川上小学校区	100.0 5	- -	20.0 1	- -	- -	40.0 2	40.0 2	- -	40.0 2	- -
千代田小学校区	100.0 14	- -	7.1 1	- -	7.1 1	35.7 5	35.7 5	- -	50.0 7	- -
楠小学校区	100.0 7	- -	14.3 1	14.3 1	- -	- -	42.9 3	14.3 1	14.3 1	14.3 1
加賀田小学校区	100.0 11	- -	9.1 1	- -	- -	54.5 6	45.5 5	- -	27.3 3	- -
石仏小学校区	100.0 2	50.0 1	- -	- -	- -	50.0 1	50.0 1	- -	- -	- -
美加の台小学校区	100.0 9	- -	22.2 2	11.1 1	11.1 1	55.6 5	11.1 1	- -	22.2 2	- -
南花台小学校区	100.0 10	- -	10.0 1	10.0 1	- -	30.0 3	50.0 5	- -	20.0 2	- -
わからない	100.0 1	- -	- -	- -	- -	- -	100.0 1	- -	- -	- -
無回答	100.0 1	- -	- -	- -	- -	100.0 1	100.0 1	- -	- -	- -

(4) 市に住みつづけるために必要なもの

問4 これからも河内長野市に住みつづけるためには、どんなことが必要だと思いますか？（○は2つまで）

市に住みつづけるために必要なものについてみると、「老後も安心して暮らせる福祉サービスの充実」が46.9%と最も高く、次いで「買い物などの日常生活の便利さの充実」が45.1%、「通勤・通学などの交通環境の充実」が19.8%となっています。

■市に住みつづけるために必要なもの（複数回答／全体）



年代別にみると、『19 歳以下』で「通勤・通学などの交通環境の充実」が、『20 歳代』から『40 歳代』で「買い物などの日常生活の便利さの充実」が、『50 歳代』から『80 歳以上』で「老後も安心して暮らせる福祉サービスの充実」が最も高くなっています。

■市に住みつづけるために必要なもの（複数回答／年代別）

	n 数	充二一 実ー戸 建ズに あつた 賃貸住 宅など	市内で 働ける 場所の 充実	充身 実近 な緑 など 自然 環境の	歴地 域史・ 文化を 感じる の充実	な隣 人近 所等 地域 との良 好関係	便買 い物 などの 日常 生活の 充実	境通 勤・通 学など の交通 環境の 充実	子ど もの 教育 環境の 充実	福老 祉後 サー ビス の安心 して暮 らせる 充実	そ の他	無 回 答
全 体	100.0 1,065	6.9 74	13.6 145	7.1 76	3.4 36	8.5 90	45.1 480	19.8 211	10.2 109	46.9 499	1.5 16	10.4 111
年代別												
19歳以下	100.0 27	14.8 4	29.6 8	3.7 1	— —	7.4 2	25.9 7	55.6 15	— —	— —	3.7 1	14.8 4
20歳代	100.0 100	18.0 18	22.0 22	6.0 6	2.0 2	2.0 2	41.0 41	37.0 37	13.0 13	13.0 13	2.0 2	16.0 16
30歳代	100.0 108	8.3 9	15.7 17	4.6 5	4.6 5	6.5 7	38.9 42	26.9 29	34.3 37	25.0 27	0.9 1	11.1 12
40歳代	100.0 157	3.8 6	20.4 32	2.5 4	1.9 3	7.6 12	41.4 65	29.3 46	19.7 31	35.0 55	2.5 4	10.8 17
50歳代	100.0 183	5.5 10	18.6 34	4.9 9	1.6 3	9.3 17	47.5 87	24.0 44	5.5 10	50.3 92	0.5 1	10.4 19
60歳代	100.0 191	6.8 13	9.9 19	5.8 11	3.7 7	8.4 16	43.5 83	12.0 23	7.3 14	66.0 126	1.6 3	7.9 15
70歳代	100.0 206	2.9 6	4.4 9	15.0 31	5.3 11	10.2 21	56.3 116	3.9 8	1.5 3	63.6 131	1.0 2	7.8 16
80歳以上	100.0 84	8.3 7	2.4 2	10.7 9	6.0 5	15.5 13	42.9 36	8.3 7	— —	61.9 52	2.4 2	11.9 10
無回答	100.0 9	11.1 1	22.2 2	— —	— —	— —	33.3 3	22.2 2	11.1 1	33.3 3	— —	22.2 2

2-3. 河内長野市の取組みについて

(1) 市の取組みに対する満足度・重要度

問5 次の1から41の各項目について、①現在の生活の中でどの程度満足していますか。また、②今後に向けてどの程度重要だと思いますか。各項目の①および②のそれぞれについて、お考えに近い番号に○をつけてください。(①、②それぞれについて○は1つだけ)

<調査内容>

41の項目に対して、「現在の満足度」「今後の重要度」の2つのポイントを軸に回答をいただきました。

<分析方法>

「現在の満足度」の点数化については、「非常に満足」＝5点、「やや満足」＝4点、「普通」＝3点、「やや不満」＝2点、「不満」＝1点として、「わからない」「無回答」を除いた件数で計算したものです。

「今後の重要度」の点数化については、「非常に重要」＝5点、「やや重要」＝4点、「あまり重要でない」＝2点、「重要でない」＝1点として、「わからない」「無回答」を除いた件数で計算したものです。

市の取組みやサービスの分野39項目について、上記の基準で点数化し、グラフ化及び散布図化することで分析しています。

[現在の満足度／今後の重要度]のクロス分析

「現在の満足度」の平均は2.96、「今後の重要度」の平均は4.15となっています。

「現在の満足度」の高い項目は「まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ」「騒音・悪臭などの少なさ」「消防・救急」、今後の重要度の高い項目は「消防・救急」「防災」「防犯」となっています。

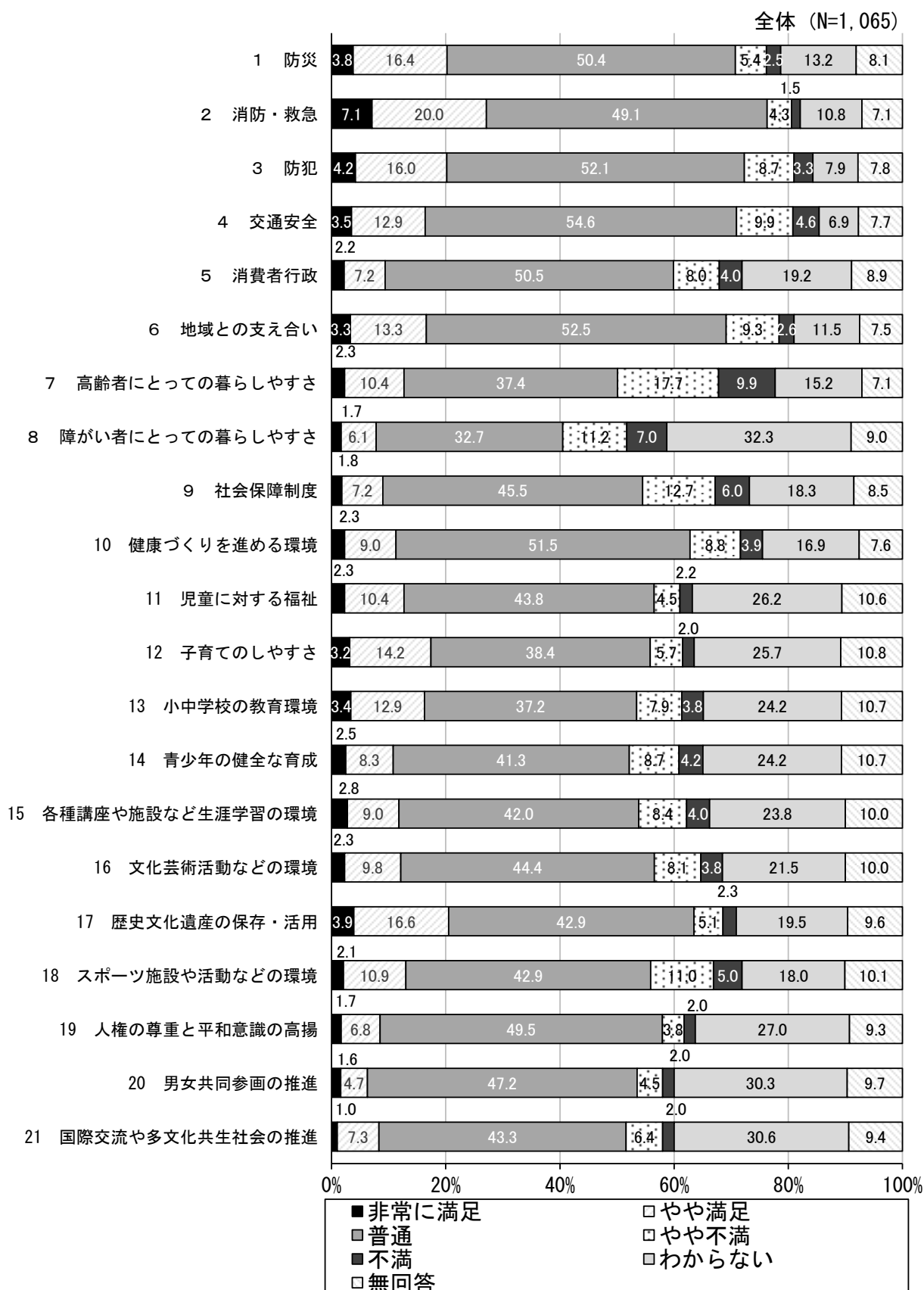
<「現在の満足度」「今後の重要度」の上位・下位3項目>

		1位	2位	3位
満足度	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.46)	騒音・悪臭などの少なさ(3.35)	消防・救急(3.33)
	下位	商業地などの賑わい(2.25)	身近な場での働きやすさ(2.37)	バスなどの公共交通サービス(2.54)
重要度	上位	消防・救急(4.56)	防災(4.54)	防犯(4.51)
	下位	国際交流や多文化共生社会の推進(3.58)	文化芸術活動などの環境(3.64)	男女共同参画の推進(3.68)

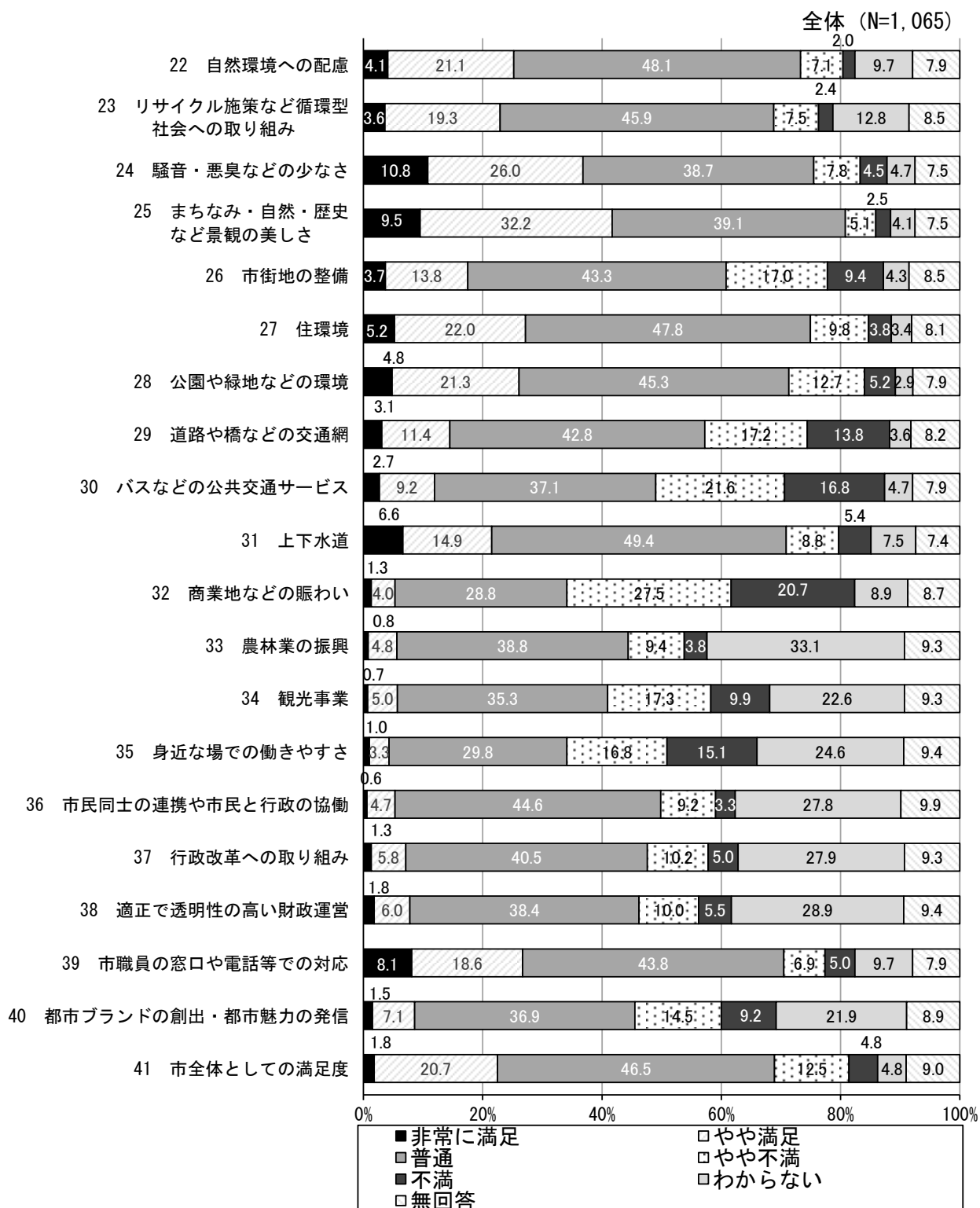
<各項目のポイント数>

No.	項目名	満足度	重要度	No.	項目名	満足度	重要度
1	防災	3.17	4.54	22	自然環境への配慮	3.22	4.25
2	消防・救急	3.33	4.56	23	リサイクル施策など循環型社会への取り組み	3.18	4.16
3	防犯	3.11	4.51	24	騒音・悪臭などの少なさ	3.35	4.18
4	交通安全	3.01	4.33	25	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ	3.46	4.18
5	消費者行政	2.94	4.17	26	市街地の整備	2.83	4.24
6	地域の支え合い	3.07	4.06	27	住環境	3.17	4.26
7	高齢者にとっての暮らしやすさ	2.71	4.45	28	公園や緑地などの環境	3.09	4.10
8	障がい者にとっての暮らしやすさ	2.73	4.33	29	道路や橋などの交通網	2.69	4.29
9	社会保障制度	2.81	4.40	30	バスなどの公共交通サービス	2.54	4.36
10	健康づくりを進める環境	2.96	4.00	31	上下水道	3.10	4.28
11	児童に対する福祉	3.10	4.31	32	商業地などの賑わい	2.25	4.16
12	子育てのしやすさ	3.17	4.40	33	農林業の振興	2.82	3.89
13	小中学校の教育環境	3.06	4.40	34	観光事業	2.55	3.86
14	青少年の健全な育成	2.94	4.26	35	身近な場での働きやすさ	2.37	4.14
15	各種講座や施設など生涯学習の環境	2.97	3.78	36	市民同士の連携や市民と行政の協働	2.84	3.95
16	文化芸術活動などの環境	2.98	3.64	37	行政改革への取り組み	2.81	4.16
17	歴史文化遺産の保存・活用	3.21	3.81	38	適正で透明性の高い財政運営	2.81	4.36
18	スポーツ施設や活動などの環境	2.92	3.81	39	市職員の窓口や電話等での対応	3.22	-
19	人権の尊重と平和意識の高揚	3.04	3.85	40	都市ブランドの創出・都市魅力の発信	2.67	4.00
20	男女共同参画の推進	2.99	3.68	41	市全体として	3.03	-
21	国際交流や多文化共生社会の推進	2.98	3.58	平均値		2.96	4.13

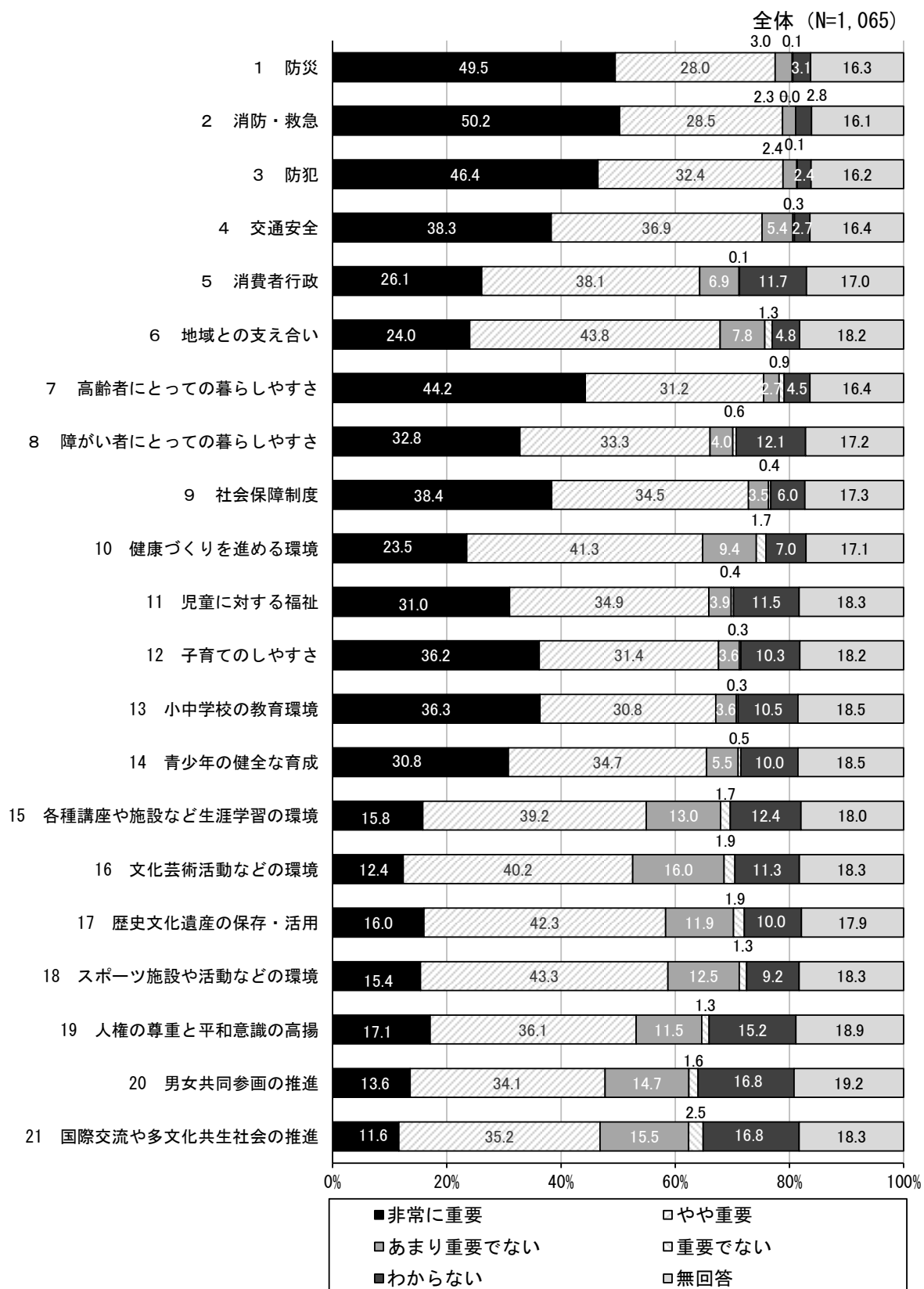
<現在の満足度割合（項目順①）>



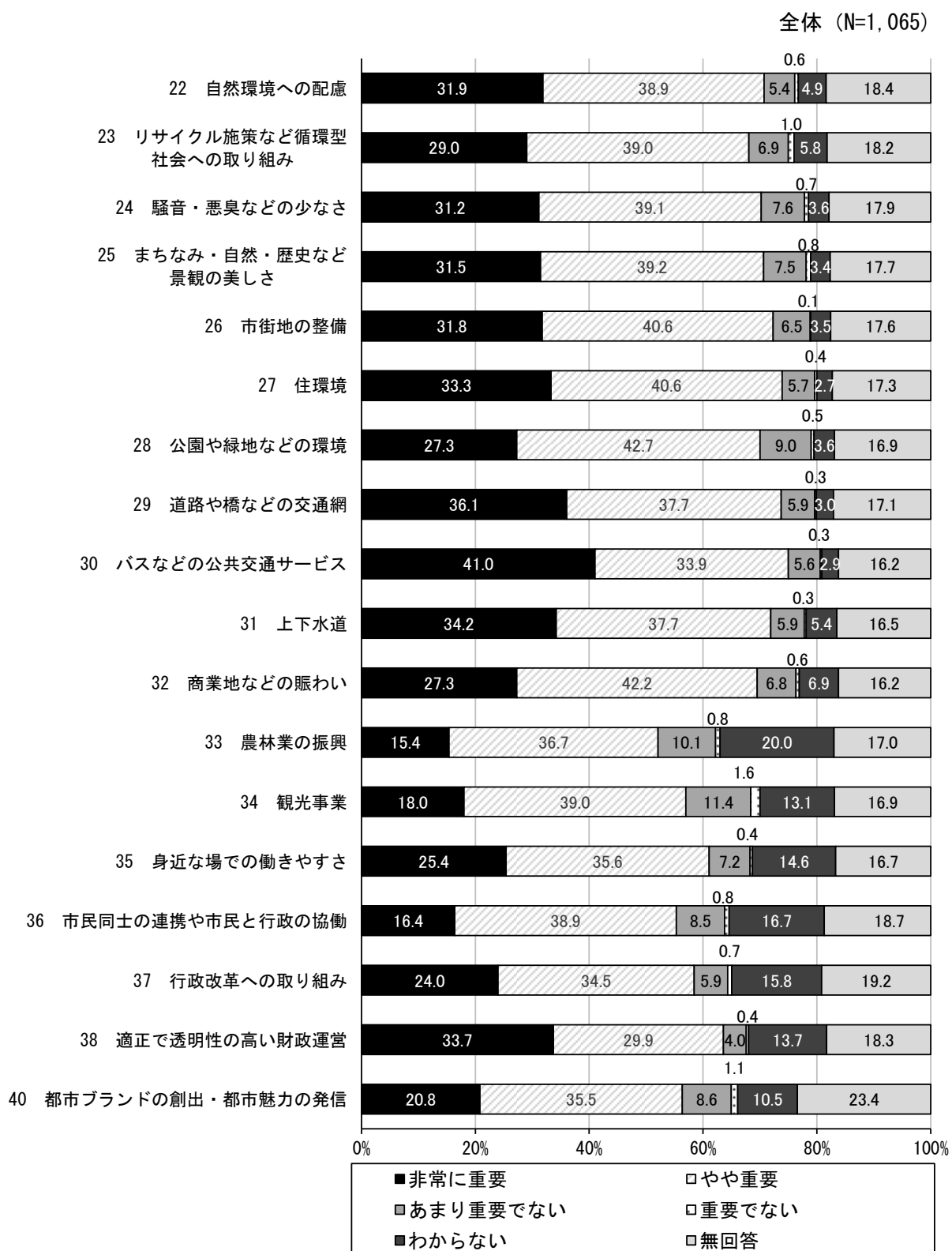
<現在の満足度割合（項目順②）>



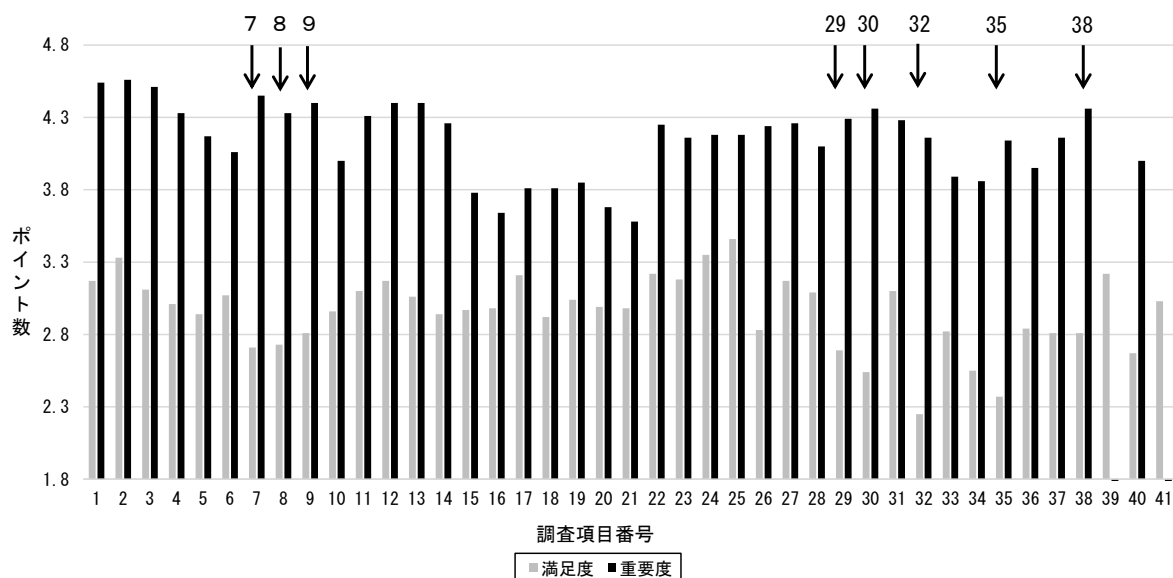
<今後の重要度割合（項目順①）>



<今後の重要度割合（項目順②）>



<「満足度」と「重要度」のギャップ>



(注) 問 39 と 41 については、重要度の設問が設定されていない。

■満足度と重要度のギャップが特に大きい項目

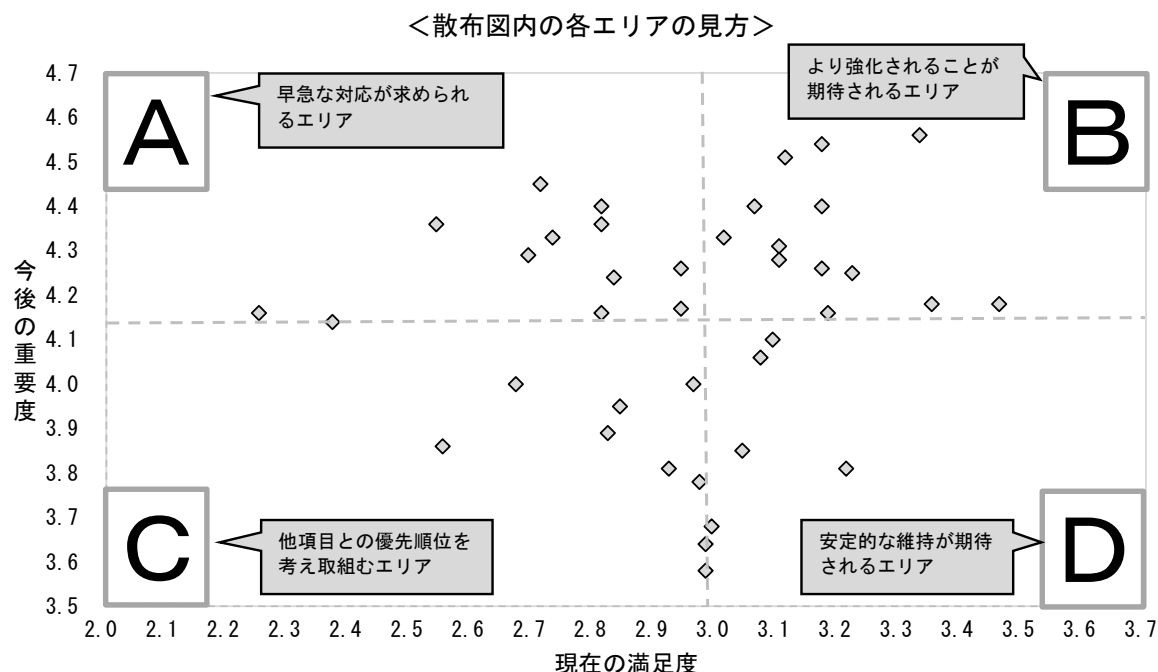
- 7. 高齢者にとっての暮らしやすさ (1.74)
- 8. 障がい者にとっての暮らしやすさ (1.60)
- 9. 社会保障制度 (1.59)
- 29. 道路や橋などの交通網 (1.60)
- 30. バスなどの公共交通サービス (1.82)
- 32. 商業地などの賑わい (1.91)
- 35. 身近な場での働きやすさ (1.77)
- 38. 適正で透明性の高い財政運営 (1.55)

(注) () は、ギャップ数を示す。

[現在の満足度／今後の重要度]クロス分析散布図について

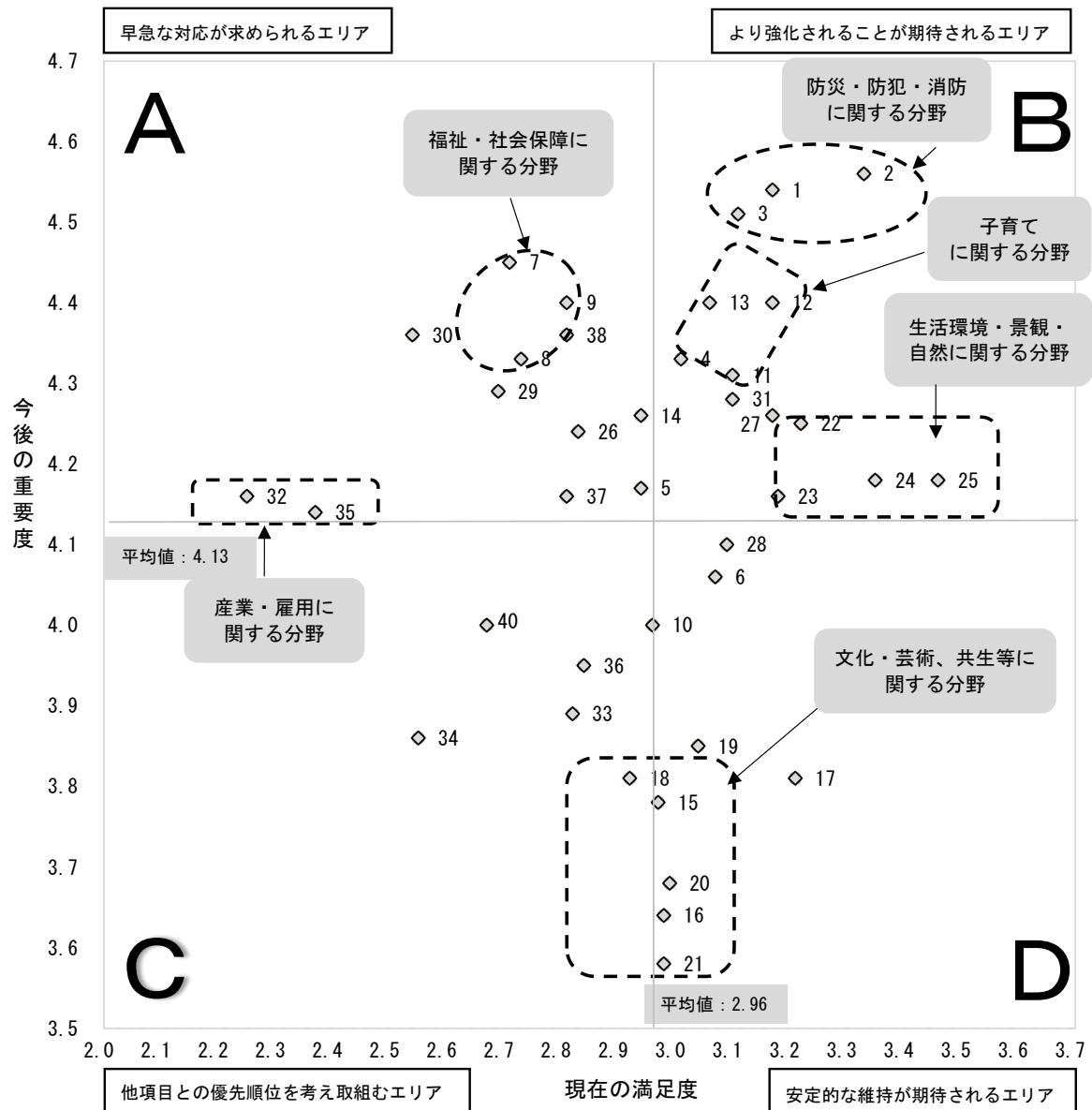
満足度と重要度の結果を散布図に落とし込み、「A」から「D」に分類することで、各エリアに所属する項目への対応の方向性を示しています。

特に「A」エリアに関しては重要度が高いですが、満足度が低いエリアであり、ここに示される項目に対しては優先順位を高めた対応がまちづくりに必要であると考えられます。



エリア	内容	項目
A 早急な対応が求められるエリア	満足度→低 重要度→高	5. 消費者行政／7. 高齢者にとっての暮らしやすさ／8. 障がい者にとっての暮らしやすさ／9. 社会保障制度／14. 青少年の健全な育成／26. 市街地の整備／29. 道路や橋などの交通網／30. バスなどの公共交通サービス／32. 商業地などの賑わい／35. 身近な場での働きやすさ／37. 行政改革への取り組み／38. 適正で透明性の高い財政運営
B より強化されることが期待されるエリア	満足度→高 重要度→高	1. 防災／2. 消防・救急／3. 防犯／4. 交通安全／11. 児童に対する福祉／12. 子育てのしやすさ／13. 小中学校の教育環境／22. 自然環境への配慮／23. リサイクル施策など循環型社会への取り組み／24. 騒音・悪臭などの少なさ／25. まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ／27. 住環境／31. 上下水道
C 他項目との優先順位を考え取り組むエリア	満足度→低 重要度→低	18. スポーツ施設や活動などの環境／33. 農林業の振興／34. 観光事業／36. 市民同士の連携や市民と行政の協働／40. 都市ブランドの創出・都市魅力の発信
D 安定的な維持が期待されるエリア	満足度→高 重要度→低	6. 地域の支え合い／10. 健康づくりを進める環境／15. 各種講座や施設など生涯学習の環境／16. 文化芸術活動などの環境／17. 歴史文化遺産の保存・活用／19. 人権の尊重と平和意識の高揚／20. 男女共同参画の推進／21. 国際交流や多文化共生社会の推進／28. 公園や緑地などの環境

＜「現在の満足度」と「今後の重要度」のクロス分析＞散布図



回答者の属性別データ

①満足度×性別

満足度を性別にみると、『男性』『女性』ともに「まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ」「騒音・悪臭などの少なさ」といった『環境』に関する項目が高くなっている一方、「商業地などの賑わい」「身近な場での働きやすさ」といった『産業』に関する項目が低くなっています。

			1位	2位	3位
現在の満足度 (5点満点)	男性	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.39)	消防・救急(3.34) 騒音・悪臭などの少なさ(3.34)	市職員の窓口や電話等での対応(3.31)
		下位	商業地などの賑わい(2.23)	身近な場での働きやすさ(2.40)	観光事業(2.55)
	女性	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.52)	騒音・悪臭などの少なさ(3.36)	消防・救急(3.32)
		下位	商業地などの賑わい(2.25)	身近な場での働きやすさ(2.35)	バスなどの公共交通サービス(2.49)
	答えたくない	上位	消費者行政(3.20) 防犯(3.20) 防災(3.20) 消防・救急(3.20) まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.20)	交通安全(3.00) 小中学校の教育環境(3.00) 児童に対する福祉(3.00)	上下水道(2.80)
		下位	社会保障制度(1.50)	身近な場での働きやすさ(1.60)	高齢者にとっての暮らしやすさ(1.67)
	全体	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.46)	騒音・悪臭などの少なさ(3.35)	消防・救急(3.33)
		下位	商業地などの賑わい(2.25)	身近な場での働きやすさ(2.37)	バスなどの公共交通サービス(2.54)

②今後の重要度×性別

今後の重要度を性別にみると、『男性』『女性』ともに「消防・救急」「防災」「防犯」といった『安心・安全』に関する項目が高くなっています。

			1位	2位	3位
今後の重要度 (5点満点)	男性	上位	消防・救急(4.51)	防災(4.49) 防犯(4.49)	高齢者にとっての暮らしやすさ(4.37)
		下位	男女共同参画の推進(3.51)	文化芸術活動などの環境(3.52) 国際交流や多文化共生社会の推進(3.52)	各種講座や施設など生涯学習の環境(3.68)
	女性	上位	消防・救急(4.59)	防災(4.57)	高齢者にとっての暮らしやすさ(4.52)、防犯(4.52)
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進(3.64)	文化芸術活動などの環境(3.73)	男女共同参画の推進(3.81)
	答えたくない	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(5.00) 自然環境への配慮(5.00) 防犯(5.00) 防災(5.00) 消防・救急(5.00)	身近な場での働きやすさ(4.80) 消費者行政(4.80) 騒音・悪臭などの少なさ(4.80) 交通安全(4.80)	商業地などの賑わい(4.75) 行政改革への取り組み(4.75) 障がい者にとっての暮らしやすさ(4.75) 社会保障制度(4.75)
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進(3.00) 男女共同参画の推進(3.00) 人権の尊重と平和意識の高揚(3.00)	都市ブランドの創出・都市魅力の発信(3.67)	健康づくりを進める環境(3.75)
	全体	上位	消防・救急(4.56)	防災(4.54)	防犯(4.51)
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進(3.58)	文化芸術活動などの環境(3.64)	男女共同参画の推進(3.68)

③満足度×年代別

満足度を年代別にみると、ほとんどの年代で「まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ」「騒音・悪臭などの少なさ」など『環境』に関する項目が高くなっています。一方で、「商業地などの賑わい」「身近な場での働きやすさ」はほとんどの年代において下位を占めています。

			1位	2位	3位
現在の満足度（5点満点）	19歳以下	上位	歴史文化遺産の保存・活用(4.00)	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.60)	騒音・悪臭などの少なさ(3.55)
		下位	商業地などの賑わい(1.95)	バスなどの公共交通サービス(2.32)	観光事業(2.44)
	20歳代	上位	消防・救急(3.43)	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.41)	騒音・悪臭などの少なさ(3.37)
		下位	商業地などの賑わい(2.18)	身近な場での働きやすさ(2.30)	観光事業(2.46)
	30歳代	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.63)	騒音・悪臭などの少なさ(3.57)	市職員の窓口や電話等での対応(3.38)
		下位	商業地などの賑わい(2.29)	身近な場での働きやすさ(2.46)	観光事業(2.50)
	40歳代	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.52)	歴史文化遺産の保存・活用(3.26)	自然環境への配慮(3.24)
		下位	商業地などの賑わい(2.04)	身近な場での働きやすさ(2.25)	観光事業(2.38)
	50歳代	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.49)	騒音・悪臭などの少なさ(3.32)	子育てのしやすさ(3.25)
		下位	商業地などの賑わい(2.12)	身近な場での働きやすさ(2.26)	バスなどの公共交通サービス(2.39)
	60歳代	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.28)	消防・救急(3.26)	市職員の窓口や電話等での対応(3.19)
		下位	商業地などの賑わい(2.28)	身近な場での働きやすさ(2.32)	観光事業(2.47)
	70歳代	上位	消防・救急(3.53)	騒音・悪臭などの少なさ(3.44) まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.44)	市職員の窓口や電話等での対応(3.37)
		下位	商業地などの賑わい(2.53)	バスなどの公共交通サービス(2.62)	身近な場での働きやすさ(2.64)
	80歳以上	上位	市職員の窓口や電話等での対応(3.63)	騒音・悪臭などの少なさ(3.61) まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.61)	自然環境への配慮(3.48)
		下位	商業地などの賑わい(2.33)	バスなどの公共交通サービス(2.55)	身近な場での働きやすさ(2.59)
	全体	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.46)	騒音・悪臭などの少なさ(3.35)	消防・救急(3.33)
		下位	商業地などの賑わい(2.25)	身近な場での働きやすさ(2.37)	バスなどの公共交通サービス(2.54)

④今後の重要度×年代別

今後の重要度を年代別にみると、ほとんどの年代で「防災」「消防・救急」など『安全・安心』に関する項目が高くなっています。『50歳代』以上では「高齢者にとっての暮らしやすさ」も上位に位置しています。

			1 位	2 位	3 位
今後の重要度（5点満点）	19歳以下	上位	防災(4.72)	消防・救急(4.61)	小中学校の教育環境(4.56)
		下位	地域の支え合い(3.26)	市民同士の連携や市民と行政の協働(3.31)	各種講座や施設など生涯学習の環境(3.44) 人権の尊重と平和意識の高揚(3.44)
	20歳代	上位	防災(4.56)	消防・救急(4.54)	防犯(4.53)
		下位	文化芸術活動などの環境(3.56)	国際交流や多文化共生社会の推進(3.66)	歴史文化遺産の保存・活用(3.67)
	30歳代	上位	子育てのしやすさ(4.74)	小中学校の教育環境(4.63)	児童に対する福祉(4.61)
		下位	男女共同参画の推進(3.56)	国際交流や多文化共生社会の推進(3.64)	人権の尊重と平和意識の高揚(3.71)
	40歳代	上位	防犯(4.6)	防災(4.58) 消防・救急(4.58)	子育てのしやすさ(4.46)
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進(3.47)	文化芸術活動などの環境(3.53)	男女共同参画の推進(3.57)
	50歳代	上位	消防・救急(4.61)	高齢者にとっての暮らしやすさ(4.54)	防災(4.53)
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進(3.43)	男女共同参画の推進(3.53)	文化芸術活動などの環境(3.68)
	60歳代	上位	消防・救急(4.60)	高齢者にとっての暮らしやすさ(4.51)	防災(4.50)
		下位	文化芸術活動などの環境(3.57)	国際交流や多文化共生社会の推進(3.60)	男女共同参画の推進(3.72)
	70歳代	上位	消防・救急(4.55)	防災(4.54)	防犯(4.48) 高齢者にとっての暮らしやすさ(4.48)
		下位	男女共同参画の推進(3.68)	国際交流や多文化共生社会の推進(3.71)	文化芸術活動などの環境(3.77)
	80歳以上	上位	高齢者にとっての暮らしやすさ(4.65)	適正で透明性の高い財政運営(4.60)	消防・救急(4.51)
		下位	文化芸術活動などの環境(3.83) 国際交流や多文化共生社会の推進(3.83)	スポーツ施設や活動などの環境(3.93)	男女共同参画の推進(3.95)
	全体	上位	消防・救急(4.56)	防災(4.54)	防犯(4.51)
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進(3.58)	文化芸術活動などの環境(3.64)	男女共同参画の推進(3.68)

⑤満足度×小学校区別

満足度を小学校区別にみると、ほとんどの小学校区で「まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ」「騒音・悪臭などの少なさ」など『環境』に関する項目が高くなっています。一方で、「商業地などの賑わい」「身近な場での働きやすさ」などの『産業』に関する項目の満足度は低くなっています。また、半数以上の小学校区で「バスなどの公共交通サービス」の満足度が低くなっています。

			1 位	2 位	3 位
現在の満足度（5点満点）	長野小学校区	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.45)	子育てのしやすさ(3.34)	自然環境への配慮(3.27)
		下位	商業地などの賑わい(2.28)	身近な場での働きやすさ(2.38)	観光事業(2.53)
	小山田小学校区	上位	消防・救急(3.57)	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.51)	公園や緑地などの環境(3.39)
		下位	商業地などの賑わい(2.27)	身近な場での働きやすさ(2.30)	観光事業(2.49)
	天野小学校区	上位	消防・救急(3.92)	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.56)	騒音・悪臭などの少なさ(3.55)
		下位	バスなどの公共交通サービス(2.34)	身近な場での働きやすさ(2.50)	商業地などの賑わい(2.60)
	高向小学校区	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.53)	騒音・悪臭などの少なさ(3.46) 市職員の窓口や電話等での対応(3.46)	消防・救急(3.45)
		下位	商業地などの賑わい(2.28)	バスなどの公共交通サービス(2.45)	障がい者にとっての暮らしやすさ(2.46)
	三日市小学校区	上位	騒音・悪臭などの少なさ(3.37)	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.36)	市職員の窓口や電話等での対応(3.33)
		下位	商業地などの賑わい(2.10)	道路や橋などの交通網(2.33)	身近な場での働きやすさ(2.37)
	天見小学校区	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.57)	上下水道(3.43)	小中学校の教育環境(3.33)
		下位	商業地などの賑わい(2.33)	社会保障制度(2.50)	農林業の振興(2.57)
	川上小学校区	上位	騒音・悪臭などの少なさ(3.53)	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.46)	自然環境への配慮(3.31)
		下位	商業地などの賑わい(2.04)	身近な場での働きやすさ(2.19)	観光事業(2.52)
	千代田小学校区	上位	消防・救急(3.34)	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.25)	市職員の窓口や電話等での対応(3.19)
		下位	商業地などの賑わい(2.24)	身近な場での働きやすさ(2.32)	バスなどの公共交通サービス(2.46)
	楠小学校区	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.39)	消防・救急(3.35)	歴史文化遺産の保存・活用(3.32)
		下位	商業地などの賑わい(2.23)	バスなどの公共交通サービス(2.56)	身近な場での働きやすさ(2.62)
	加賀田小学校区	上位	騒音・悪臭などの少なさ(3.65)	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.52)	リサイクル施策など循環型社会への取り組み(3.27)
		下位	身近な場での働きやすさ(2.20)	バスなどの公共交通サービス(2.31)	商業地などの賑わい(2.32)
	石仏小学校区	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.57)	騒音・悪臭などの少なさ(3.53)	市職員の窓口や電話等での対応(3.50)
		下位	商業地などの賑わい(2.33)	バスなどの公共交通サービス(2.47)	道路や橋などの交通網(2.57)
	美加の台小学校区	上位	騒音・悪臭などの少なさ(3.60)	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.59)	小中学校の教育環境(3.49)
		下位	商業地などの賑わい(1.94)	身近な場での働きやすさ(2.11)	観光事業(2.17)
	南花台小学校区	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.62)	騒音・悪臭などの少なさ(3.45)	消防・救急(3.39)
		下位	身近な場での働きやすさ(2.34)	商業地などの賑わい(2.46)	バスなどの公共交通サービス(2.56)
	全体	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.46)	騒音・悪臭などの少なさ(3.35)	消防・救急(3.33)
		下位	商業地などの賑わい(2.25)	身近な場での働きやすさ(2.37)	バスなどの公共交通サービス(2.54)

⑥今後の重要度×小学校区別

今後の重要度を小学校別にみると、ほとんどの小学校区で「防災」や「消防・救急」「防犯」といった『安心・安全』に関する項目が高くなっています。

			1 位	2 位	3 位
今後の重要度（5点満点）	長野小学校区	上位	防災(4.62)	防犯(4.61)	消防・救急(4.57)
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進(3.66)	文化芸術活動などの環境(3.70)	男女共同参画の推進(3.71)
	小山田小学校区	上位	防災(4.61)	消防・救急(4.59)	防犯(4.56)
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進(3.39)	文化芸術活動などの環境(3.51)	観光事業(3.52)
	天野小学校区	上位	消防・救急(4.71)	適正で透明性の高い財政運営(4.70)	防犯(4.64)
		下位	観光事業(3.70)	文化芸術活動などの環境(3.72)	国際交流や多文化共生社会の推進(3.82)
	高向小学校区	上位	防犯(4.69)	防災(4.67)	小中学校の教育環境(4.57)
		下位	男女共同参画の推進(3.30)	国際交流や多文化共生社会の推進(3.66)	人権の尊重と平和意識の高揚(3.72)
	三日市小学校区	上位	消防・救急(4.48)	防犯(4.47)	防災(4.46)
		下位	文化芸術活動などの環境(3.52)	国際交流や多文化共生社会の推進(3.57)	男女共同参画の推進(3.66)
	天見小学校区	上位	防災(4.57)	消防・救急(4.50)	社会保障制度(4.33)
		下位	男女共同参画の推進(2.20)	人権の尊重と平和意識の高揚(2.33)	国際交流や多文化共生社会の推進(2.40)
	川上小学校区	上位	高齢者にとっての暮らしやすさ(4.61)	消防・救急(4.49)	小中学校の教育環境(4.44) 子育てのしやすさ(4.44) 社会保障制度(4.44)
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進(3.71)	男女共同参画の推進(3.75) 文化芸術活動などの環境(3.75)	スポーツ施設や活動などの環境(3.84)
	千代田小学校区	上位	消防・救急(4.66)	防災(4.62)	防犯(4.60)
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進(3.39)	文化芸術活動などの環境(3.40)	男女共同参画の推進(3.56)
	楠小学校区	上位	消防・救急(4.47)	防災(4.45)	交通安全(4.35)
		下位	男女共同参画の推進(3.42) 国際交流や多文化共生社会の推進(3.42)	人権の尊重と平和意識の高揚(3.56)	文化芸術活動などの環境(3.70)
	加賀田小学校区	上位	バスなどの公共交通サービス(4.56)	消防・救急(4.55)	高齢者にとっての暮らしやすさ(4.54)
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進(3.60)	文化芸術活動などの環境(3.75)	各種講座や施設など生涯学習の環境(3.76)
	石仏小学校区	上位	適正で透明性の高い財政運営(4.47)	高齢者にとっての暮らしやすさ(4.44)	防犯(4.38) バスなどの公共交通サービス(4.38)
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進(3.62)	スポーツ施設や活動などの環境(3.63)	文化芸術活動などの環境(3.68)
	美加の台小学校区	上位	防災(4.62)	消防・救急(4.61) 子育てのしやすさ(4.61)	小中学校の教育環境(4.57)
		下位	歴史文化遺産の保存・活用(3.75)	農林業の振興(3.76)	男女共同参画の推進(3.79)
	南花台小学校区	上位	消防・救急(4.66)	バスなどの公共交通サービス(4.54)	防災(4.53) 防犯(4.53)
		下位	文化芸術活動などの環境(3.55)	国際交流や多文化共生社会の推進(3.67)	各種講座や施設など生涯学習の環境(3.69)
	全体	上位	消防・救急(4.56)	防災(4.54)	防犯(4.51)
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進(3.58)	文化芸術活動などの環境(3.64)	男女共同参画の推進(3.68)

(2) 不満を感じる取組みとその理由

問6 特に不満を感じられている項目の番号を2つまで選んで、それぞれについて不満を感じる理由を記入してください。

特に不満を感じている項目についてみると、「商業地などの賑わい」が最も多く、次いで「バスなどの公共交通サービス」「道路や橋などの交通網」となっています。

1. 防災（11件）

主な意見
水害、土砂災害、がけ崩れが心配
大きな災害に備えて地域ごとの説明や準備が不十分

2. 消防・救急（7件）

主な意見
救急指定の病院が少ない、受け入れてくれる病院が少ない、遠い
子どもの緊急医療体制が不十分

3. 防犯（12件）

主な意見
人通りの少ない道のパトロール、夜間の見回りが不十分
盗難や空き巣がある
警察の対応・情報公開が不十分
街灯が少なく暗い

4. 交通安全（27件）

主な意見
河内長野駅前商店街の閉鎖が目立つ
ドライバーのマナーが悪い、交通ルールを守らない人が多い
道路のメンテナンスが必要、路面標示が消えている、道路に木や草が伸びていて危険
河内長野駅周辺のメインストリートに歩道がない、歩道がない場所があり危険

5. 消費者行政（6件）

主な意見
買い物難民になっている現実がある
物価が高い
行政サービス制度が少ない、小さい

6. 地域の支え合い（4件）

主な意見
自治会もなく、誰に何を頼めるのか窓口を明確に知らせてほしい。
地域の支え合いが不十分
買物などに行く交通手段が不便

7. 高齢者にとっての暮らしやすさ（44件）

主な意見
高齢者へのサービス、医療、入居施設が不十分
道の舗装が悪い、坂が多く不便
バスなどの公共交通が不便、不十分、交通手段がない
買い物不便、買い物難民になりそう

8. 障がい者にとっての暮らしやすさ（14件）

主な意見
障がい者に対する思いやりがない
車椅子が安全に使える道路の整備

9. 社会保障制度（6件）

主な意見
高齢者に対する保障制度が不十分

10. 健康づくりを進める環境（2件）

主な意見
高齢者対象の朝の体操、ハイキング講演会

11. 児童に対する福祉（5件）

主な意見
医療費助成してほしい
給付金、子供が育ちやすい環境

12. 子育てのしやすさ（11件）

主な意見
子どもの環境、支援が不十分
病後児保育が少ない
子どもの居場所やのびのび遊べる場所がない

13. 小中学校の教育環境（17件）

主な意見
教育レベルの向上、学力の底上げ
教師の資質、指導力、教職員の意識の低さ
教育設備（クーラー、ICT環境の整備）の対応遅れ

14. 青少年の健全な育成（9件）

主な意見
青少年が駅やコンビニにたまっている
健全でない青少年が目立つ

15. 各種講座や施設など生涯学習の環境（14件）

主な意見
充実した内容や実践的な内容の講座が少ない
講座の種類、日にちが少ない

16. 文化芸術活動などの環境（3件）

主な意見
文化芸術は都市を発展させるのに重要であるに関わらず、ないがしろにされがちで、保障が少ない。

17. 歴史文化遺産の保存・活用（6件）

主な意見
歴史的価値、魅力を発信できる活動をしてほしい
文化遺産の活用ができていない

18. スポーツ施設や活動などの環境（10件）

主な意見
スポーツ施設が少ない
総合体育館などの駐車場が有料、駐車場が狭い
子どもが気軽に体を動かせる場所や施設がない
ハイキング等課外活動の企画が少ない

19. 人権の尊重と平和意識の高揚（4件）

主な意見
民生委員の資質、意識の低さ
人権尊重についての具体策が見えない

20. 男女共同参画の推進（2件）

主な意見
市政の動きが見えない
できない物を推進する必要はない

21. 国際交流や多文化共生社会の推進（0件）

22. 自然環境への配慮（6件）

主な意見
自然を生かした文化育成
公園内の整備（遊具の老朽化・雑草）、ゴミの処理

24. 騒音・悪臭などの少なさ（24件）

主な意見
深夜のバイク音、バイクがうるさい、外環の騒音
野焼きによる煙やにおい、住宅地での野焼き

26. 市街地の整備（34件）

主な意見
河内長野駅前の景観が悪い、河内長野駅周辺の整備
歩道の整備不足、歩道が歩きにくい
交通のアクセスが悪い

28. 公園や緑地などの環境（23件）

主な意見
公園の整備・管理ができない（ゴミ、雑草が多い、木の手入れがされていない、砂場が糞だらけ、トイレが汚い）
公園の遊具が少ない、遊具が劣化している、設備が古い
公園や広場、緑地が少ない

30. バスなどの公共交通サービス（114件）

主な意見
公共交通機関が少ない、バスの本数が少ない、バスの便数減少
車がないと生活できない
交通の便が悪い、高齢者の交通手段の確保が必要
電車、バスの料金が安い、バスと電車の連携が悪い
バス停まで遠い、停留所が少ない

32. 商業地などの賑わい（133件）

主な意見
商業施設がない、ショッピングモールがない
河内長野駅前、周辺の賑わいがいい、駅前に寂れている、駅前にお店がない
買い物に不便、買い物できる場所がない

34. 観光事業（25件）

主な意見
観光客が少ない、観光客を呼び込むための取組が必要
PR不足、魅力を十分に発信できていない

36. 市民同士の連携や市民と行政の協働（6件）

主な意見
具体的な取組がわからない、発信がない
市民同士がどう連携しているのかわからない

38. 適正で透明性の高い財政運営（6件）

主な意見
情報の公開、発信量が少ない
税金の見直し
透明性がない

40. 都市ブランドの創出・都市魅力の発信（26件）

主な意見
魅力の発信が下手、アピール不足
特徴がない、知名度が低い

23. リサイクル施設など循環型社会への取り組み（6件）

主な意見
リサイクルされていることがみえない
資源物の回収日、回収場所が少ない

25. まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ（3件）

主な意見
高野街道のまちなみ保存
河内長野市内の全てがとにかく古さを感じさせる。上手く自然とレトロさと現代さを活かして欲しい。

27. 住環境（11件）

主な意見
道路の整備
スーパーが少ない、買い物に不便

29. 道路や橋などの交通網（74件）

主な意見
高速道路がない、高速道路へのアクセスが悪い
歩道が整備されていないところがある、歩道が狭い
渋滞が多い、渋滞を解消してほしい
道路の舗装が悪い、橋の傷みがひどい、橋の老朽化
道路が狭い

31. 上下水道（19件）

主な意見
水道料金が安い、上下水道が高い
下水道がきていない、普及が遅い

33. 農林業の振興（8件）

主な意見
農林業を活性化するための政策が必要
田舎の良さが中途半端

35. 身近な場での働きやすさ（43件）

主な意見
働ける企業が少ない、仕事が少ない、近くに働ける場所がない、求人がない
市外出た方がよい条件の仕事がある
子育てしながら、子育てが落ち着いて仕事をしたい、求人がない

37. 行政改革への取り組み（6件）

主な意見
何を実施しているか見えない

39. 市職員の窓口や電話等での対応（23件）

主な意見
対応が悪い、窓口対応で嫌な思いをした
窓口の対応が遅い

41. 市全体として（8件）

主な意見
人口減少、高齢化への対策が不十分
全体として活気がない

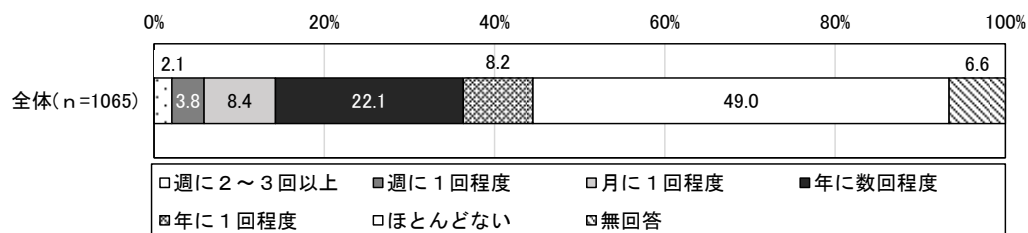
(3) 地域やまちづくり活動の参加度

問7 あなたはこの1年で、市内の「地域やまちづくり活動」※にどの程度参加されましたか。(○は1つだけ)

(※)「地域やまちづくりの活動」とは、自治会、町内会、PTA、教育、青少年育成、環境、美化、福祉など、有償・無償を問わず、幅広い活動のことを言います。

地域やまちづくり活動の参加度についてみると、「ほとんどない」が49.0%と最も高く、次いで「年に数回程度」が22.1%、「月に1回程度」が8.4%となっています。

■地域やまちづくり活動の参加度（単数回答／全体）



年代別にみると、すべての年代で「ほとんどない」が最も高くなっています。

■地域やまちづくり活動の参加度（単数回答／年代別）

	n 数	週 に 2 ～ 3 回 以 上	週 に 1 回 程 度	月 に 1 回 程 度	年 に 数 回 程 度	年 に 1 回 程 度	ほ と ん ど な い	無 回 答
全 体	100.0 1,065	2.1 22	3.8 40	8.4 89	22.1 235	8.2 87	49.0 522	6.6 70
年代別								
19歳以下	100.0 27	- -	- -	- -	3.7 1	11.1 3	70.4 19	14.8 4
20歳代	100.0 100	- -	1.0 1	2.0 2	9.0 9	5.0 5	74.0 74	9.0 9
30歳代	100.0 108	- -	- -	10.2 11	22.2 24	6.5 7	56.5 61	4.6 5
40歳代	100.0 157	1.9 3	1.3 2	7.0 11	28.7 45	12.1 19	43.3 68	5.7 9
50歳代	100.0 183	1.6 3	2.2 4	8.2 15	25.1 46	8.7 16	50.3 92	3.8 7
60歳代	100.0 191	1.6 3	3.7 7	9.4 18	24.6 47	8.9 17	45.5 87	6.3 12
70歳代	100.0 206	4.9 10	9.7 20	13.6 28	21.4 44	5.8 12	37.9 78	6.8 14
80歳以上	100.0 84	3.6 3	7.1 6	4.8 4	19.0 16	9.5 8	45.2 38	10.7 9
無回答	100.0 9	- -	- -	- -	33.3 3	- -	55.6 5	11.1 1

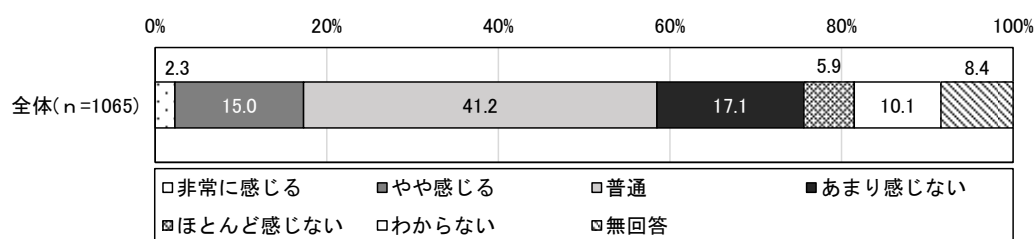
(4) 市の取組みに対する感じ方

問 8 次の1から3の項目について、どのように感じていますか。各項目について、お考えに近い番号に○をつけてください。(○は1つだけ)

1. 地域のまちづくり活動が充実していると感じている

地域のまちづくり活動が充実していると感じているかについてみると、「普通」が41.2%と最も高く、次いで「あまり感じない」が17.1%、「やや感じる」が15.0%となっています。

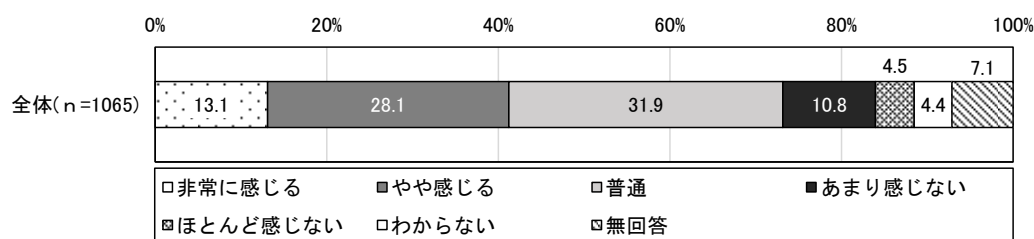
■地域のまちづくり活動が充実していると感じている（単数回答／全体）



2. 河内長野市に住みつづけたいと感じている

河内長野市に住みつづけたいと感じているかについてみると、「普通」が31.9%と最も高く、次いで「やや感じる」が28.1%、「非常に感じる」が13.1%となっています。

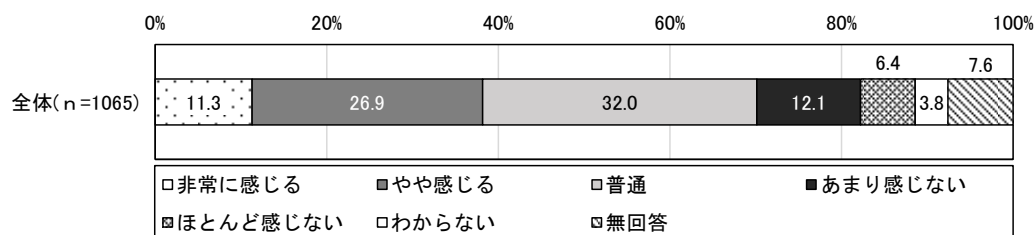
■河内長野市に住みつづけたいと感じている（単数回答／全体）



3. 河内長野市に愛着と誇りを感じている

河内長野市に愛着と誇りを感じているかについてみると、「普通」が32.0%と最も高く、次いで「やや感じる」が26.9%、「あまり感じない」が12.1%となっています。

■河内長野市に愛着と誇りを感じている（単数回答／全体）



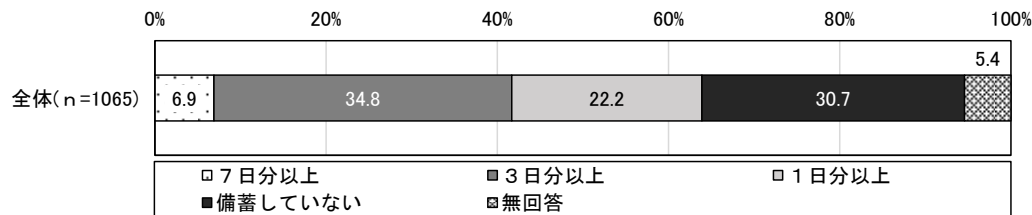
2-4. 災害に対する備えについて

(1)-1 非常食の備蓄量

問9-1 非常食（レトルト食品、缶詰等）の備蓄（○は1つだけ）

非常食（レトルト食品、缶詰等）の備蓄量についてみると、「3日分以上」が34.8%と最も高く、次いで「備蓄していない」が30.7%、「1日分以上」が22.2%となっています。

■非常食（レトルト食品、缶詰等）の備蓄量（単数回答／全体）

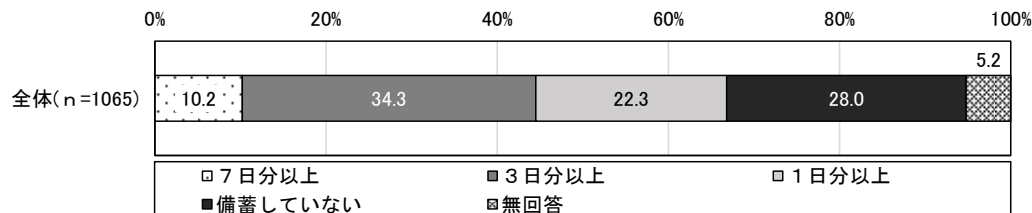


(1)-2 水の備蓄量

問9-2 水の備蓄（○は1つだけ）

水の備蓄量についてみると、「3日分以上」が34.3%と最も高く、次いで「備蓄していない」が28.0%、「1日分以上」が22.3%となっています。

■水の備蓄量（単数回答／全体）

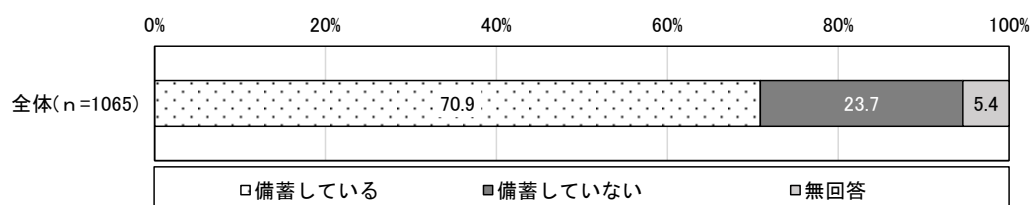


(1)－3 生活用品の備蓄の有無

問9－3 生活用品（ラジオ、懐中電灯、毛布等）の備蓄（○は1つだけ）

生活用品（ラジオ、懐中電灯、毛布等）の備蓄の有無についてみると、「備蓄している」が70.9%と最も高く、次いで「備蓄していない」が23.7%、「無回答0」が5.4%となっています。

■生活用品（ラジオ、懐中電灯、毛布等）の備蓄の有無（単数回答／全体）

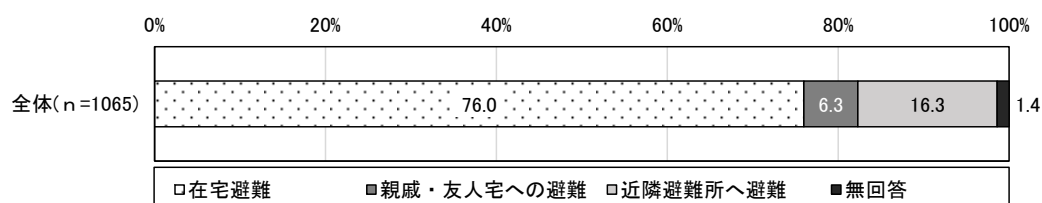


(2) 災害時の避難方法で想定している場所

問10 現在のコロナ禍の中で、災害時の避難方法についてあなたが想定しているものに○をつけてください。（○は1つだけ）

災害時の避難方法で想定している場所についてみると、「在宅避難」が76.0%と最も高く、次いで「近隣避難所へ避難」が16.3%、「親戚・友人宅への避難」が6.3%となっています。

■災害時の避難方法で想定している場所（単数回答／全体）



2-5. 人権問題について

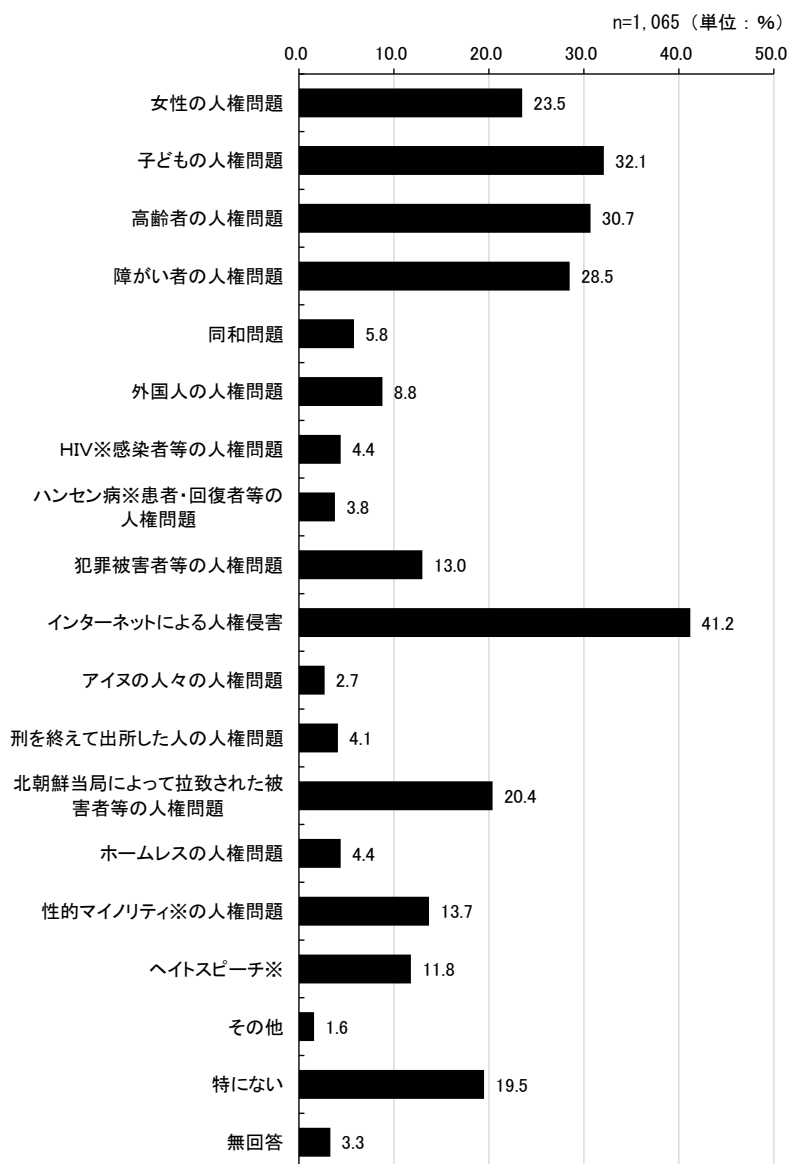
2-5-1. 人権問題全般について

(1) 人権問題で関心のあるもの

問 11 次の人権問題について、あなたが関心のあるものに○をつけてください。
(○はいくつでも)

人権問題で関心のあるものについてみると、「インターネットによる人権侵害」が41.2%と最も高く、次いで「子どもの人権問題」が32.1%、「高齢者の人権問題」が30.7%となっています。

■人権問題で関心のあるもの（複数回答／全体）



(※) HIV：ヒト免疫不全ウイルス。エイズ（後天性免疫不全症候群）の原因となるウイルス

(※) ハンセン病：「らい菌」によって引き起こされる感染症。現在は後遺症を残さず治る病気

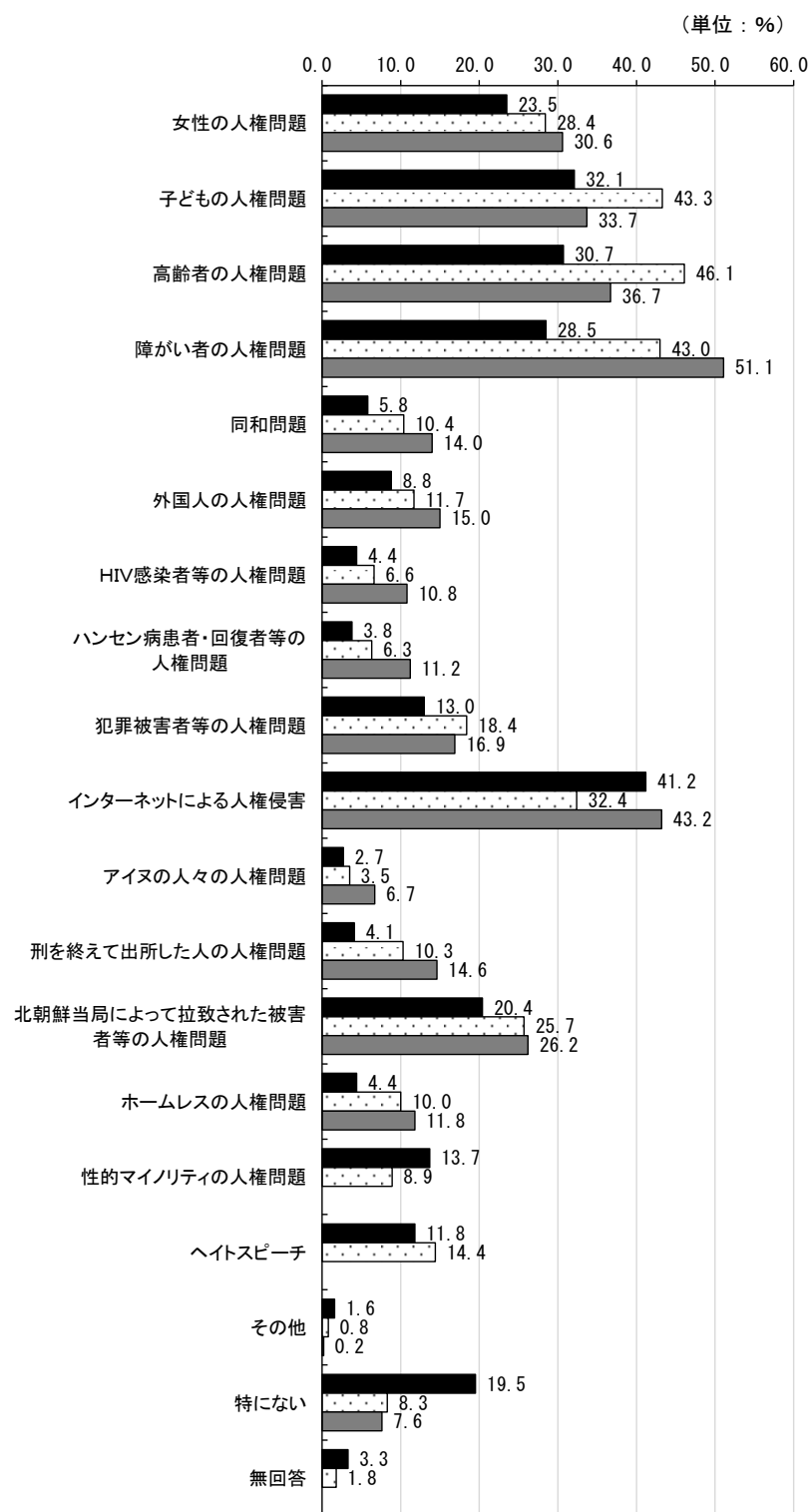
(※) 性的マイノリティ：性的少数者。同性愛や両性愛など性的指向において少数派である人々や性別に違和感を覚える人々、性同一性障がいなどの人々

(※) ヘイトスピーチ：特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動

年度間比較をすると、2015 年度調査では「インターネットによる人権侵害」が 32.4%に対し、今回調査では 41.2%と 8.8 ポイント高くなっています。

国の調査と比較すると、内閣府調査では「特にない」が 7.6%に対し、今回調査では 19.5%と 11.9 ポイント高くなっていますが、その他の項目はすべて今回調査の方が低くなっています。

■人権問題で関心のあるもの（複数回答／2015 年度調査、内閣府調査との比較）



※内閣府調査データには選択肢「ヘイトスピーチ」「性的マイノリティの人権問題」「無回答」が無いためグラフに表示していない。

また、内閣府調査の選択肢「性的指向」「性同一性障害者」「人身取引」「東日本大震災に伴う人権問題」は本調査において該当する選択肢が無いため、割愛している。

■2020年度調査 (n=1,065) □2015年度調査 (n=651) ▨2017年度内閣府調査 (n=1,758)

性別にみると、いずれの性別も「インターネットによる人権侵害」が最も高くなっていますが『男性』で41.2%、『女性』で40.9%とほぼ同じ割合となっています。

年代別にみると、『19歳以下』『20歳代』『40歳代』『50歳代』で「インターネットによる人権侵害」が、『30歳代』で「子どもの人権問題」が、『60歳代』から『80歳以上』で「高齢者の人権問題」がそれぞれ最も高くなっています。

■人権問題で関心のあるもの（複数回答／性別、年代別）

	n 数	女性 の人 権 問 題	子 ど も の 人 権 問 題	高 齢 者 の 人 権 問 題	障 が い 者 の 人 権 問 題	同 和 問 題	外 国 人 の 人 権 問 題	H I V 感 染 者 等 の 人 権 問 題	ハ ン セ ン 病 患 者 ・ 回 復 者 等 の 人 権 問 題	犯 罪 被 害 者 等 の 人 権 問 題	イ ン タ ー ネ ッ ト に よ る 人 権 問 題	ア イ ヌ の 人 々 の 人 権 問 題	刑 を 終 え て 出 所 し た 人 の 人 権 問 題	北 朝 鮮 当 局 に よ っ て 拉 致 さ れ た 被 害 者 等 の 人 権 問 題	ホ ー ム レ ス の 人 権 問 題	性 的 マイ ノ リ テ ィ の 人 権 問 題	ヘ イト ス ビ ー チ	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体	100.0 1,065	23.5 250	32.1 342	30.7 327	28.5 303	5.8 62	8.8 94	4.4 47	3.8 40	13.0 138	41.2 439	2.7 29	4.1 44	20.4 217	4.4 47	13.7 146	11.8 126	1.6 17	19.5 208	3.3 35
性別																				
男性	100.0 456	12.5 57	26.5 121	27.6 126	25.9 118	6.4 29	8.3 38	4.4 20	2.9 13	12.9 59	41.2 188	2.6 12	4.2 19	21.1 96	4.2 19	9.2 42	13.4 61	2.0 9	23.7 108	3.5 16
女性	100.0 601	31.8 191	36.4 219	33.3 200	30.3 182	5.5 33	9.2 55	4.5 27	4.5 27	13.0 78	40.9 246	2.8 17	4.2 25	20.1 121	4.5 27	17.0 102	10.6 64	1.3 8	16.5 99	3.0 18
答えたくない	100.0 8	25.0 2	25.0 2	12.5 1	37.5 3	-	12.5 1	-	-	12.5 1	62.5 5	-	-	-	-	25.0 2	12.5 1	-	12.5 1	12.5 1
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年代別																				
19歳以下	100.0 27	22.2 6	25.9 7	7.4 2	18.5 5	7.4 2	14.8 4	7.4 2	7.4 2	25.9 7	44.4 12	3.7 1	3.7 1	11.1 3	7.4 2	37.0 10	7.4 2	-	25.9 7	3.7 1
20歳代	100.0 100	35.0 35	32.0 32	17.0 17	29.0 29	4.0 4	19.0 19	11.0 11	4.0 4	13.0 13	50.0 50	4.0 4	7.0 7	12.0 12	4.0 4	32.0 32	9.0 9	-	16.0 16	2.0 2
30歳代	100.0 108	35.2 38	59.3 64	18.5 20	28.7 31	7.4 8	12.0 13	3.7 4	2.8 3	15.7 17	48.1 52	1.9 2	2.8 3	5.6 6	4.6 5	24.1 26	10.2 11	1.9 2	12.0 13	2.8 3
40歳代	100.0 157	26.1 41	36.9 58	15.9 25	31.2 49	4.5 7	8.9 14	1.9 3	2.5 4	12.7 20	43.3 68	1.3 2	6.4 10	15.9 25	1.9 3	16.6 26	14.0 22	3.2 5	22.3 35	0.6 1
50歳代	100.0 183	24.0 44	31.1 57	26.8 49	22.4 41	6.6 12	10.9 20	6.6 12	6.6 12	14.2 26	51.9 95	2.7 5	3.3 6	19.7 36	6.0 11	10.9 20	9.8 18	3.3 6	21.9 40	0.5 1
60歳代	100.0 191	18.8 36	30.4 58	39.8 76	30.9 59	5.8 11	5.2 10	2.6 5	2.6 5	13.6 26	38.2 73	3.7 7	3.7 7	24.6 47	4.7 9	7.9 15	15.7 30	1.0 2	18.8 36	4.2 8
70歳代	100.0 206	17.0 35	18.9 39	42.7 88	30.1 62	5.8 12	4.4 9	3.9 8	2.9 6	8.7 18	31.6 65	1.9 4	2.9 6	28.6 59	2.9 6	6.8 14	13.1 27	1.0 2	19.9 41	6.3 13
80歳以上	100.0 84	13.1 11	29.8 25	53.6 45	28.6 24	6.0 5	4.8 4	1.2 1	3.6 3	10.7 9	25.0 21	3.6 3	3.6 3	31.0 26	6.0 5	2.4 2	7.1 6	-	20.2 17	6.0 5
無回答	100.0 9	44.4 4	22.2 2	55.6 5	33.3 3	11.1 1	11.1 1	11.1 1	11.1 1	22.2 2	33.3 3	11.1 1	11.1 1	33.3 3	22.2 2	11.1 1	11.1 1	-	33.3 3	11.1 1

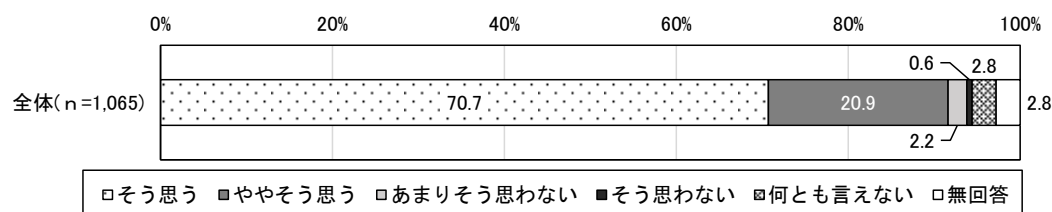
(2)「差別」に対する考え方

問 12 一般的に「差別」というものについて、あなたはどのような考えをお持ちですか。次の1から8の各項目について、お考えに近い番号に○をつけてください。
(それぞれについて○は1つだけ)

1. 差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない

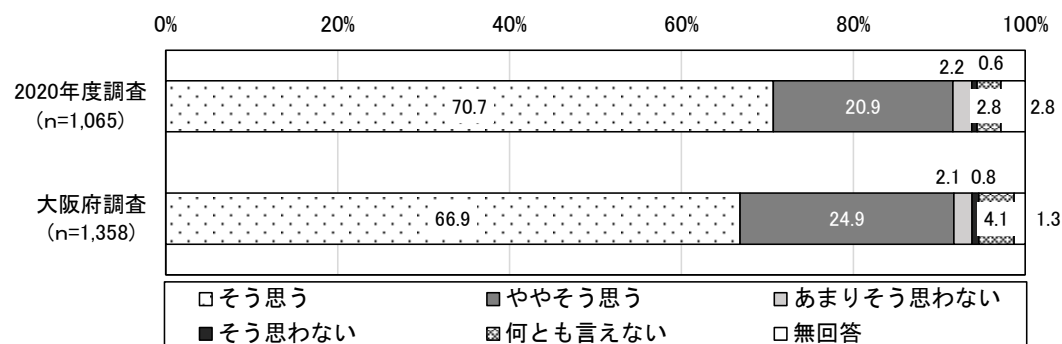
差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならないについてみると、「そう思う」が70.7%と最も高く、次いで「ややそう思う」が20.9%、「何とも言えない」が2.8%となっています。

■差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない（単数回答／全体）



大阪府の調査と比較すると、大阪府調査では「そう思う」が66.9%に対し、今回調査では70.7%と3.8ポイント高くなっています。

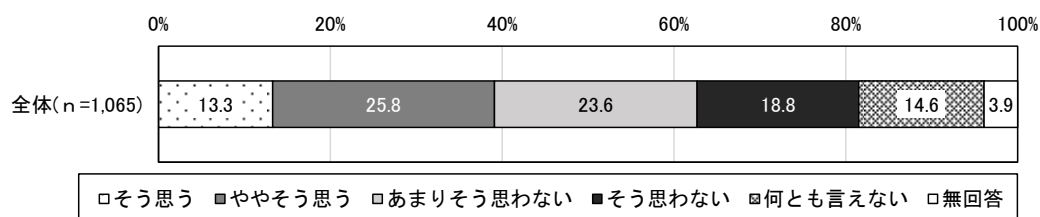
■差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない（単数回答／大阪府調査との比較）



2. 差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ

差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だについてみると、「ややそう思う」が25.8%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」が23.6%、「そう思わない」が18.8%となっています。

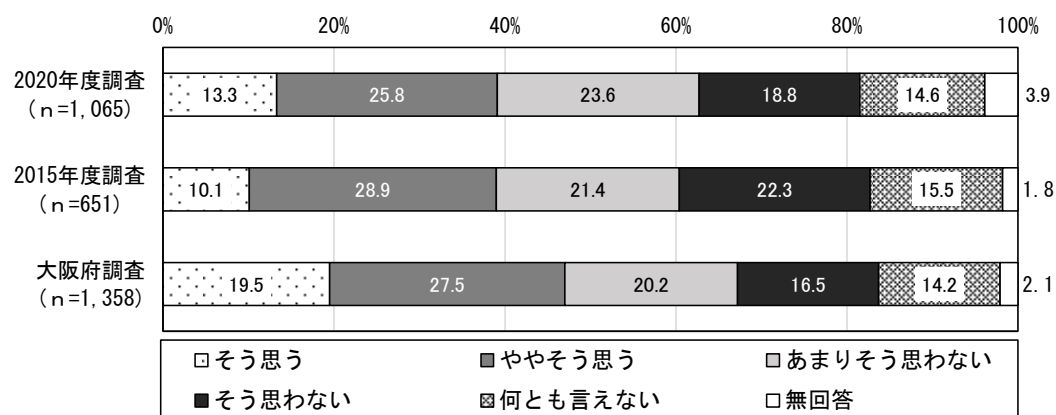
■差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ（単数回答／全体）



年度間比較をすると、2015年度調査では“思わない”（「そう思わない」＋「あまり思わない」）が43.7%に対し、今回調査では42.4%と1.3ポイント低くなっています。

大阪府の調査と比較すると、大阪府調査では“思わない”が36.7%に対し、5.7ポイント高くなっています。

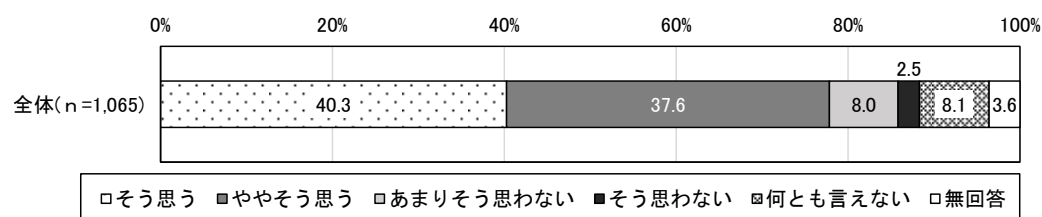
■差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ（単数回答／2015年度調査、大阪府調査との比較）



3. 差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である

差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要であるについてみると、「そう思う」が40.3%と最も高く、次いで「ややそう思う」が37.6%、「何とも言えない」が8.1%となっています。

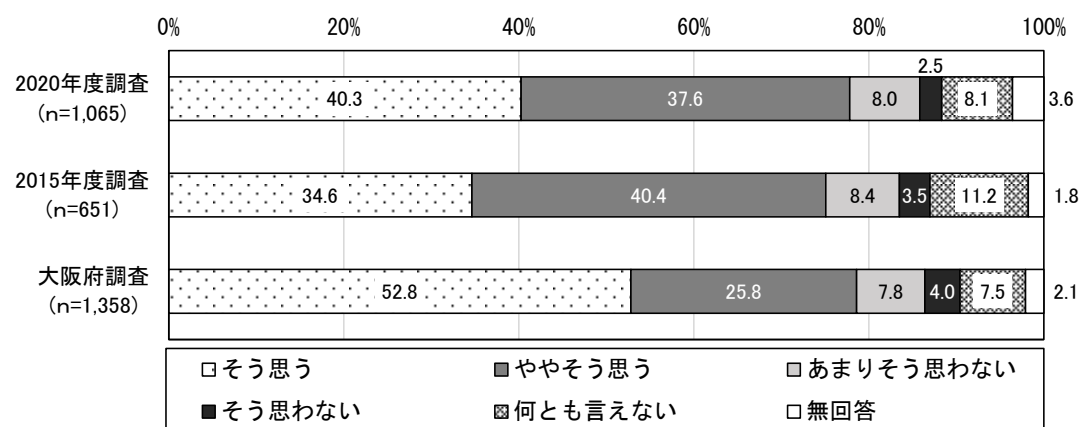
■差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である (単数回答／全体)



年度間比較をすると、2015年度調査では“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が75.0%に対し、今回調査では77.9%と2.9ポイント高くなっています。

大阪府の調査と比較すると、大阪府調査では“思う”が78.6%に対し、0.7ポイント低くなっています。

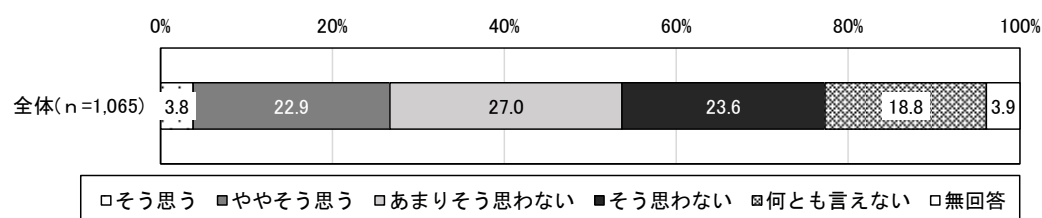
■差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である (単数回答／2015年度調査、大阪府調査との比較)



4. 差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い

差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多いについてみると、「あまりそう思わない」が27.0%と最も高く、次いで「そう思わない」が23.6%、「ややそう思う」が22.9%となっています。

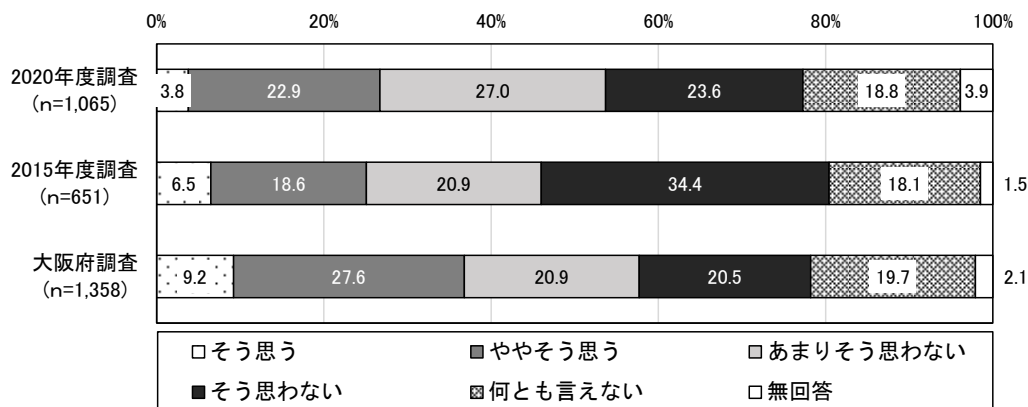
■差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い（単数回答／全体）



年度間比較をすると、2015年度調査では“思わない”（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）が55.3%に対し、今回調査では50.6%と4.7ポイント低くなっています。

大阪府の調査と比較すると、大阪府調査では“思わない”が41.4%に対し、9.2ポイント高くなっています。

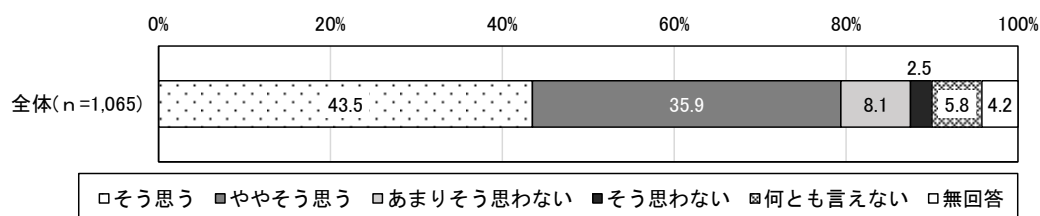
■差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い （単数回答／2015年度調査、大阪府調査との比較）



5. 差別をなくすために、行政は努力する必要がある

差別をなくすために、行政は努力する必要があるについてみると、「そう思う」が43.5%と最も高く、次いで「ややそう思う」が35.9%、「あまりそう思わない」が8.1%となっています。

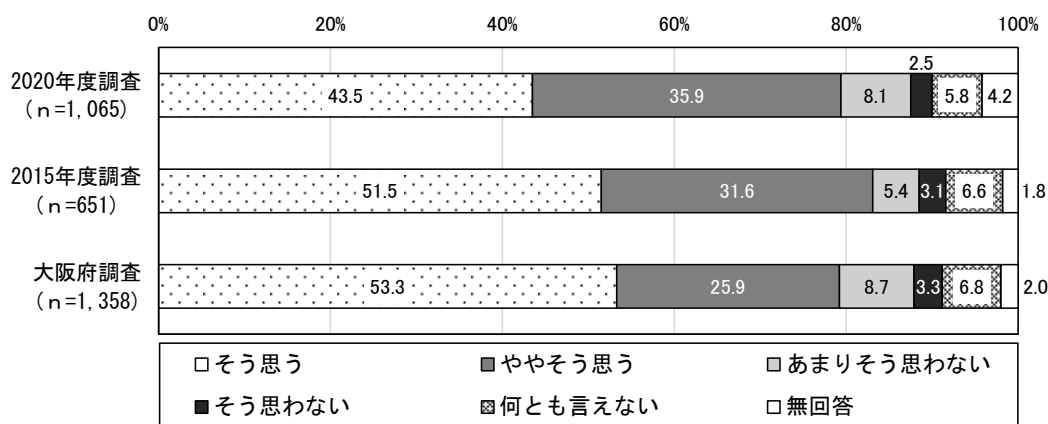
■差別をなくすために、行政は努力する必要がある（単数回答／全体）



年度間比較をすると、2015年度調査では“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が83.1%に対し、今回調査では79.4%と3.7ポイント低くなっています。

大阪府の調査と比較すると、大阪府調査では“思う”が79.2%とほぼ同じ割合となっています。

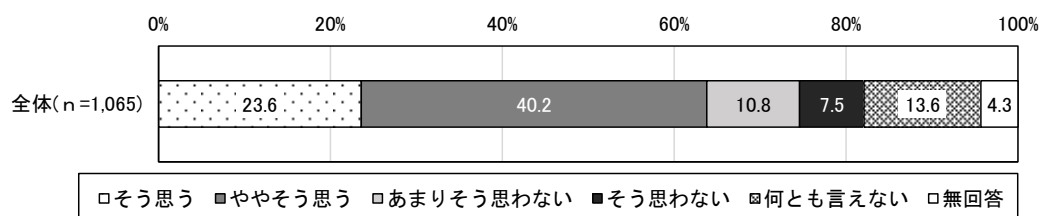
■差別をなくすために、行政は努力する必要がある （単数回答／2015年度調査、大阪府調査との比較）



6. どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ

どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だについてみると、「ややそう思う」が40.2%と最も高く、次いで「そう思う」が23.6%、「何とも言えない」が13.6%となっています。

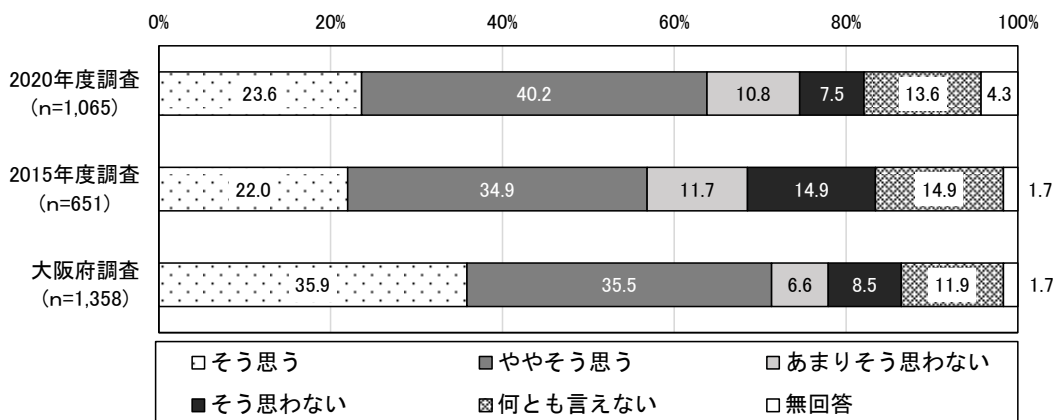
■どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ（単数回答／全体）



年度間比較をすると、2015年度調査では「そう思わない」が14.9%に対し、今回調査では7.5%と半減しています。また、2015年度調査では“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が56.9%に対し、今回調査では63.8%と6.9ポイント高くなっています。

大阪府の調査と比較すると、大阪府調査では“思う”が71.4%に対し、7.6ポイント低くなっています。

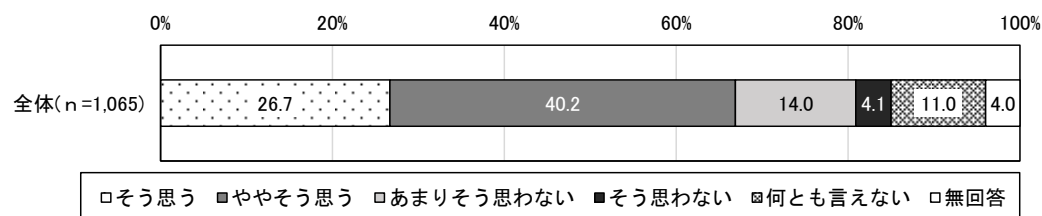
■どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ （単数回答／2015年度調査、大阪府調査との比較）



7. 差別を受けてきた人に対しては、格差をなくすために行政の支援が必要だ

差別を受けてきた人に対しては、格差をなくすために行政の支援が必要だについてみると、「ややそう思う」が40.2%と最も高く、次いで「そう思う」が26.7%、「あまりそう思わない」が14.0%となっています。

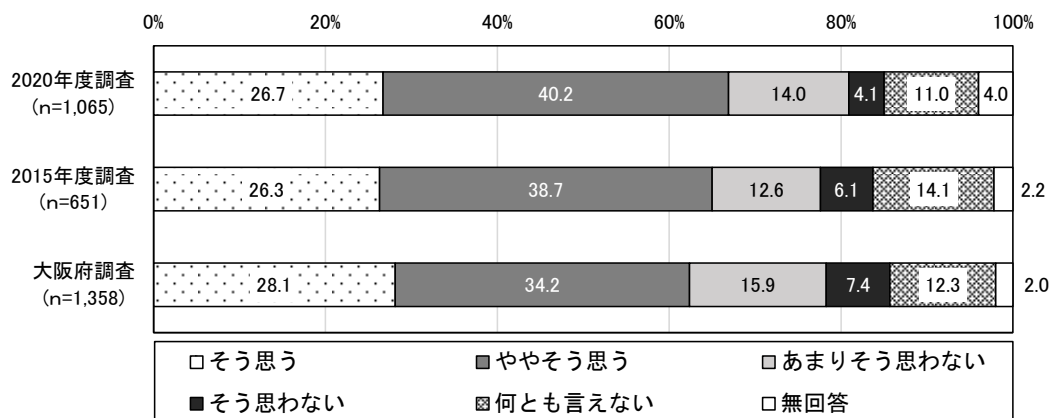
■差別を受けてきた人に対しては、格差をなくすために行政の支援が必要だ (単数回答／全体)



年度間比較をすると、2015年度調査では“思う”(「そう思う」+「ややそう思う」)が65.0%に対し、今回調査では66.9%と1.9ポイント高くなっています。

大阪府の調査と比較すると、大阪府調査では“思う”が62.3%に対し、4.6ポイント高くなっています。

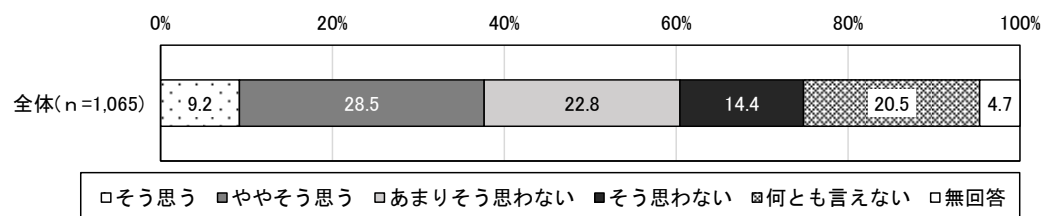
■差別を受けてきた人に対しては、格差をなくすために行政の支援が必要だ (単数回答／2015年度調査、大阪府調査との比較)



8. 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる

差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなるについてみると、「ややそう思う」が28.5%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」が22.8%、「何とも言えない」が20.5%となっています。

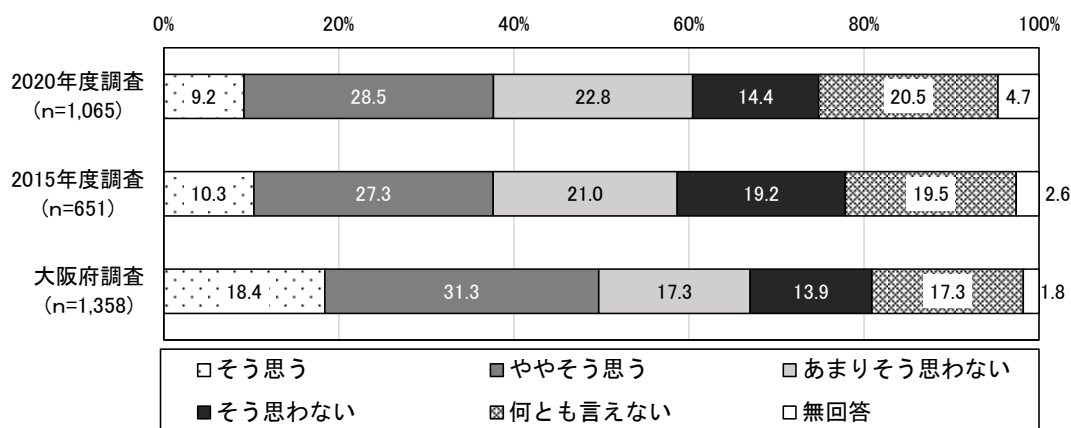
■差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる (単数回答／全体)



年度間比較をすると、2015年度調査では“思わない”（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）が40.2%に対し、今回調査では37.2%と3.0ポイント低くなっています。

大阪府の調査と比較すると、大阪府調査では“思わない”が31.2%に対し、6.0ポイント高くなっています。

■差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる (単数回答／2015年度調査、大阪府調査との比較)



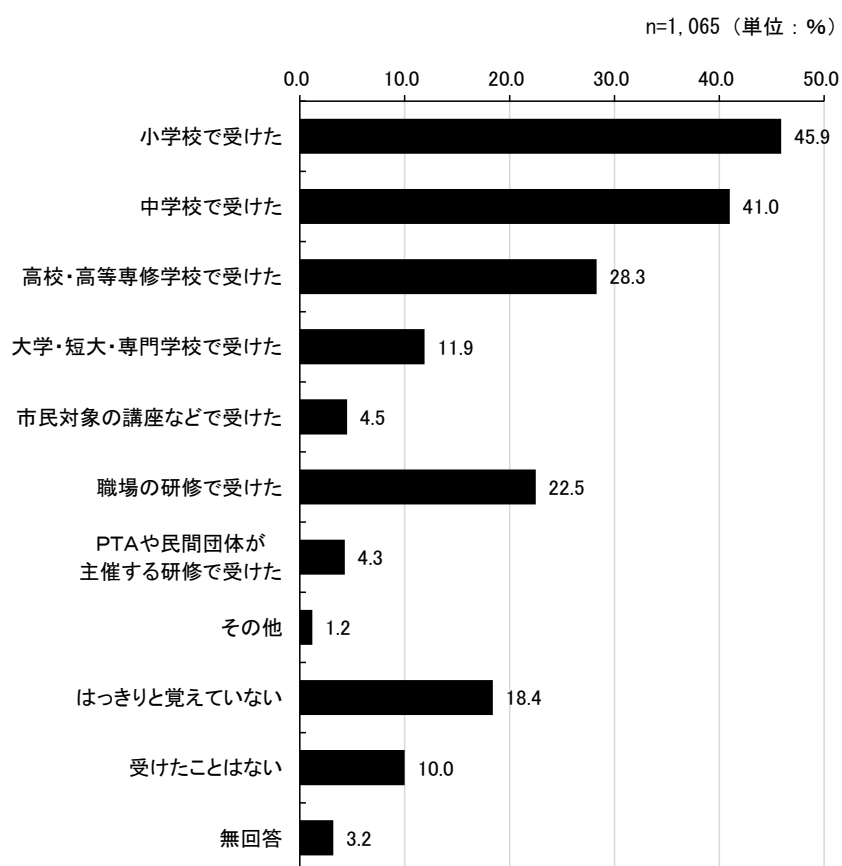
2-5-2. 人権問題についての学習経験について

(1) 人権問題についての学習経験

問 13 あなたは、学校、職場及び地域で、人権問題についての学習を受けたことがありますか。(〇はいくつでも)

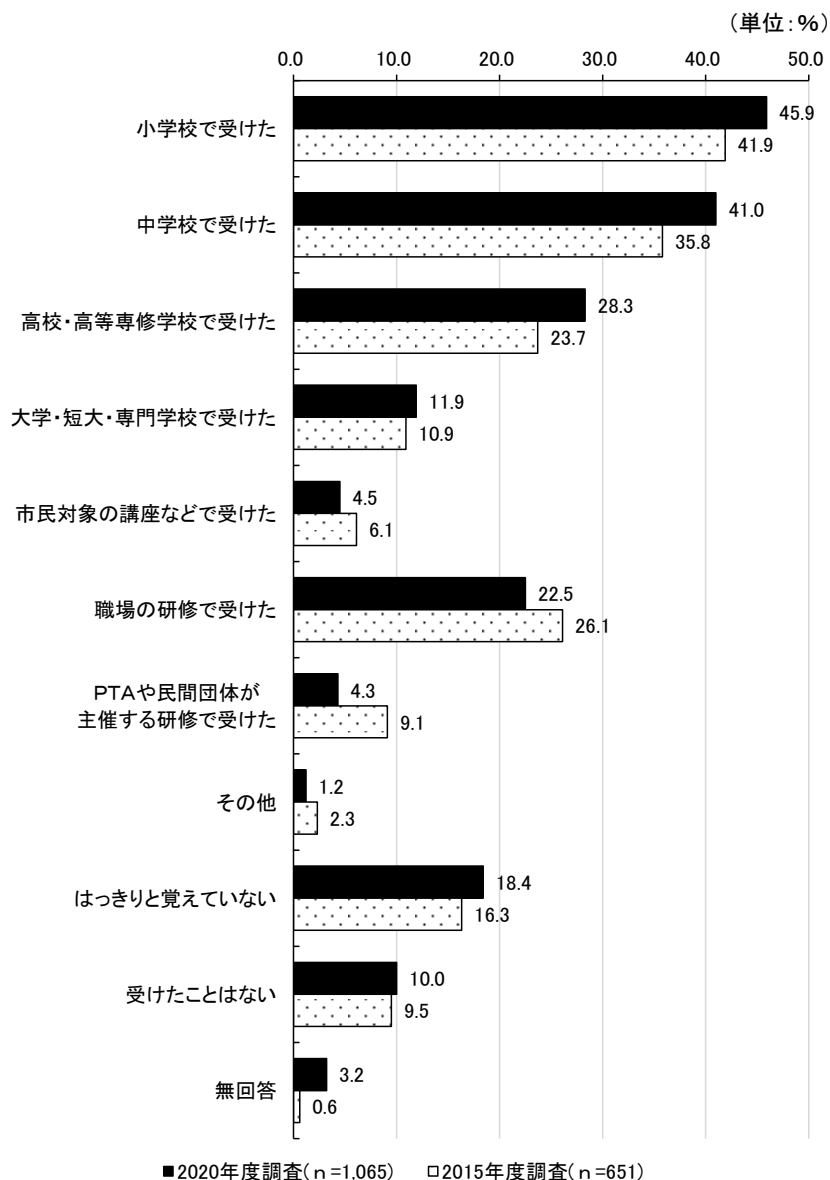
人権問題についての学習経験についてみると、「小学校で受けた」が45.9%と最も高く、次いで「中学校で受けた」が41.0%、「高校・高等専修学校で受けた」が28.3%となっています。

■人権問題についての学習経験（複数回答／全体）



年度間比較をすると、2015 年度調査では「市民対象の講座などで受けた」「職場の研修で受けた」「PTAや民間団体が主催する研修で受けた」が今回調査よりいずれも高くなっています。

■人権問題についての学習経験（複数回答／2015 年度調査）



※注1：2015 年度調査では「高校で受けたもの」

※注2：2015 年度調査では「大学で受けたもの」

性別にみると、いずれも「小学校で受けた」が最も高くなっていますが『男性』で41.2%、『女性』で49.4%と『女性』の方が8.2ポイント高くなっています。

年代別にみると、『19歳以下』から『50歳代』で「小学校で受けた」が、『60歳代』で「中学校で受けた」が、『70歳代』と『80歳以上』で「はっきりと覚えていない」「受けたことはない」がそれぞれ最も高くなっています。

■人権問題についての学習経験（複数回答／性別、年代別）

	n 数	小学校 で受けた	中学校 で受けた	高校・ 高等専 修学校 で受けた	大学・ 短大・ 専門学 校で受 けた	市民対 象の講 座など で受けた	職 場 の 研 修 で 受 け た	P T A や 民 間 団 体 が 主 催 す る 研 修 で 受 け た	そ の 他	は っ き り と 覚 え て い な い	受 け た こ と は な い	無 回 答
全体	100.0 1,065	45.9 489	41.0 437	28.3 301	11.9 127	4.5 48	22.5 240	4.3 46	1.2 13	18.4 196	10.0 106	3.2 34
性別												
男性	100.0 456	41.2 188	39.3 179	25.0 114	8.8 40	3.3 15	27.2 124	1.5 7	0.9 4	18.6 85	11.4 52	3.1 14
女性	100.0 601	49.4 297	42.3 254	30.8 185	14.1 85	5.5 33	19.3 116	6.3 38	1.5 9	18.1 109	9.0 54	3.2 19
答えたくない	100.0 8	50.0 4	50.0 4	25.0 2	25.0 2	- -	- -	12.5 1	- -	25.0 2	- -	12.5 1
無回答	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
年代別												
19歳以下	100.0 27	74.1 20	70.4 19	74.1 20	11.1 3	- -	3.7 1	- -	- -	7.4 2	3.7 1	- -
20歳代	100.0 100	73.0 73	70.0 70	57.0 57	36.0 36	- -	16.0 16	- -	2.0 2	13.0 13	- -	1.0 1
30歳代	100.0 108	73.1 79	63.9 69	35.2 38	16.7 18	1.9 2	29.6 32	0.9 1	0.9 1	16.7 18	0.9 1	- -
40歳代	100.0 157	75.8 119	58.6 92	34.4 54	12.1 19	3.8 6	19.7 31	3.2 5	1.3 2	6.4 10	5.1 8	1.3 2
50歳代	100.0 183	65.0 119	49.7 91	31.7 58	8.7 16	4.9 9	27.3 50	6.0 11	- -	16.9 31	1.6 3	- -
60歳代	100.0 191	29.3 56	35.1 67	24.1 46	11.0 21	3.1 6	30.4 58	6.8 13	2.1 4	25.1 48	6.3 12	0.5 1
70歳代	100.0 206	7.8 16	11.2 23	10.2 21	6.3 13	7.8 16	19.9 41	5.8 12	1.5 3	27.2 56	22.8 47	9.2 19
80歳以上	100.0 84	4.8 4	4.8 4	7.1 6	1.2 1	9.5 8	13.1 11	4.8 4	1.2 1	21.4 18	36.9 31	11.9 10
無回答	100.0 9	33.3 3	22.2 2	11.1 1	- -	11.1 1	- -	- -	- -	- -	33.3 3	11.1 1

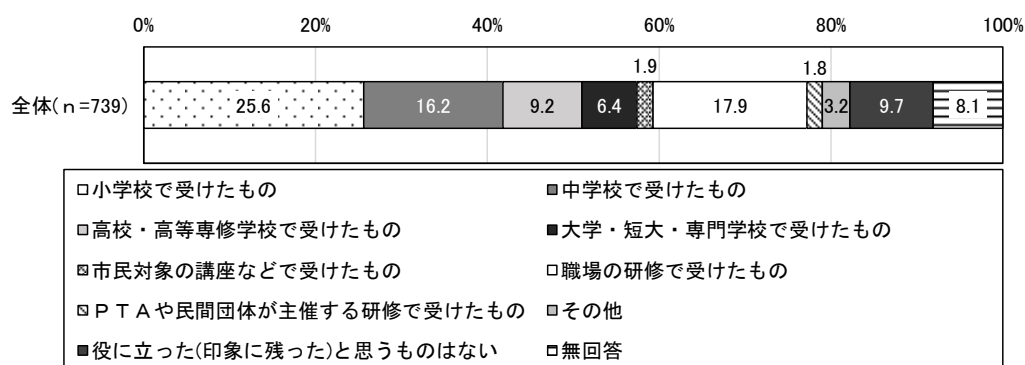
（２）人権意識を高める上で特に役立ったもの

（問 13 で「１～８」のいずれかに回答された方におたずねします。）

問 14 その中で、あなたの人権意識を高めるうえで特に役に立った（いちばん印象に残っている）ものはどれですか。（○は１つだけ）

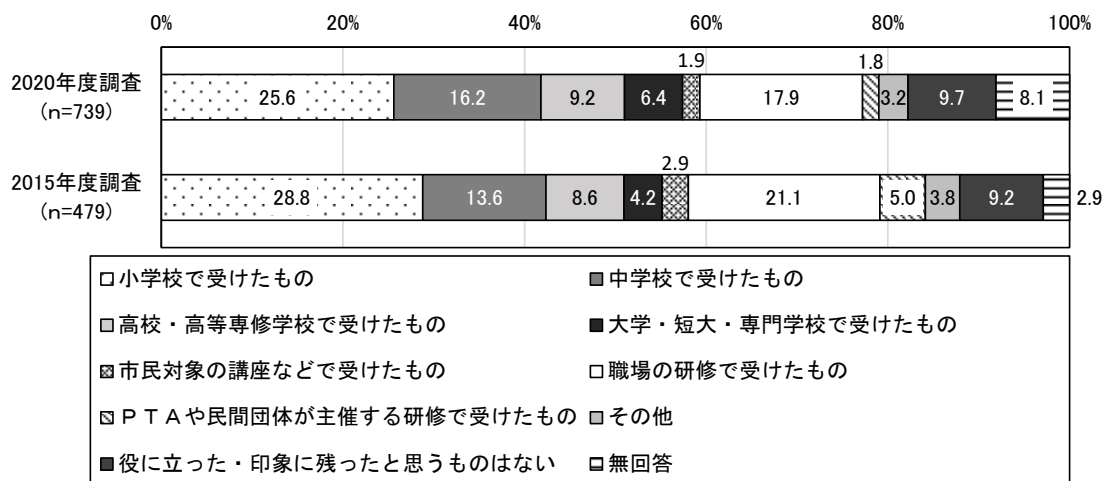
人権意識を高める上で特に役立ったものについてみると、「小学校で受けたもの」が 25.6%と最も高く、次いで「職場の研修で受けたもの」が 17.9%、「中学校で受けたもの」が 16.2%となっています。

■人権意識を高める上で特に役立ったもの（単数回答／全体）



年度間比較をすると、今回調査と 2015 年度調査のいずれも「小学校で受けたもの」「職場の研修で受けたもの」「中学校で受けたもの」が高い割合となっています。

■人権意識を高める上で特に役立ったもの（単数回答／2015 年度調査）



性別にみると、『男性』で「職場の研修で受けたもの」が、『女性』で「小学校で受けたもの」がそれぞれ最も高くなっています。

年代別にみると、『19歳以下』で「高校・高等専修学校で受けたもの」が、『20歳代』から『50歳代』で「小学校で受けたもの」が、『60歳代』から『80歳以上』で「職場の研修で受けたもの」がそれぞれ最も高くなっています。

■人権意識を高める上で特に役立ったもの（単数回答／性別、年代別）

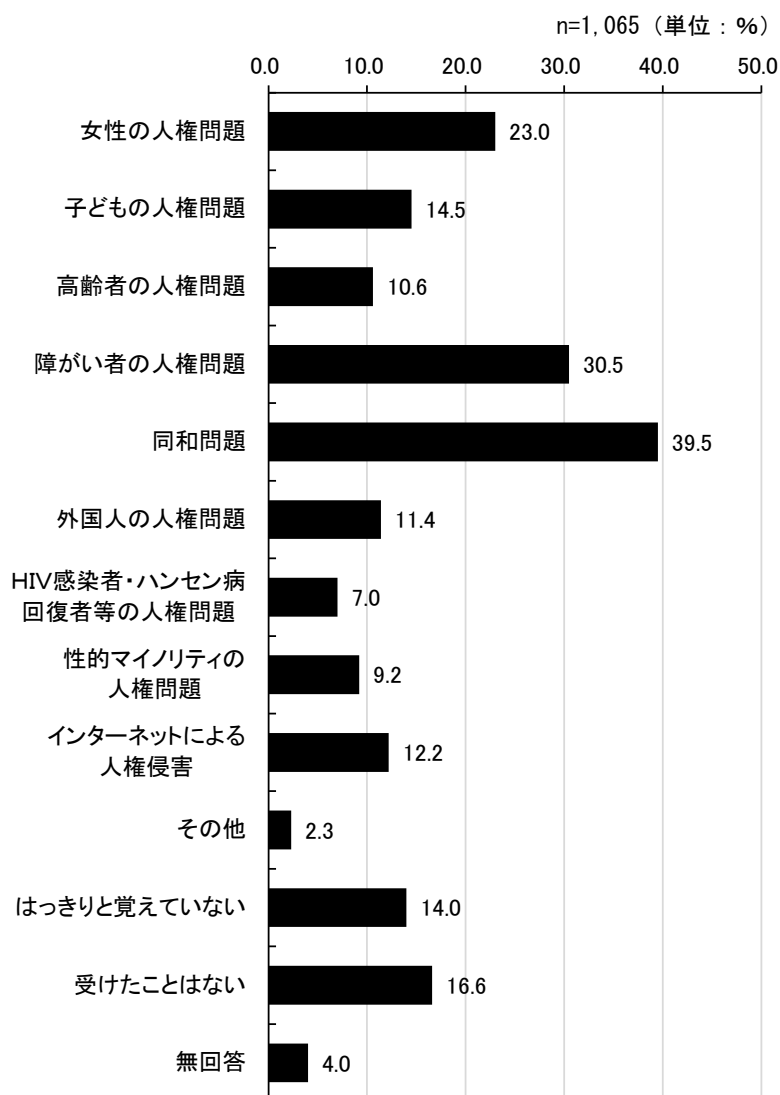
	n 数	小 学 校 で 受 け た も の	中 学 校 で 受 け た も の	受 け た も の 高 校 ・ 高 等 専 修 学 校 で	受 け た も の 大 学 ・ 短 大 ・ 専 門 学 校 で	受 け た も の 市 民 対 象 の 講 座 な ど で	職 場 の 研 修 で 受 け た も の	研 修 で 受 け た も の P T A や 民 間 団 体 が 主 催 す る	そ の 他	と 役 に 立 っ た も の は な い （ 印 象 に 残 っ た ）	無 回 答
全体	100.0 739	25.6 189	16.2 120	9.2 68	6.4 47	1.9 14	17.9 132	1.8 13	3.2 24	9.7 72	8.1 60
性別											
男性	100.0 307	23.8 73	17.6 54	10.1 31	4.2 13	1.3 4	26.1 80	1.0 3	2.9 9	8.1 25	4.9 15
女性	100.0 427	26.7 114	15.5 66	8.7 37	7.7 33	2.3 10	12.2 52	2.3 10	3.3 14	11.0 47	10.3 44
答えたくない	100.0 5	40.0 2	— —	— —	20.0 1	— —	— —	— —	20.0 1	— —	20.0 1
無回答	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
年代別											
19歳以下	100.0 24	8.3 2	20.8 5	50.0 12	8.3 2	— —	— —	— —	— —	8.3 2	4.2 1
20歳代	100.0 87	27.6 24	16.1 14	9.2 8	23.0 20	— —	6.9 6	— —	3.4 3	10.3 9	3.4 3
30歳代	100.0 89	38.2 34	14.6 13	3.4 3	3.4 3	— —	13.5 12	— —	6.7 6	12.4 11	7.9 7
40歳代	100.0 139	36.7 51	18.0 25	5.0 7	2.9 4	1.4 2	10.1 14	— —	2.9 4	11.5 16	11.5 16
50歳代	100.0 149	34.2 51	16.1 24	6.0 9	2.0 3	2.0 3	17.4 26	2.7 4	3.4 5	9.4 14	6.7 10
60歳代	100.0 133	14.3 19	18.0 24	11.3 15	6.0 8	0.8 1	27.1 36	2.3 3	2.3 3	7.5 10	10.5 14
70歳代	100.0 87	6.9 6	13.8 12	10.3 9	8.0 7	5.7 5	33.3 29	4.6 4	3.4 3	6.9 6	6.9 6
80歳以上	100.0 26	3.8 1	11.5 3	15.4 4	— —	11.5 3	34.6 9	7.7 2	— —	3.8 1	11.5 3
無回答	100.0 5	20.0 1	— —	20.0 1	— —	— —	— —	— —	— —	60.0 3	— —

（３）学校や職場、地域で経験した人権問題の学習分野

問 15 これまでにあなたが、学校、職場及び地域で、経験したことがある人権問題についての学習は、どのような分野に関するものでしたか。（〇はいくつでも）

学校や職場、地域で経験した人権問題の学習分野についてみると、「同和問題」が 39.5%と最も高く、次いで「障がい者の人権問題」が 30.5%、「女性の人権問題」が 23.0%となっています。

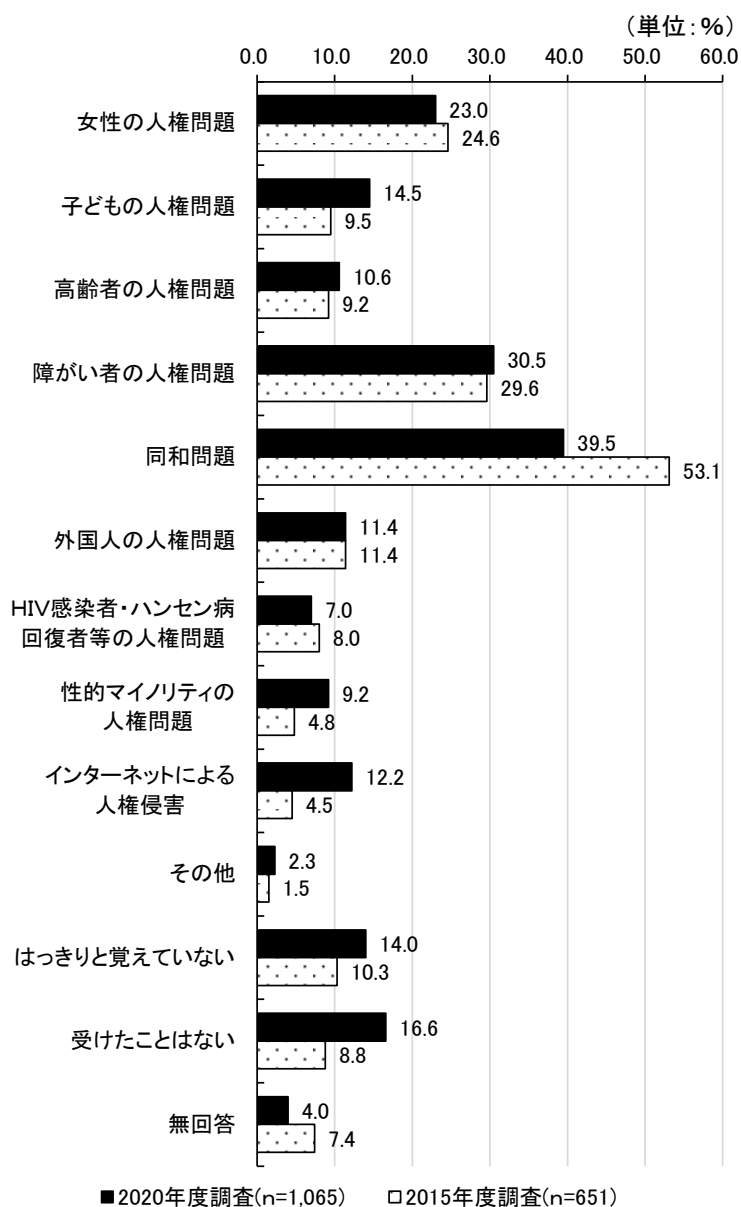
■学校や職場、地域で経験した人権問題の学習分野（複数回答／全体）



年度間比較をすると、2015 年度調査では「受けたことはない」が 8.8%に対し、今回調査では 16.6%と 7.8 ポイント、「インターネットによる人権侵害」が 4.5%に対し、12.2%と 7.7 ポイントそれぞれ高くなっています。

逆に、2015 年度調査では「同和問題」が 53.1%に対し、今回調査では 39.5%と 13.6 ポイント低くなっています。

■学校や職場、地域で経験した人権問題の学習分野（複数回答／2015 年度調査）



性別にみると、いずれの性別も「同和問題」が最も高くなっていますが『男性』で37.7%、『女性』で40.8%と『女性』の方が3.1ポイント高くなっています。

年代別にみると、『19歳以下』で「インターネットによる人権侵害」が、『20歳代』『30歳代』で「障がい者の人権問題」が、『40歳代』から『70歳代』で「同和問題」が、『80歳以上』で「受けたことはない」がそれぞれ最も高くなっています。

■学校や職場、地域で経験した人権問題の学習分野（複数回答／性別、年代別）

	n 数	女性 の人権 問題	子 ども の人権 問題	高 齢 者 の人権 問題	障 がい 者 の人権 問題	同 和 問 題	外 国 人 の 人権 問題	復 者 等 の 人権 問題	H I V 感 染 者 ・ ハ ン セ ン 病 回	性 的 マ イ ノ リ テ イ の 人権 問題	人 権 侵 害 イ ン タ ー ネ ッ ト に よ る	そ の 他	は っ き り と 覚 え て い な い	受 け た こ と は な い	無 回 答
全体	100.0 1,065	23.0 245	14.5 154	10.6 113	30.5 325	39.5 421	11.4 121	7.0 75	9.2 98	12.2 130	2.3 24	14.0 149	16.6 177	4.0 43	
性別															
男性	100.0 456	18.9 86	10.1 46	9.2 42	28.9 132	37.7 172	10.7 49	6.4 29	7.9 36	11.6 53	1.5 7	13.4 61	18.9 86	4.6 21	
女性	100.0 601	26.1 157	17.8 107	11.8 71	31.8 191	40.8 245	11.8 71	7.5 45	10.3 62	12.6 76	2.8 17	14.6 88	14.8 89	3.5 21	
答えたくない	100.0 8	25.0 2	12.5 1	－	25.0 2	50.0 4	12.5 1	12.5 1	－	12.5 1	－	－	25.0 2	12.5 1	
無回答	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
年代別															
19歳以下	100.0 27	25.9 7	25.9 7	11.1 3	29.6 8	22.2 6	11.1 3	7.4 2	18.5 5	40.7 11	3.7 1	11.1 3	18.5 5	－	
20歳代	100.0 100	34.0 34	26.0 26	14.0 14	47.0 47	25.0 25	21.0 21	23.0 23	22.0 22	29.0 29	1.0 1	20.0 20	7.0 7	－	
30歳代	100.0 108	33.3 36	25.0 27	12.0 13	46.3 50	29.6 32	16.7 18	13.9 15	13.0 14	15.7 17	5.6 6	13.0 14	11.1 12	5.6 6	
40歳代	100.0 157	23.6 37	16.6 26	9.6 15	32.5 51	47.1 74	12.1 19	4.5 7	9.6 15	10.8 17	3.2 5	13.4 21	12.1 19	2.5 4	
50歳代	100.0 183	26.2 48	14.2 26	8.7 16	36.6 67	51.4 94	13.1 24	7.1 13	11.5 21	12.0 22	1.6 3	16.9 31	10.9 20	－	
60歳代	100.0 191	18.8 36	11.5 22	9.4 18	22.5 43	50.8 97	9.4 18	4.7 9	5.8 11	8.9 17	2.1 4	11.5 22	14.7 28	3.1 6	
70歳代	100.0 206	17.0 35	7.8 16	14.6 30	22.8 47	35.0 72	6.8 14	2.9 6	4.4 9	6.8 14	1.9 4	12.1 25	27.2 56	5.8 12	
80歳以上	100.0 84	13.1 11	3.6 3	4.8 4	11.9 10	21.4 18	3.6 3	－	－	2.4 2	－	15.5 13	32.1 27	15.5 13	
無回答	100.0 9	11.1 1	11.1 1	－	22.2 2	33.3 3	11.1 1	－	11.1 1	11.1 1	－	－	33.3 3	22.2	

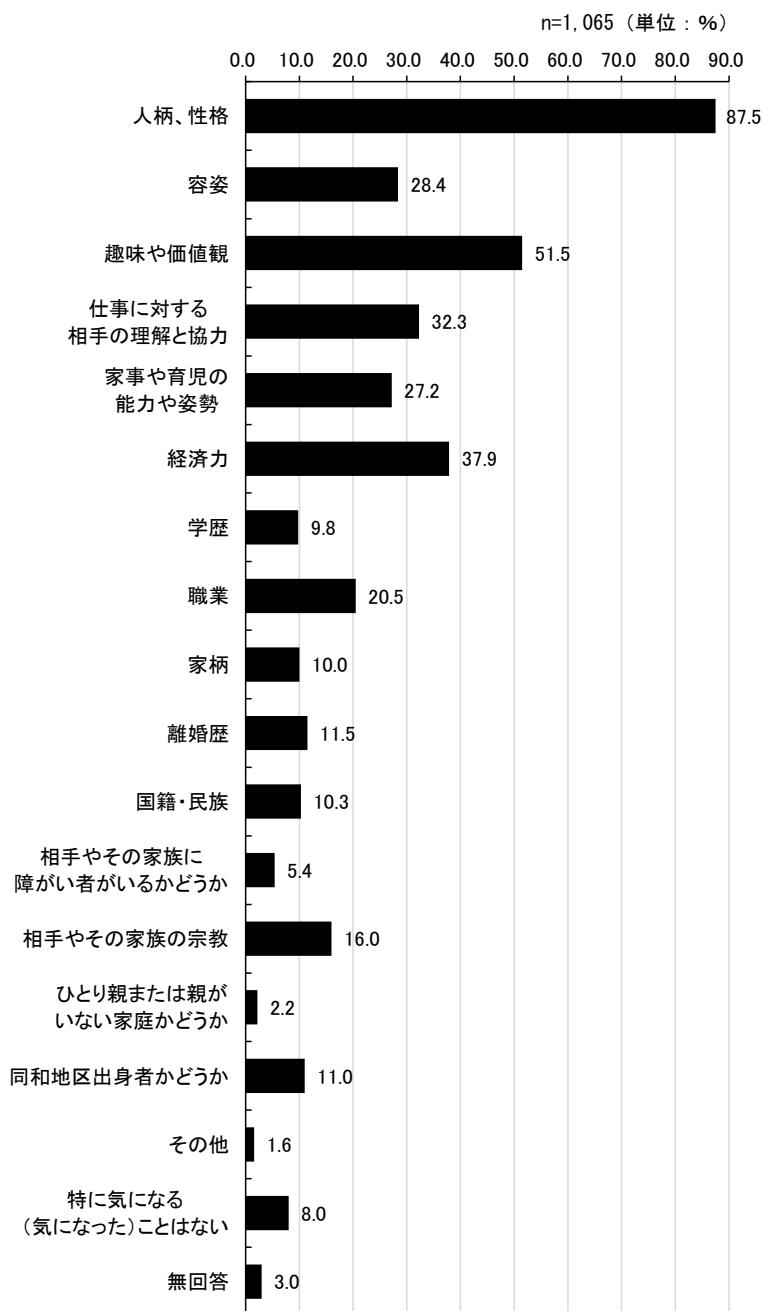
2-5-3. 人権問題についての考え

(1)-1 結婚相手を考える際に気になること（回答者自身）

問 16 ① 結婚相手を考える際に、気になること（なったこと）はどんなことですか。①あなたご自身の結婚の場合と、②お子様の結婚の場合とに分け、気になる項目を選んでください。お子様がいらっしゃらない方も「いる」と想定してお答えください。（①及び②のそれぞれについて〇はいくつでも）

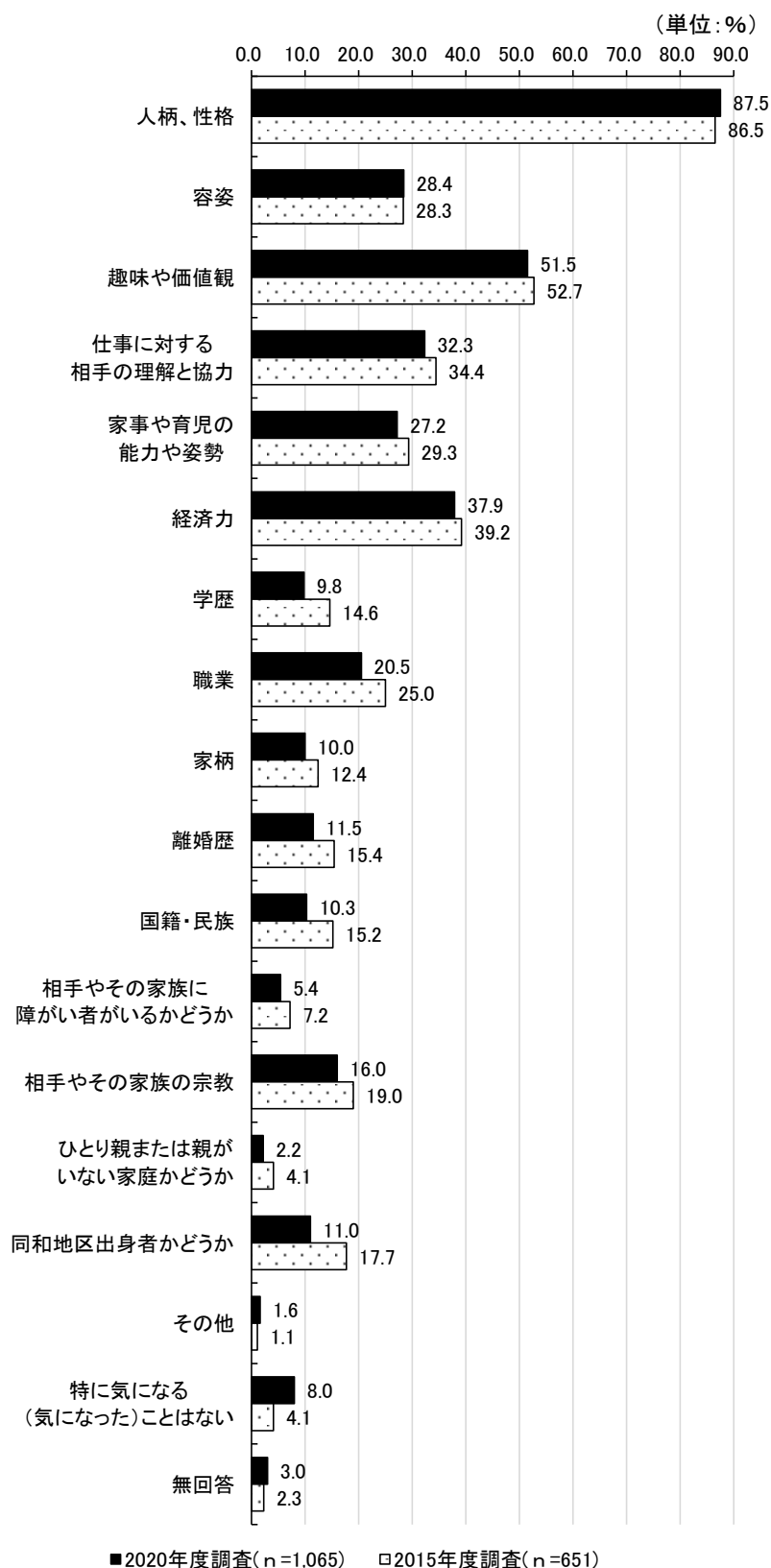
結婚相手を考える際に気になること（回答者自身）についてみると、「人柄、性格」が87.5%と最も高く、次いで「趣味や価値観」が51.5%、「経済力」が37.9%となっています。

■結婚相手を考える際に気になること（回答者自身）（複数回答／全体）



年度間比較をすると、2015 年度調査では「特に気になる（気になった）ことはない」が 4.1% に対し、今回調査では 8.0%と 3.9 ポイント高くなっています。その他の項目ではほぼ同じ割合か今回調査の方が低くなっており、特に「同和地区出身者かどうか」については、6.7 ポイント低くなっています。

■結婚相手を考える際に気になること（回答者自身）（複数回答／2015 年度調査）



性別にみると、いずれも「人柄、性格」が最も高くなっていますが『男性』で84.9%、『女性』で89.5%と『女性』の方が4.6ポイント高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「人柄、性格」が最も高くなっています。

■結婚相手を考える際に気になること（回答者自身）

（複数回答／性別、年代別）

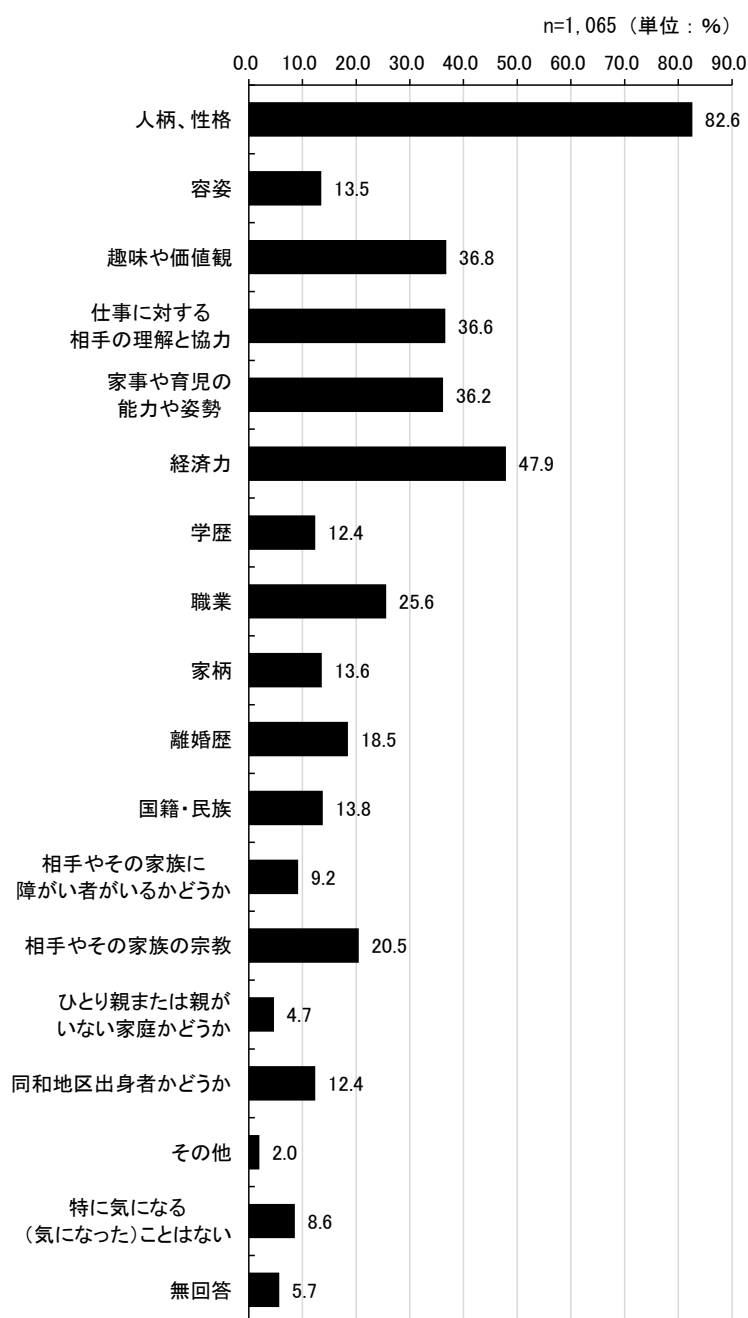
	n 数	人 柄、 性 格	容 姿	趣 味 や 価 値 観	仕 事 に 対 する 理 解 と 協 力	家 事 や 育 児 の 能 力 や 姿 勢	経 済 力	学 歴	職 業	家 柄	離 婚 歴	国 籍 ・ 民 族	相 手 や そ の 家 族 に 障 が い る か ど う か	相 手 や そ の 家 族 の 宗 教	い と り 親 ま た は 親 が い ない 家 庭 か ど う か	同 和 地 区 出 身 者 か ど う か	そ の 他	特 に 気 に な る （ 気 に な つ た ）	無 回 答
全体	100.0 1,065	87.5 932	28.4 302	51.5 549	32.3 344	27.2 290	37.9 404	9.8 104	20.5 218	10.0 106	11.5 122	10.3 110	5.4 58	16.0 170	2.2 23	11.0 117	1.6 17	8.0 85	3.0 32
性別																			
男性	100.0 456	84.9 387	35.3 161	48.5 221	30.9 141	27.0 123	13.4 61	5.3 24	8.8 40	6.8 31	9.4 43	10.7 49	5.0 23	10.1 46	2.2 10	8.8 40	1.8 8	11.4 52	3.9 18
女性	100.0 601	89.5 538	23.1 139	53.6 322	32.9 198	27.5 165	56.4 339	13.3 80	29.5 177	12.3 74	13.1 79	10.0 60	5.8 35	20.5 123	2.2 13	12.8 77	1.5 9	5.5 33	2.3 14
答えたくない	100.0 8	87.5 7	25.0 2	75.0 6	62.5 5	25.0 2	50.0 4	- -	12.5 1	12.5 1	- -	12.5 1	- -	12.5 1	- -	- -	- -	- -	- -
無回答	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
年代別																			
19歳以下	100.0 27	85.2 23	55.6 15	70.4 19	44.4 12	48.1 13	44.4 12	7.4 2	33.3 9	11.1 3	3.7 1	7.4 2	- -	11.1 3	- -	- -	7.4 2	11.1 3	- -
20歳代	100.0 100	92.0 92	42.0 42	70.0 70	62.0 62	66.0 66	47.0 47	8.0 8	25.0 25	9.0 9	21.0 21	11.0 11	8.0 8	22.0 22	4.0 4	4.0 4	1.0 1	4.0 4	- -
30歳代	100.0 108	91.7 99	38.0 41	63.9 69	45.4 49	49.1 53	45.4 49	8.3 9	21.3 23	17.6 19	19.4 21	10.2 11	8.3 9	25.9 28	2.8 3	6.5 7	1.9 2	3.7 4	- -
40歳代	100.0 157	91.1 143	30.6 48	58.6 92	32.5 51	25.5 40	38.2 60	10.2 16	19.1 30	10.2 16	15.9 25	9.6 15	6.4 10	26.8 42	2.5 4	12.1 19	1.9 3	6.4 10	1.3 2
50歳代	100.0 183	89.1 163	24.0 44	54.1 99	27.9 51	21.9 40	42.6 78	11.5 21	21.9 40	9.8 18	9.8 18	9.3 17	3.3 6	17.5 32	1.6 3	13.1 24	1.6 3	4.9 9	2.7 5
60歳代	100.0 191	87.4 167	25.1 48	46.6 89	26.2 50	16.2 31	31.9 61	8.4 16	16.2 31	7.3 14	5.2 10	8.4 16	3.7 7	8.9 17	2.6 5	14.1 27	0.5 1	9.4 18	2.1 4
70歳代	100.0 206	82.0 169	19.9 41	39.3 81	22.3 46	16.0 33	33.0 68	11.2 23	23.3 48	10.2 21	10.2 21	13.1 27	5.3 11	10.2 21	1.0 2	13.6 28	1.5 3	13.1 27	6.8 14
80歳以上	100.0 84	82.1 69	23.8 20	32.1 27	23.8 20	13.1 11	29.8 25	10.7 9	13.1 11	6.0 5	6.0 5	11.9 10	8.3 7	2.4 2	2.4 2	8.3 7	2.4 2	11.9 10	7.1 6
無回答	100.0 9	77.8 7	33.3 3	33.3 3	33.3 3	33.3 3	44.4 4	- -	11.1 1	11.1 1	- -	11.1 1	- -	33.3 3	- -	11.1 1	- -	- -	11.1 1

(1)－2 結婚相手を考える際に気になること（回答者の子供）

問 16 ② 結婚相手を考える際に、気になること（なったこと）はどんなことですか。①あなたご自身の結婚の場合と、②お子様の結婚の場合とに分け、気になる項目を選んでください。お子様がいらっしゃる方も「いる」と想定してお答えください。（①及び②のそれぞれについて〇はいくつでも）

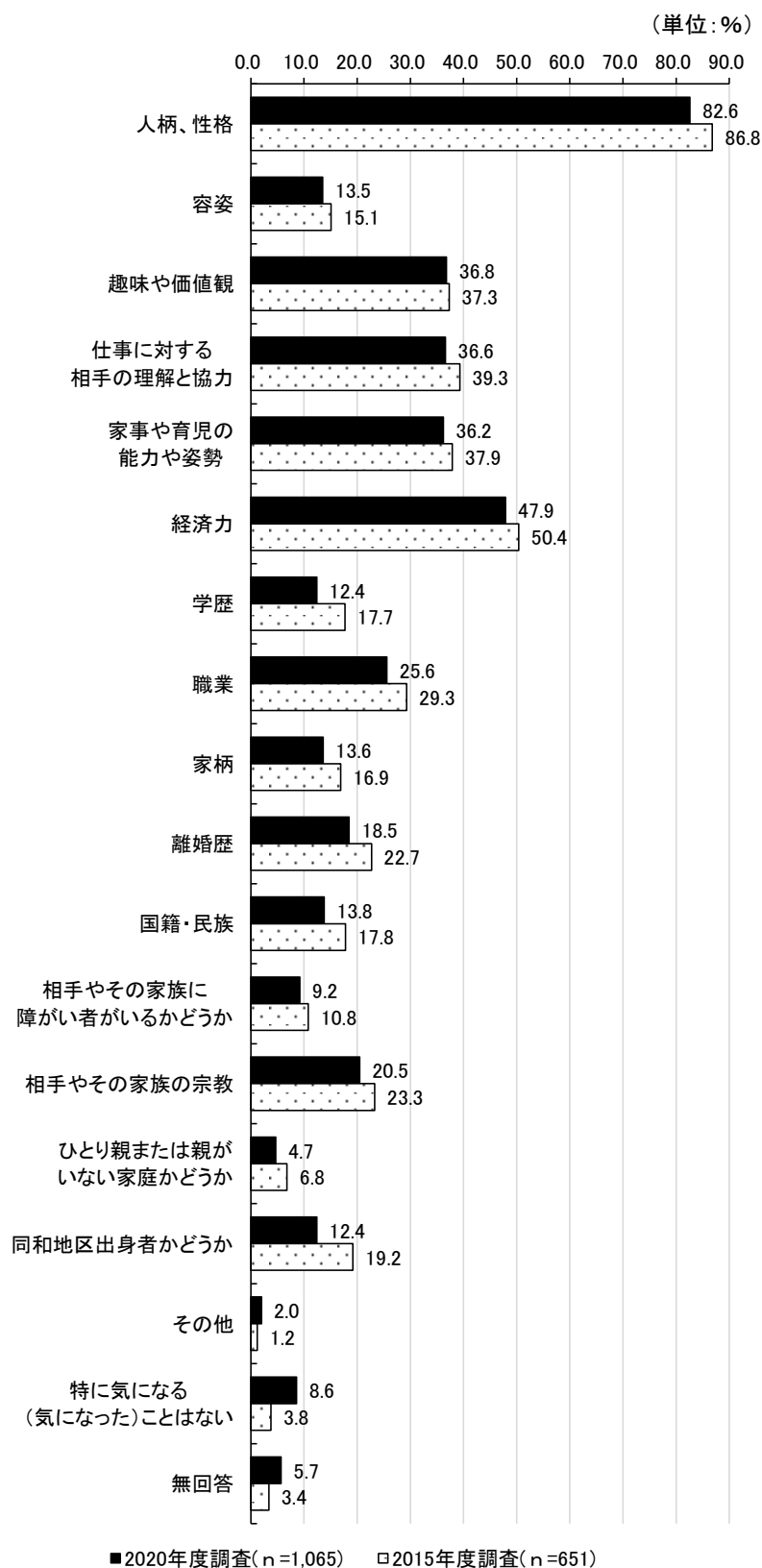
結婚相手を考える際に気になること（回答者の子供）についてみると、「人柄、性格」が 82.6%と最も高く、次いで「経済力」が 47.9%、「趣味や価値観」が 36.8%となっています。

■結婚相手を考える際に気になること（回答者の子供）（複数回答／全体）



年度間比較をすると、2015 年度調査では「特に気になる（気になった）ことはない」が 3.8% に対し、今回調査では 8.6%と 4.8 ポイント高くなっています。その他の項目ではすべて今回調査の方が低くなっており、特に「同和地区出身者かどうか」については、6.8 ポイント低くなっています。

■結婚相手を考える際に気になること（回答者の子供）（複数回答／2015 年度調査）



性別にみると、いずれも「人柄、性格」が最も高くなっていますが『男性』で78.9%、『女性』で85.5%と『女性』の方が6.6ポイント高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「人柄、性格」が最も高くなっています。

■結婚相手を考える際に気になること（回答者の子供）
（複数回答／性別、年代別）

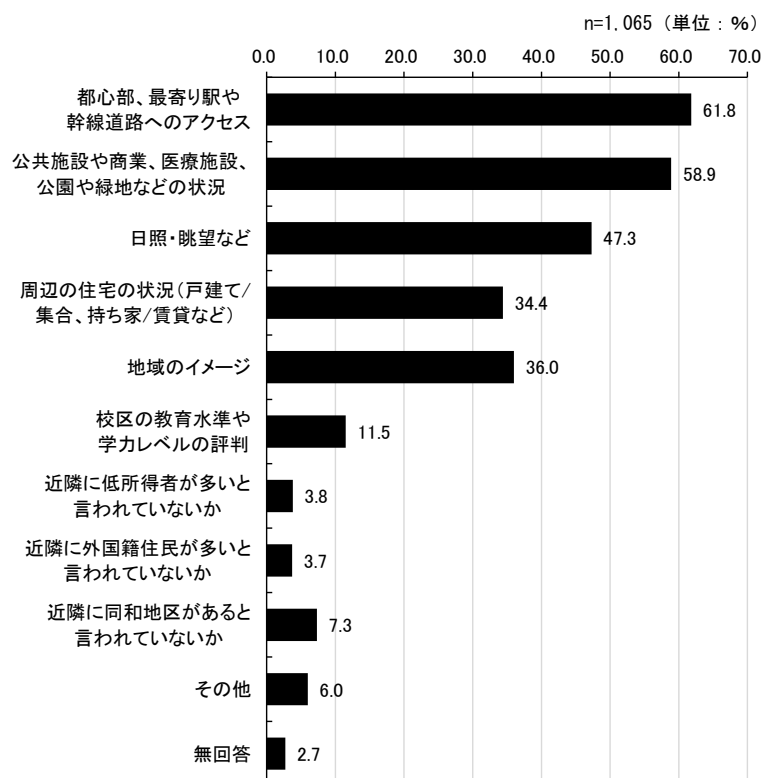
	n 数	人 柄 、 性 格	容 姿	趣 味 や 価 値 観	相 手 の 理 解 と 協 力	家 事 や 育 児 の 能 力 や 姿 勢	経 済 力	学 歴	職 業	家 柄	離 婚 歴	国 籍 ・ 民 族	障 が い る か ど う か	相 手 や そ の 家 族 の 宗 教	い と り 親 ま た は 親 が ど う か	同 和 地 区 出 身 者 か ど う か	そ の 他	特 に 気 に な る （ 気 に な っ た こ と は な い ）	無 回 答
全体	100.0 1,065	82.6 880	13.5 144	36.8 392	36.6 390	36.2 386	47.9 510	12.4 132	25.6 273	13.6 145	18.5 197	13.8 147	9.2 98	20.5 218	4.7 50	12.4 132	2.0 21	8.6 92	5.7 61
性別																			
男性	100.0 456	78.9 360	16.4 75	34.4 157	30.0 137	29.8 136	34.9 159	9.2 42	17.3 79	10.3 47	14.5 66	15.4 70	8.3 38	14.3 65	4.2 19	10.5 48	1.8 8	12.7 58	6.6 30
女性	100.0 601	85.5 514	11.1 67	38.3 230	41.3 248	40.9 246	57.7 347	14.8 89	31.9 192	16.0 96	21.6 130	12.6 76	9.8 59	25.5 153	5.0 30	14.0 84	2.2 13	5.3 32	5.2 31
答えたくない	100.0 8	75.0 6	25.0 2	62.5 5	62.5 5	50.0 4	50.0 4	12.5 1	25.0 2	25.0 2	12.5 1	12.5 1	12.5 1	—	12.5 1	—	—	25.0 2	—
無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
年代別																			
19歳以下	100.0 27	74.1 20	48.1 13	48.1 13	37.0 10	44.4 12	44.4 12	11.1 3	44.4 12	11.1 3	11.1 3	18.5 5	—	11.1 3	—	—	3.7 1	11.1 3	3.7 1
20歳代	100.0 100	81.0 81	14.0 14	38.0 38	53.0 53	62.0 62	57.0 57	10.0 10	30.0 30	19.0 19	27.0 27	18.0 18	14.0 14	25.0 25	8.0 8	11.0 11	2.0 2	9.0 9	6.0 6
30歳代	100.0 108	82.4 89	18.5 20	41.7 45	47.2 51	57.4 62	52.8 57	13.0 14	33.3 36	26.9 29	30.6 33	19.4 21	17.6 19	31.5 34	9.3 10	10.2 11	1.9 2	5.6 6	8.3 9
40歳代	100.0 157	86.0 135	17.8 28	47.1 74	40.1 63	43.3 68	56.7 89	14.0 22	33.1 52	16.6 26	26.8 42	12.7 20	12.1 19	36.9 58	5.1 8	17.2 27	3.2 5	9.6 15	2.5 4
50歳代	100.0 183	82.5 151	11.5 21	41.5 76	36.6 67	36.1 66	50.3 92	12.0 22	24.0 44	13.1 24	20.2 37	12.6 23	9.3 17	23.5 43	5.5 10	12.0 22	2.7 5	6.0 11	5.5 10
60歳代	100.0 191	85.3 163	10.5 20	34.0 65	26.7 51	25.1 48	40.8 78	9.4 18	18.3 35	8.9 17	8.4 16	8.9 17	4.2 8	11.0 21	2.1 4	12.0 23	1.0 2	8.4 16	4.2 8
70歳代	100.0 206	81.6 168	9.7 20	28.6 59	34.0 70	22.3 46	45.1 93	16.5 34	25.2 52	10.2 21	15.5 32	14.6 30	7.3 15	11.2 23	2.9 6	13.6 28	1.5 3	10.7 22	5.3 11
80歳以上	100.0 84	79.8 67	8.3 7	22.6 19	25.0 21	22.6 19	34.5 29	10.7 9	14.3 12	6.0 5	7.1 6	14.3 12	6.0 5	8.3 7	4.8 4	10.7 9	1.2 1	10.7 9	11.9 10
無回答	100.0 9	66.7 6	11.1 1	33.3 3	44.4 4	33.3 3	33.3 3	—	—	11.1 1	11.1 1	11.1 1	11.1 1	44.4 4	—	11.1 1	—	11.1 1	22.2 2

(2) 家を買ったり借りたりする際に重視する立地条件

問 17 あなたが家を買ったり借りたりする際に重視する（した）立地条件は何ですか。
（○はいくつでも）

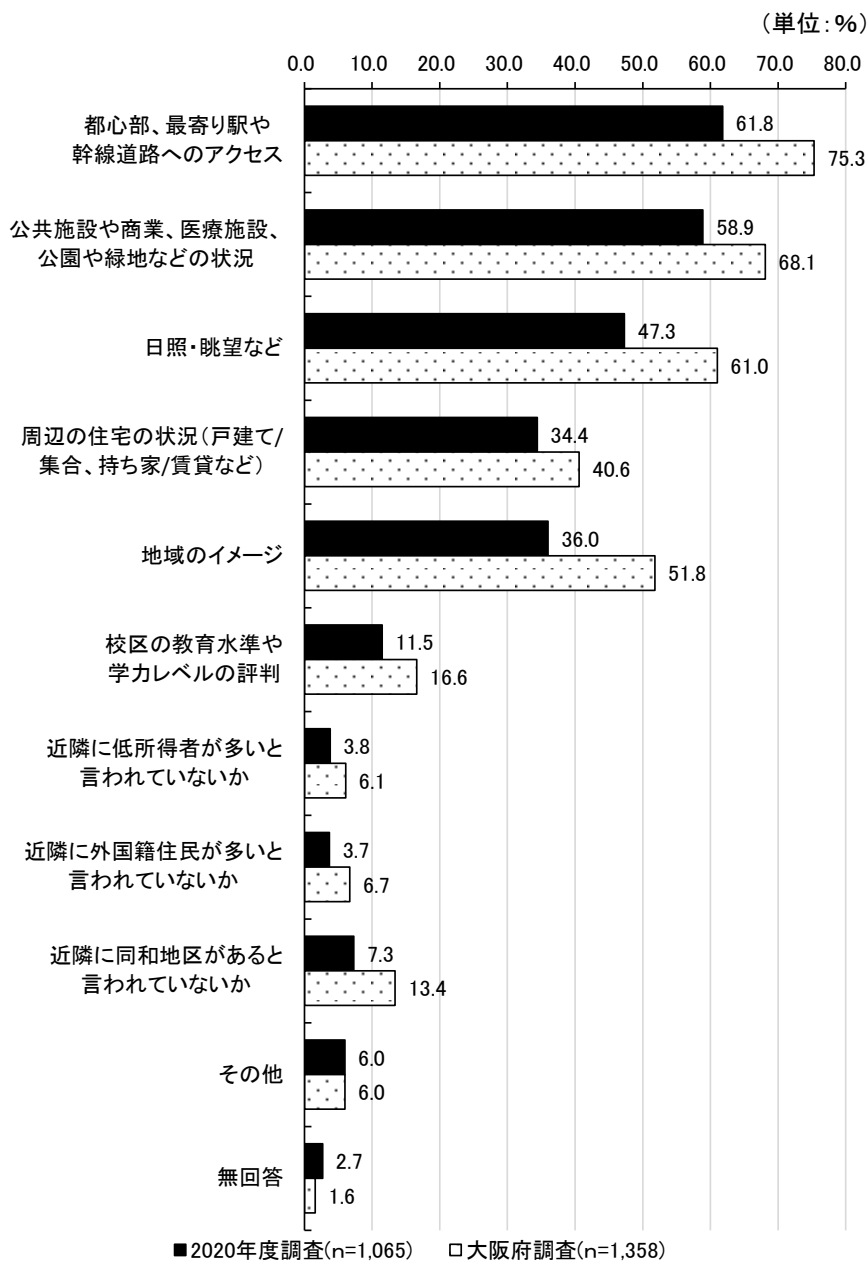
家を買ったり借りたりする際に重視する立地条件についてみると、「都心部、最寄り駅や幹線道路へのアクセス」が 61.8%と最も高く、次いで「公共施設や商業、医療施設、公園や緑地などの状況」が 58.9%、「日照・眺望など」が 47.3%となっています。

■家を買ったり借りたりする際に重視する立地条件（複数回答／全体）



大阪府の調査と比較すると、大阪府調査ではすべての項目について今回調査より高くなっていますが、特に「地域イメージ」「日照・眺望など」「都心部、最寄り駅や幹線道路へのアクセス」については10ポイント以上高くなっています。

■家を買ったり借りたりする際に重視する立地条件（複数回答／大阪府調査との比較）



性別にみると、『男性』で「都心部、最寄り駅や幹線道路へのアクセス」が、『女性』で「公共施設や商業、医療施設、公園や緑地などの状況」がそれぞれ最も高くなっています。

年代別にみると、『19 歳以下』から『50 歳代』で「都心部、最寄り駅や幹線道路へのアクセス」が、『60 歳代』から『80 歳以上』で「公共施設や商業、医療施設、公園や緑地などの状況」がそれぞれ最も高くなっています。

■家を買ったり借りたりする際に重視する立地条件
(複数回答／性別、年代別)

	n 数	幹 線 道 路 へ の ア ク セ ス	都 心 部 、 最 寄 り 駅 や	公 共 施 設 や 商 業 、 医 療 施 設 、	日 照 ・ 眺 望 な ど	周 辺 の 住 宅 の 状 況 (戸 建 て 集 合 、 持 ち 家 / 賃 貸 な ど)	地 域 の イ メ ー ジ	校 区 の 教 育 水 準 や 学 力 レ ベ ル の 評 判	近 隣 に 低 所 得 者 が 多 い と 言 わ れ て い な い か	近 隣 に 外 国 籍 住 民 が 多 い と 言 わ れ て い な い か	近 隣 に 同 和 地 区 が あ る と 言 わ れ て い な い か	そ の 他	無 回 答
全体	100.0 1,065	61.8 658	58.9 627	47.3 504	34.4 366	36.0 383	11.5 122	3.8 41	3.7 39	7.3 78	6.0 64	2.7 29	
性別													
男性	100.0 456	64.0 292	56.4 257	43.0 196	34.9 159	34.6 158	9.0 41	3.1 14	2.6 12	7.7 35	7.0 32	3.1 14	
女性	100.0 601	59.9 360	60.7 365	50.7 305	33.9 204	36.9 222	13.3 80	4.5 27	4.5 27	7.2 43	5.3 32	2.5 15	
答えたくない	100.0 8	75.0 6	62.5 5	37.5 3	37.5 3	37.5 3	12.5 1	-	-	-	-	-	
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
年代別													
19歳以下	100.0 27	74.1 20	55.6 15	44.4 12	33.3 9	40.7 11	11.1 3	-	3.7 1	-	3.7 1	-	
20歳代	100.0 100	83.0 83	64.0 64	35.0 35	24.0 24	43.0 43	11.0 11	5.0 5	6.0 6	6.0 6	6.0 6	1.0 1	
30歳代	100.0 108	66.7 72	50.0 54	41.7 45	40.7 44	38.0 41	17.6 19	3.7 4	2.8 3	6.5 7	13.0 14	0.9 1	
40歳代	100.0 157	58.6 92	51.6 81	48.4 76	33.1 52	33.8 53	14.6 23	5.1 8	2.5 4	5.7 9	8.9 14	1.9 3	
50歳代	100.0 183	72.1 132	59.0 108	52.5 96	30.6 56	31.7 58	12.0 22	5.5 10	4.9 9	8.7 16	4.4 8	1.1 2	
60歳代	100.0 191	59.2 113	67.0 128	46.1 88	34.0 65	35.6 68	8.9 17	2.1 4	2.6 5	9.9 19	3.7 7	1.6 3	
70歳代	100.0 206	50.5 104	60.7 125	53.9 111	42.2 87	39.8 82	9.2 19	4.4 9	3.4 7	7.8 16	4.4 9	3.4 7	
80歳以上	100.0 84	45.2 38	58.3 49	45.2 38	31.0 26	31.0 26	7.1 6	-	3.6 3	4.8 4	6.0 5	13.1 11	
無回答	100.0 9	44.4 4	33.3 3	33.3 3	33.3 3	11.1 1	22.2 2	11.1 1	11.1 1	11.1 1	-	11.1 1	

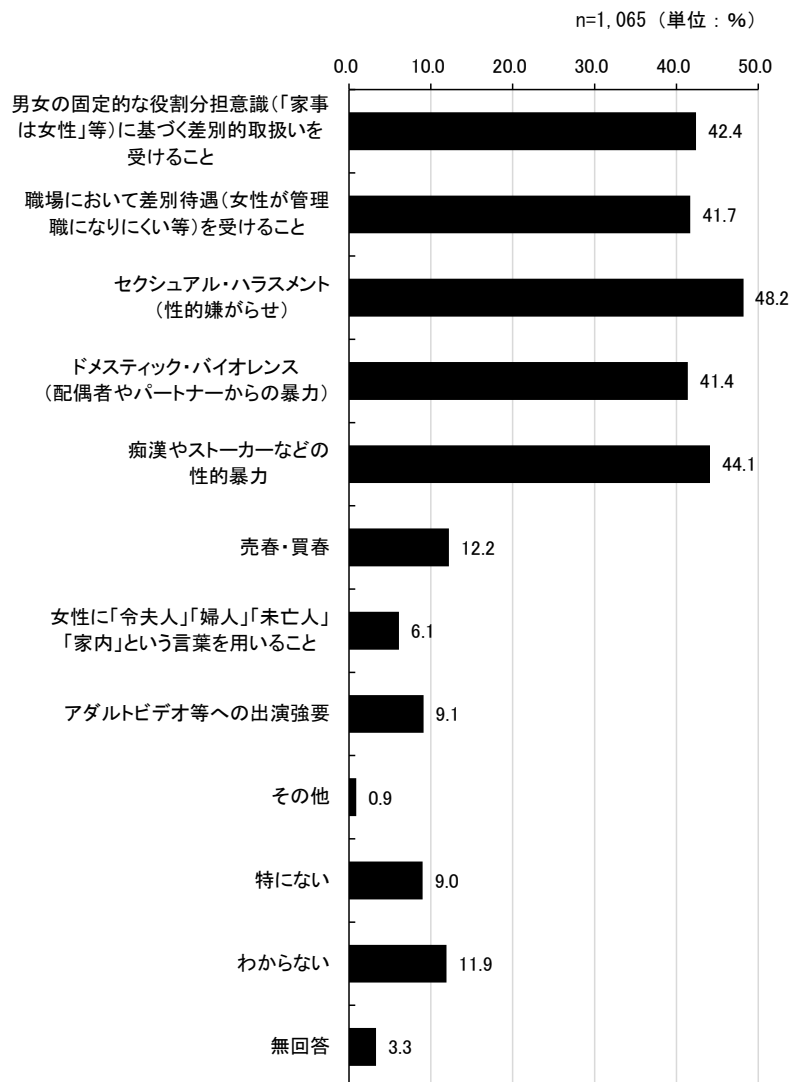
2-5-4. さまざまな人権問題について

(1) 女性に関しての人権問題

問 18 あなたは、女性に関して現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。
(○はいくつでも)

女性に関しての人権問題についてみると、「セクシュアル・ハラスメント (性的嫌がらせ)」が 48.2%と最も高く、次いで「痴漢やストーカーなどの性的暴力」が 44.1%、「男女の固定的な役割分担意識 (「家事は女性」等) に基づく差別的取扱いを受けること」が 42.4%となっています。

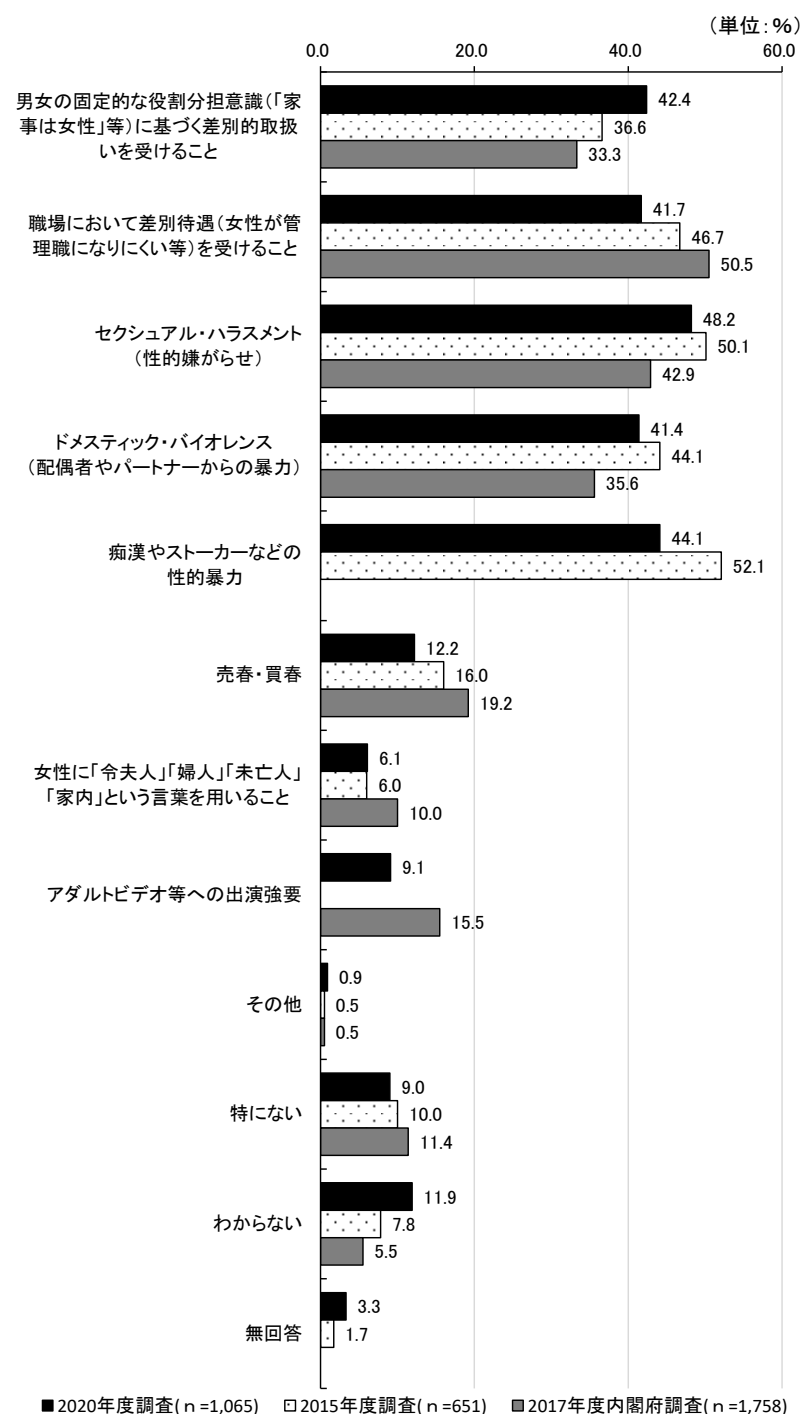
■女性に関しての人権問題 (複数回答／全体)



年度間比較をすると、2015 年度調査では「男女の固定的な役割分担意識（「家事は女性」等）に基づく差別的取扱いを受けること」が 36.6%に対し、今回調査では 42.4%と 5.8 ポイント高くなっていますが、その他のほぼすべての項目で今回調査の方が低くなっています。

国の調査と比較すると、内閣府調査では「男女の固定的な役割分担意識（「家事は女性」等）に基づく差別的取扱いを受けること」が 33.3%に対し、今回調査では 42.4%と 9.1 ポイント高くなっています。

■女性に関しての人権問題（複数回答／2015 年度調査、内閣府調査との比較）



※2015 年度の調査データには選択肢「アダルトビデオ等への出演強要」がないため、グラフ化していない。内閣府の調査データには選択肢「痴漢やストーカーなどの性的暴力」「無回答」が無いいため、グラフ化していない。

性別にみると、『女性』で「男女の固定的な役割分担意識（「家事は女性」等）に基づく差別的取扱いを受けること」が『男性』で「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」がそれぞれ最も高くなっています。

年代別にみると、『19歳以下』から『40歳代』と『60歳代』で「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」が、『50歳代』で「痴漢やストーカーなどの性的暴力」が、『70歳代』『80歳以上』で「職場において差別待遇（女性が管理職になりにくい等）を受けること」がそれぞれ最も高くなっています。

■女性に関しての人権問題（複数回答／性別、年代別）

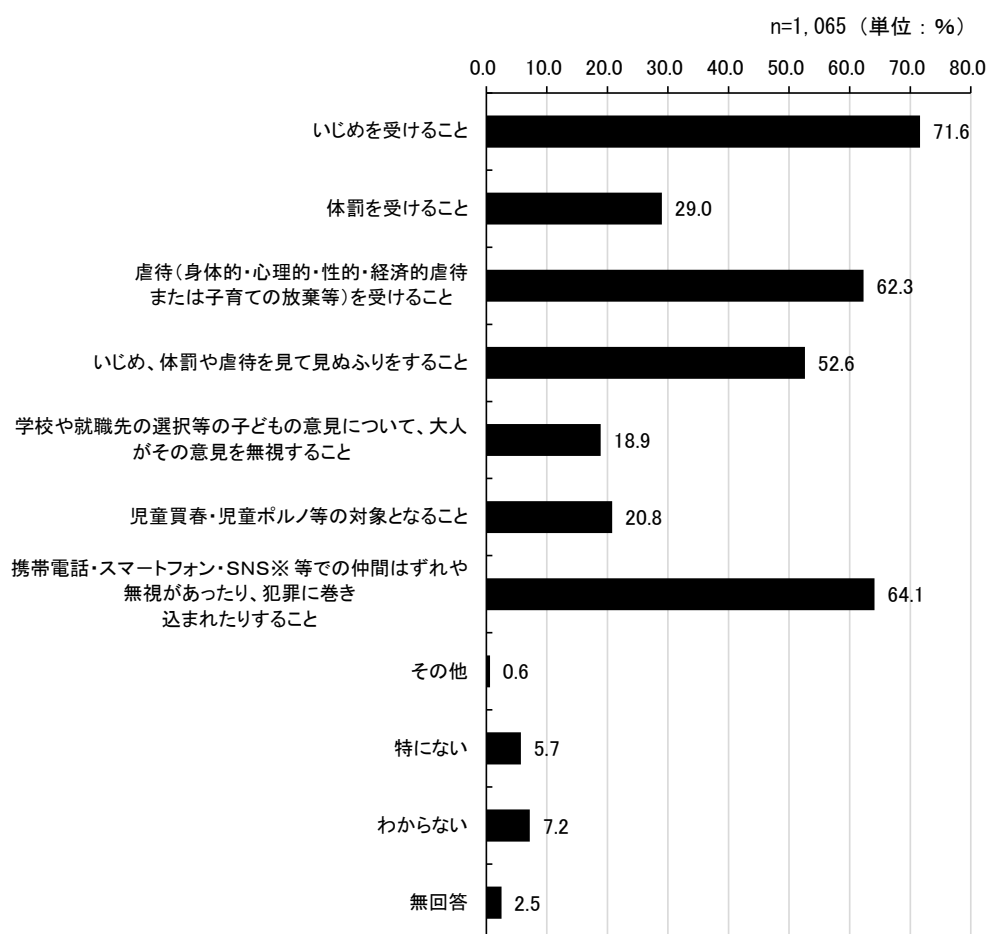
	n 数	男女の固 定的な役 割分担意 識（「家 事は女性 」等）に 基づく差 別的取扱 いを受け ること	職 場 に お い て 差 別 待 遇 （ 女 性 が 管 理 職 に な り に く い 等 ） を 受 け る こ と	セ ク シ ュ ア ル ・ ハ ラ ス メ ン ト （ 性 的 嫌 が ら せ ）	ド メ ス テ ィ ツ ク ・ バ イ オ レ ン ス （ 配 偶 者 や パ ー ト ナ ー か ら の 暴 力 ）	痴 漢 や ス ト ー カ ー な ど の 性 的 暴 力	売 春 ・ 買 春	女 性 に 「 令 夫 人 」 「 婦 人 」 「 未 亡 人 」 「 家 内 」 と い う 言 葉 を 用 い る こ と	ア ダ ル ト ビ デ オ 等 へ の 出 演 強 要	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答	
全体	100.0 1,065	42.4 452	41.7 444	48.2 513	41.4 441	44.1 470	12.2 130	6.1 65	9.1 97	0.9 10	9.0 96	11.9 127	3.3 35	
性別														
男性	100.0 456	33.1 151	40.6 185	47.8 218	33.8 154	41.2 188	11.4 52	5.9 27	9.2 42	1.5 7	12.3 56	12.7 58	3.3 15	
女性	100.0 601	49.6 298	42.6 256	48.1 289	47.1 283	46.1 277	13.0 78	6.3 38	9.0 54	0.5 3	6.7 40	11.3 68	3.3 20	
答えたくない	100.0 8	37.5 3	37.5 3	75.0 6	50.0 4	62.5 5	－ －	－ －	12.5 1	－ －	－ －	12.5 1	－ －	
無回答	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
年代別														
19歳以下	100.0 27	44.4 12	40.7 11	51.9 14	48.1 13	48.1 13	11.1 3	14.8 4	11.1 3	－ －	11.1 3	14.8 4	－ －	
20歳代	100.0 100	58.0 58	46.0 46	64.0 64	48.0 48	54.0 54	18.0 18	13.0 13	15.0 15	1.0 1	3.0 3	10.0 10	－ －	
30歳代	100.0 108	54.6 59	43.5 47	63.0 68	45.4 49	61.1 66	20.4 22	11.1 12	13.9 15	1.9 2	4.6 5	7.4 8	－ －	
40歳代	100.0 157	44.6 70	40.8 64	50.3 79	50.3 79	47.8 75	12.7 20	4.5 7	7.6 12	1.9 3	3.8 6	11.5 18	1.9 3	
50歳代	100.0 183	42.6 78	41.0 75	53.6 98	50.3 92	55.7 102	9.8 18	5.5 10	13.1 24	1.1 2	3.8 7	10.9 20	1.6 3	
60歳代	100.0 191	41.4 79	47.6 91	49.2 94	41.9 80	44.0 84	14.7 28	2.6 5	7.3 14	0.5 1	10.5 20	10.5 20	1.6 3	
70歳代	100.0 206	37.9 78	40.8 84	34.0 70	28.6 59	27.2 56	6.8 14	3.4 7	3.9 8	0.5 1	15.5 32	13.1 27	7.8 16	
80歳以上	100.0 84	16.7 14	26.2 22	25.0 21	19.0 16	19.0 16	6.0 5	6.0 5	6.0 5	－ －	21.4 18	22.6 19	11.9 10	
無回答	100.0 9	44.4 4	44.4 4	55.6 5	55.6 5	44.4 4	22.2 2	22.2 2	11.1 1	－ －	22.2 2	11.1 1	－ －	

(2)子どもに関しての人権問題

問 19 あなたは、子どもに関して現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(〇はいくつでも)

子どもに関しての人権問題についてみると、「いじめを受けること」が71.6%と最も高く、次いで「携帯電話・スマートフォン・SNS※等での仲間はずれや無視があったり、犯罪に巻き込まれたりすること」が64.1%、「虐待(身体的・心理的・性的・経済的虐待または子育ての放棄等)を受けること」が62.3%となっています。

■子どもに関しての人権問題（複数回答／全体）

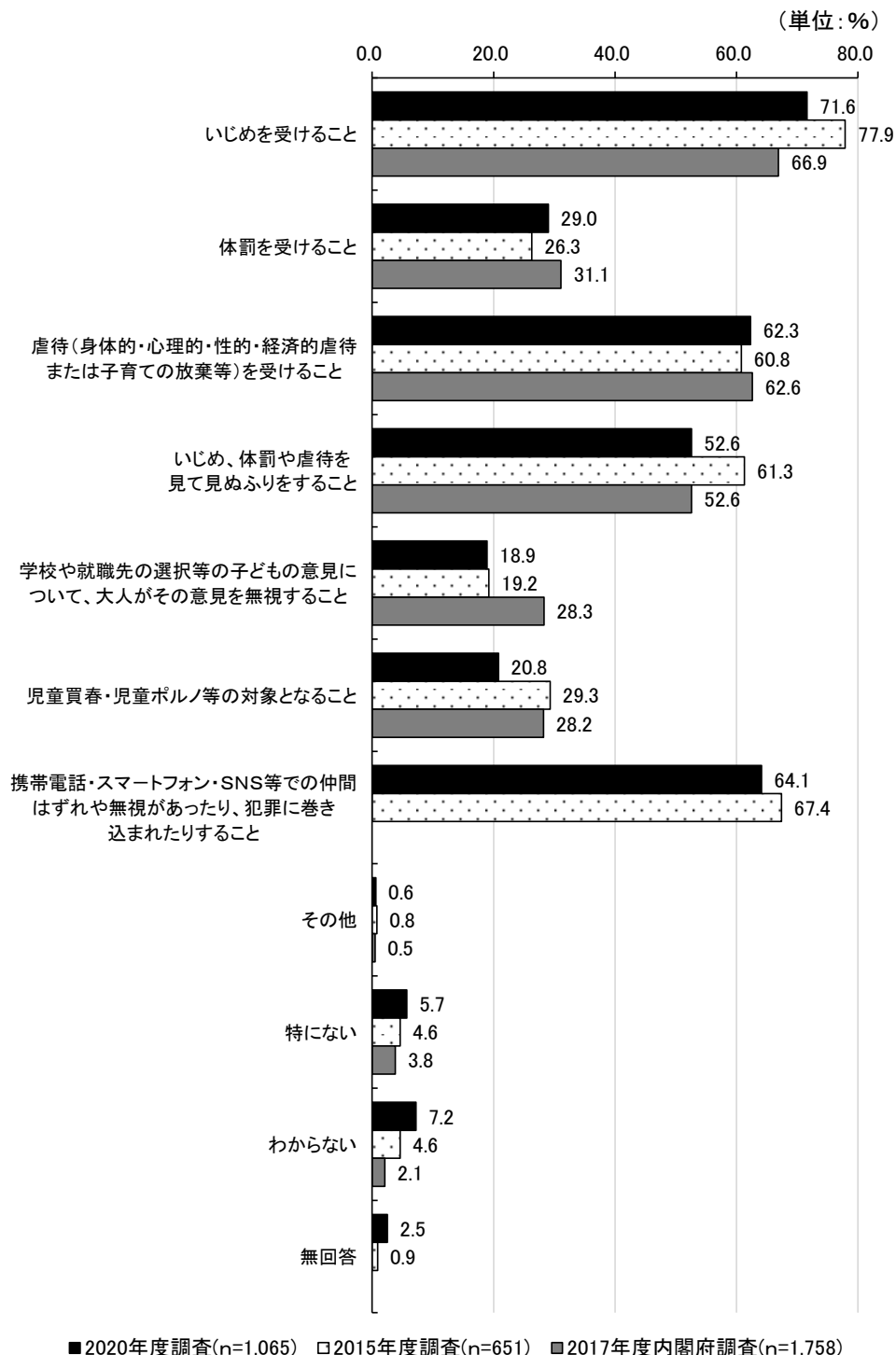


※SNS：ソーシャル・ネットワーキング・サービス。友人・知人等の社会的ネットワークをインターネット上で提供することを目的とする、コミュニティ型のサービス

年度間比較をすると、2015 年度調査では「いじめ、体罰や虐待を見て見ぬふりをする事」が 61.3%に対し、今回調査では 52.6%と 8.7 ポイント低くなっています。

国の調査と比較すると、内閣府調査では「学校や就職先の選択等の子どもの意見について、大人がその意見を無視すること」が 28.3%に対し、今回調査では 18.9%と 9.4 ポイント低くなっています。

■子どもに関しての人権問題（複数回答／2015 年度調査、内閣府調査との比較）



※注1：内閣府の調査データには選択肢「携帯電話・スマートフォン・SNS等での仲間はずれや無視があったり、犯罪に巻き込まれたりすること」「無回答」が無いいため、グラフ化していない。

年代別にみると、『40 歳代』と『50 歳代』で「携帯電話・スマートフォン・SNS※等での仲間はずれや無視があったり、犯罪に巻き込まれたりすること」が最も高くなっています。一方、『19 歳以下』から『30 歳代』と『50 歳代』から『80 歳以上』で「いじめを受けること」が最も高くなっています。

無回答	わからない	特にない	その他	携帯電話・スマートフォン・SNS等での仲間はずれや無視があたり、犯罪に巻き込まれたりすること	児童買春・児童ポルノ等の対象となること	学校や就職先の選択等の子どもの意見について、大人がその意見を見無視すること	いじめ、体罰や虐待を見て見ぬふりをする	虐待（身体的・心理的・性的・経済的虐待または子育ての放棄等）を受けること	体罰を受けること	いじめを受けること	n数
2.5 27	7.2 77	5.7 61	0.6 6	64.1 683	20.8 222	18.9 201	52.6 560	62.3 664	29.0 309	71.6 763	100.0 1,065

[illegible]

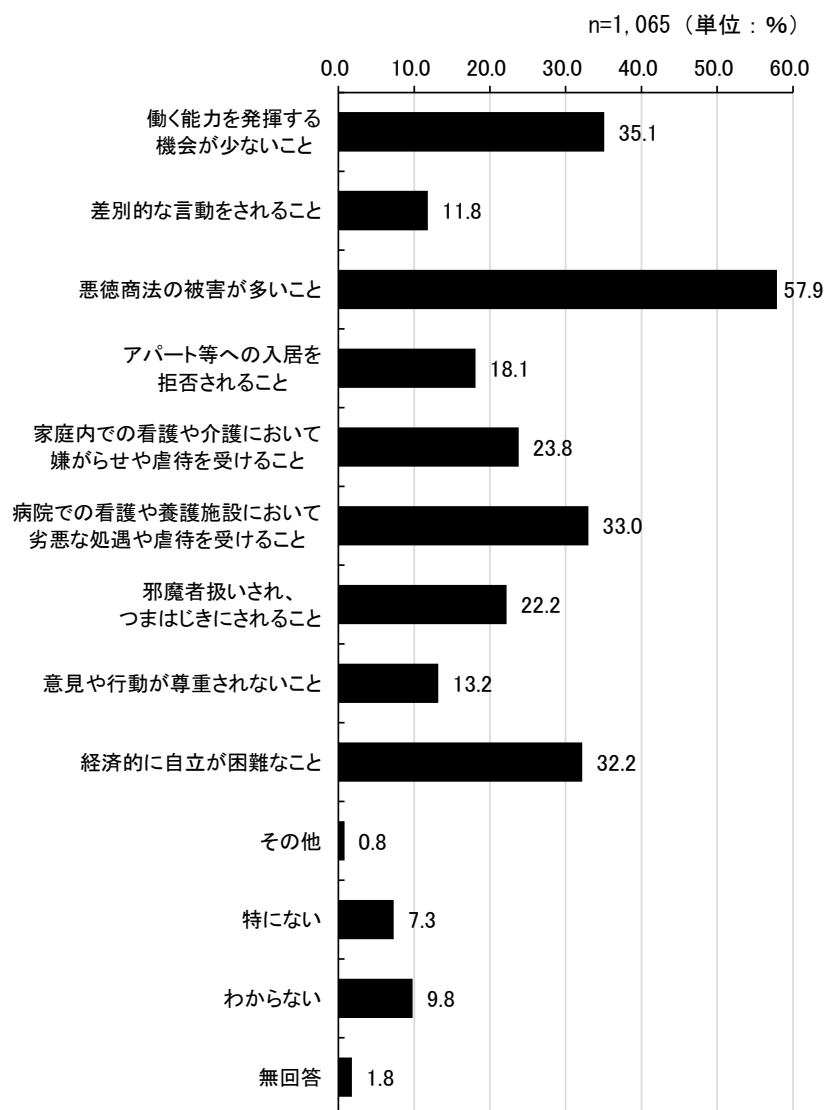
年代別												
19歳以下	100.0 27	66.7 18	37.0 10	66.7 18	63.0 17	29.6 8	14.8 4	51.9 14	- -	3.7 1	3.7 1	7.4 2
20歳代	100.0 100	86.0 86	31.0 31	77.0 77	70.0 70	40.0 40	30.0 30	77.0 77	1.0 1	- -	3.0 3	1.0 1
30歳代	100.0 108	85.2 92	35.2 38	79.6 86	66.7 72	28.7 31	34.3 37	83.3 90	1.9 2	1.9 2	1.9 2	- -
40歳代	100.0 157	73.2 115	27.4 43	70.7 111	55.4 87	13.4 21	26.1 41	79.6 125	1.3 2	3.2 5	4.5 7	1.9 3
50歳代	100.0 183	70.5 129	28.4 52	65.6 120	52.5 96	19.1 35	20.2 37	70.5 129	- -	6.6 12	5.5 10	0.5 1
60歳代	100.0 191	71.2 136	33.0 63	61.8 118	46.6 89	16.8 32	16.8 32	55.5 106	- -	5.8 11	8.9 17	2.1 4
70歳代	100.0 206	65.0 134	23.3 48	47.6 98	42.2 87	11.7 24	14.6 30	53.4 110	0.5 1	10.2 21	10.2 21	3.4 7
80歳以上	100.0 84	57.1 48	25.0 21	36.9 31	42.9 36	7.1 6	10.7 9	29.8 25	- -	9.5 8	17.9 15	10.7 9
無回答	100.0 9	55.6 5	33.3 3	55.6 5	66.7 6	44.4 4	22.2 2	77.8 7	- -	11.1 1	11.1 1	- -

(3) 高齢者に関しての人権問題の意識

問 20 あなたは、高齢者に関して現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(〇はいくつでも)

高齢者に関しての人権問題の意識についてみると、「悪徳商法の被害が多いこと」が 57.9%と最も高く、次いで「働く能力を発揮する機会が少ないこと」が 35.1%、「病院での看護や養護施設において劣悪な処遇や虐待を受けること」が 33.0%となっています。

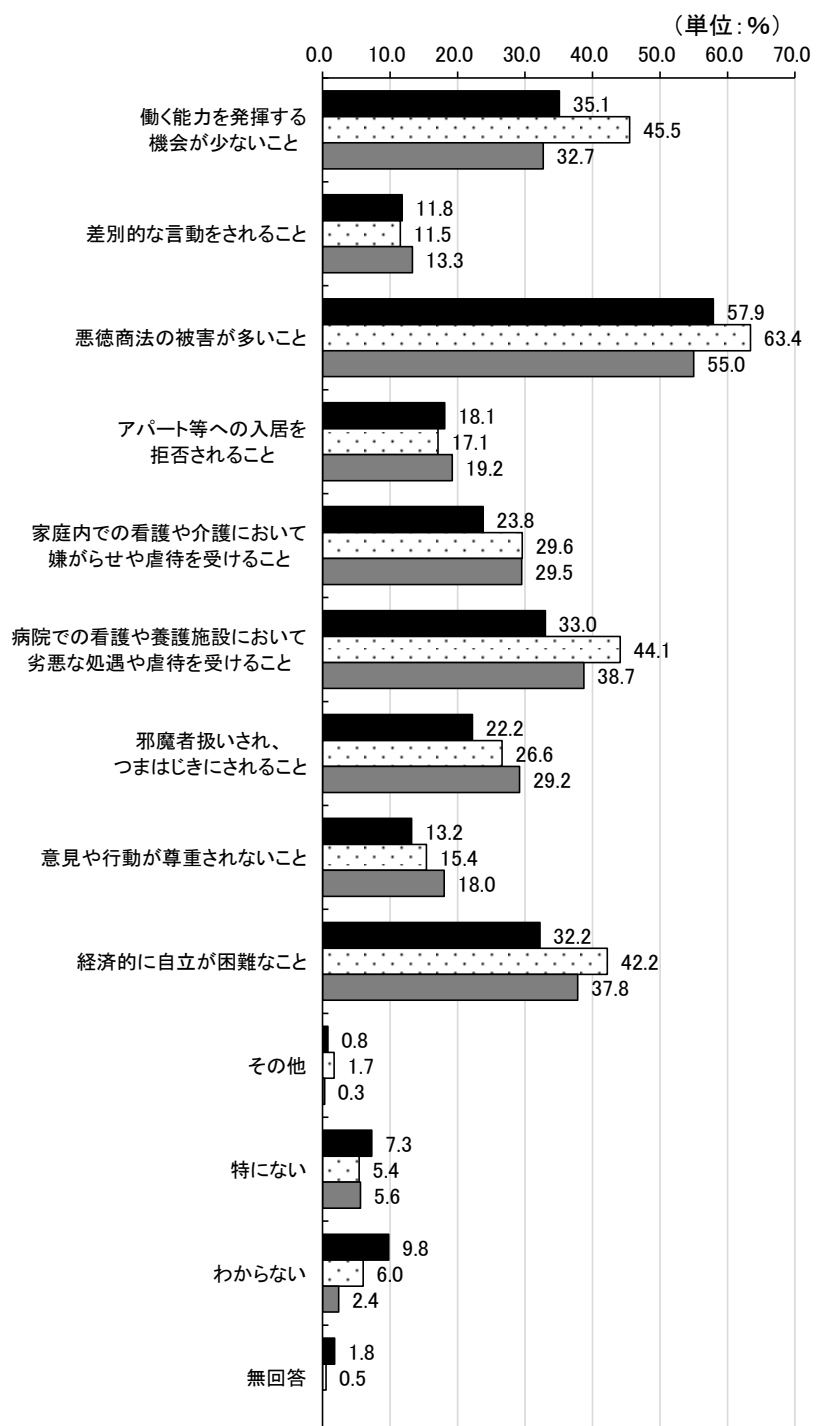
■ 高齢者に関しての人権問題の意識（複数回答／全体）



年度間比較をすると、2015 年度調査では「病院での看護や養護施設において劣悪な処遇や虐待を受けること」が 44.1%に対し、今回調査では 33.0%と 11.1 ポイント低くなっています。

国の調査と比較すると、内閣府調査では「邪魔者扱いされ、つまはじきにされること」が 29.2%に対し、今回調査では 22.2%と 7.0 ポイント低くなっています。

■高齢者に関しての人権問題の意識（複数回答／2015 年度調査、内閣府調査との比較）



■2020年度調査(n=1,065) □2015年度調査(n=651) ▨2017年度内閣府調査(n=1,758)

※内閣府調査データには「無回答」が無いいためグラフに表示していない。

性別にみると、いずれも「悪徳商法の被害が多いこと」が最も高くなっていますが『男性』で52.2%、『女性』で62.1%と『女性』の方が9.9ポイント高くなっています。

年代別にみると、いずれの年代も「悪徳商法の被害が多いこと」が最も高くなっています。

■高齢者に関しての人権問題の意識（複数回答／性別、年代別）

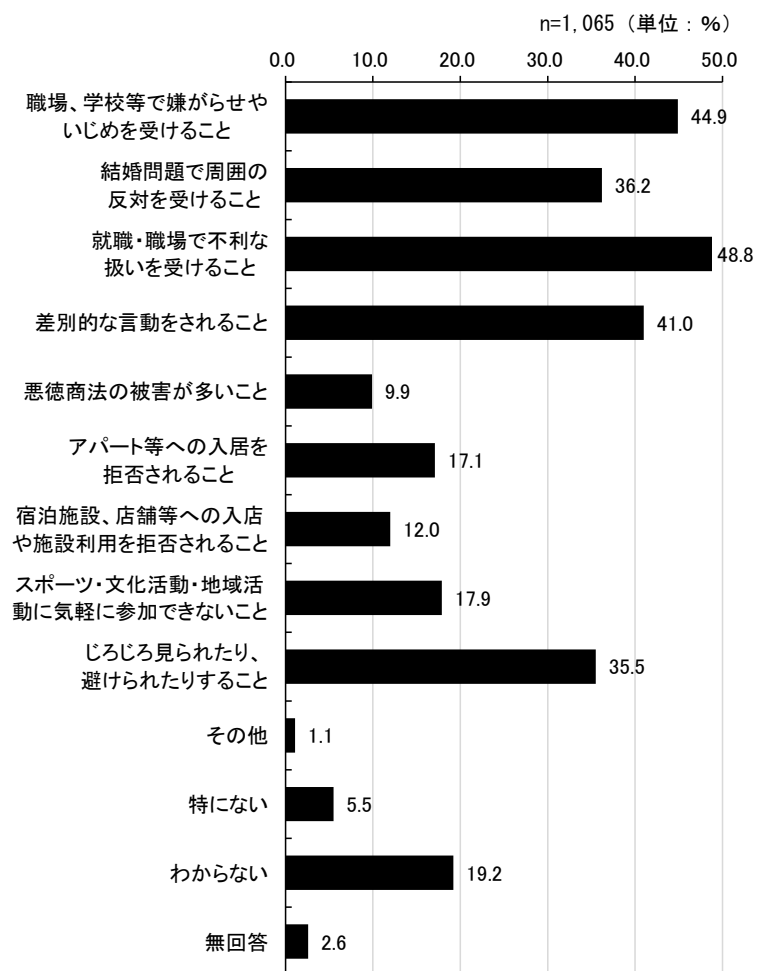
	n 数	働く能力を発揮する機会が 少ないこと	差別的な言動を されること	悪徳商法の被害が 多いこと	アパート等への入居を 拒否されること	家庭内での看護や介護に おいて、嫌がらせや虐待を 受けること	病院での看護や養護施設に おいて、劣悪な処遇や虐待を 受けること	邪魔者扱いされ、つまはじきに されること	意見や行動が尊重 されないこと	経済的に自立が 困難なこと	その他	特にない	わからない	無回答
全体	100.0 1,065	35.1 374	11.8 126	57.9 617	18.1 193	23.8 253	33.0 351	22.2 236	13.2 141	32.2 343	0.8 8	7.3 78	9.8 104	1.8 19
性別														
男性	100.0 456	34.0 155	8.6 39	52.2 238	14.0 64	16.0 73	25.0 114	19.1 87	10.1 46	28.9 132	0.7 3	11.2 51	10.1 46	2.9 13
女性	100.0 601	35.6 214	14.3 86	62.1 373	21.0 126	29.1 175	38.4 231	24.3 146	15.6 94	34.8 209	0.8 5	4.5 27	9.7 58	1.0 6
答えたくない	100.0 8	62.5 5	12.5 1	75.0 6	37.5 3	62.5 5	75.0 6	37.5 3	12.5 1	25.0 2	- -	- -	- -	- -
無回答	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
年代別														
19歳以下	100.0 27	25.9 7	14.8 4	44.4 12	- -	33.3 9	22.2 6	14.8 4	14.8 4	37.0 10	- -	22.2 6	11.1 3	- -
20歳代	100.0 100	22.0 22	16.0 16	66.0 66	14.0 14	41.0 41	45.0 45	32.0 32	17.0 17	32.0 32	1.0 1	1.0 1	11.0 11	- -
30歳代	100.0 108	38.0 41	12.0 13	69.4 75	20.4 22	38.0 41	44.4 48	33.3 36	13.9 15	38.9 42	0.9 1	2.8 3	8.3 9	- -
40歳代	100.0 157	30.6 48	8.3 13	60.5 95	19.7 31	25.5 40	36.3 57	22.3 35	10.2 16	31.8 50	0.6 1	4.5 7	12.1 19	1.3 2
50歳代	100.0 183	42.6 78	11.5 21	63.4 116	25.7 47	24.6 45	33.9 62	23.5 43	13.1 24	41.5 76	1.1 2	4.4 8	9.3 17	0.5 1
60歳代	100.0 191	40.3 77	15.2 29	58.1 111	17.3 33	17.3 33	31.9 61	19.9 38	15.2 29	35.1 67	1.0 2	3.1 6	8.4 16	1.6 3
70歳代	100.0 206	34.0 70	10.7 22	49.0 101	15.0 31	14.1 29	27.2 56	17.5 36	13.6 28	22.8 47	0.5 1	16.0 33	7.8 16	2.9 6
80歳以上	100.0 84	32.1 27	7.1 6	42.9 36	13.1 11	13.1 11	15.5 13	9.5 8	7.1 6	17.9 15	- -	14.3 12	14.3 12	8.3 7
無回答	100.0 9	44.4 4	22.2 2	55.6 5	44.4 4	44.4 4	33.3 3	44.4 4	22.2 2	44.4 4	- -	22.2 2	11.1 1	- -

(4) 障がい者に関しての人権問題の意識

問 21 あなたは、障がい者に関して現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(〇はいくつでも)

障がい者に関しての人権問題の意識についてみると、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が 48.8%と最も高く、次いで「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が 44.9%、「差別的な言動をされること」が 41.0%となっています。

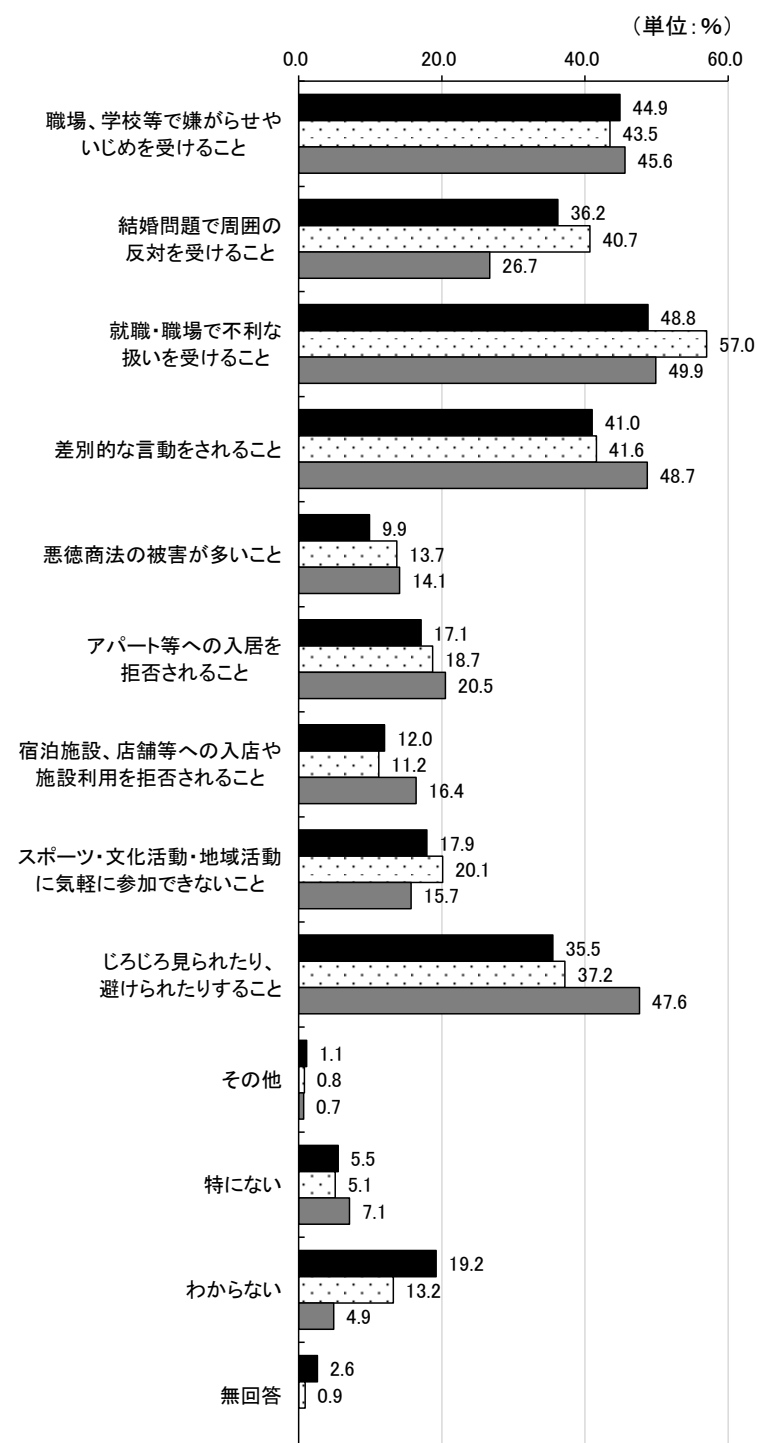
■障がい者に関しての人権問題の意識（複数回答／全体）



年度間比較をすると、2015 年度調査では「就職・職場で不利な扱いを受けること」が 57.0% に対し、今回調査では 48.8%と 8.2 ポイント低くなっています。

国の調査と比較すると、内閣府調査では「わからない」が 4.9%に対し、今回調査では 19.2%と 14.3 ポイント高くなっています。

■障がい者に関しての人権問題の意識（複数回答／2015 年度調査、内閣府調査との比較）



■2020年度調査(n=1,065) □2015年度調査(n=651) ▨2017年度内閣府調査(n=1,758)

※内閣府調査データには「無回答」が無いいためグラフに表示していない。

性別にみると、いずれも「就職・職場で不利な扱いを受けること」が最も高くなっていますが『男性』で45.6%、『女性』で51.1%と『女性』の方が5.5ポイント高くなっています。

年代別にみると、『19歳以下』『30歳代』『40歳代』で「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が、『20歳代』で「差別的な言動をされること」が、『50歳代』から『70歳代』で「就職・職場で不利な扱いを受けること」がそれぞれ最も高くなっています。

■障がい者に関しての人権問題の意識（複数回答／性別、年代別）

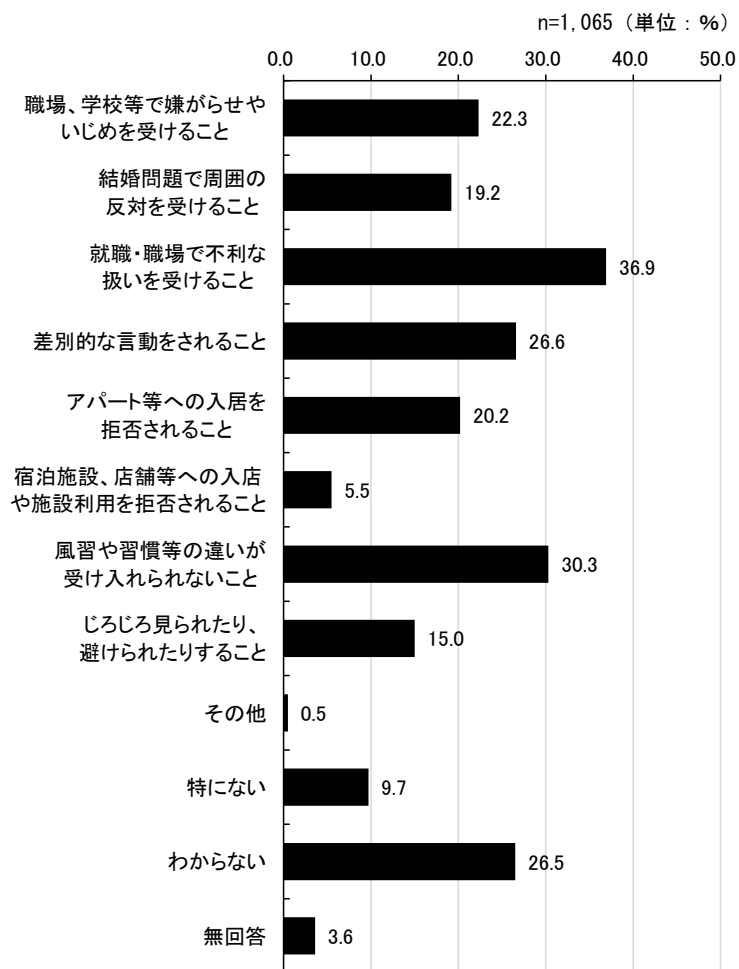
	n 数	職場、学校等で嫌がらせや いじめを受けること	結婚問題で周囲の反対を 受けること	就職・職場で不利な扱いを受 けること	差別的な言動をされること	悪徳・商法の被害が多いこと	アパート等への入居を 拒否されること	施設利用を拒否されること	宿泊施設、店舗等への入店や 動に気軽に参加できないこと	スポーツ・文化活動・地域活 動に気軽に参加できないこと	避けられたりすること	その他	特 に ない	わ か ら な い	無 回 答
全体	100.0 1,065	44.9 478	36.2 385	48.8 520	41.0 437	9.9 105	17.1 182	12.0 128	17.9 191	35.5 378	1.1 12	5.5 59	19.2 204	2.6 28	
性別															
男性	100.0 456	39.3 179	34.9 159	45.6 208	38.2 174	7.7 35	13.8 63	10.3 47	16.0 73	31.1 142	1.1 5	7.0 32	18.4 84	3.7 17	
女性	100.0 601	48.8 293	36.9 222	51.1 307	42.6 256	11.5 69	19.5 117	13.3 80	19.5 117	38.4 231	1.2 7	4.5 27	19.8 119	1.8 11	
答えたくない	100.0 8	75.0 6	50.0 4	62.5 5	87.5 7	12.5 1	25.0 2	12.5 1	12.5 1	62.5 5	- -	- -	12.5 1	- -	
無回答	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	
年代別															
19歳以下	100.0 27	59.3 16	37.0 10	48.1 13	55.6 15	3.7 1	11.1 3	7.4 2	37.0 10	40.7 11	- -	11.1 3	7.4 2	- -	
20歳代	100.0 100	62.0 62	37.0 37	62.0 62	64.0 64	11.0 11	15.0 15	16.0 16	24.0 24	54.0 54	- -	1.0 1	13.0 13	- -	
30歳代	100.0 108	64.8 70	46.3 50	52.8 57	63.0 68	10.2 11	25.9 28	17.6 19	22.2 24	50.9 55	0.9 1	0.9 1	11.1 12	1.9 2	
40歳代	100.0 157	50.3 79	42.0 66	49.7 78	41.4 65	14.0 22	17.8 28	14.0 22	16.6 26	43.9 69	1.3 2	4.5 7	17.8 28	1.3 2	
50歳代	100.0 183	40.4 74	36.6 67	51.4 94	37.7 69	11.5 21	21.9 40	13.7 25	17.5 32	34.4 63	1.1 2	2.7 5	19.1 35	0.5 1	
60歳代	100.0 191	40.8 78	33.5 64	54.5 104	39.3 75	6.3 12	14.7 28	12.6 24	18.3 35	35.6 68	1.0 2	5.2 10	16.8 32	3.7 7	
70歳代	100.0 206	35.9 74	30.6 63	41.3 85	31.1 64	7.8 16	14.1 29	7.8 16	15.0 31	20.4 42	1.9 4	8.7 18	26.7 55	3.9 8	
80歳以上	100.0 84	27.4 23	27.4 23	28.6 24	15.5 13	11.9 10	10.7 9	3.6 3	9.5 8	11.9 10	- -	14.3 12	31.0 26	9.5 8	
無回答	100.0 9	22.2 2	55.6 5	33.3 3	44.4 4	11.1 1	22.2 2	11.1 1	11.1 1	66.7 6	11.1 1	22.2 2	11.1 1	- -	

（５）日本に居住している外国人に関しての人権問題の意識

問 22 あなたは、日本に居住している外国人に関して現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。（〇はいくつでも）

日本に居住している外国人に関しての人権問題の意識についてみると、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が36.9%と最も高く、次いで「風習や習慣等の違いが受け入れられないこと」が30.3%、「差別的な言動をされること」が26.6%となっています。

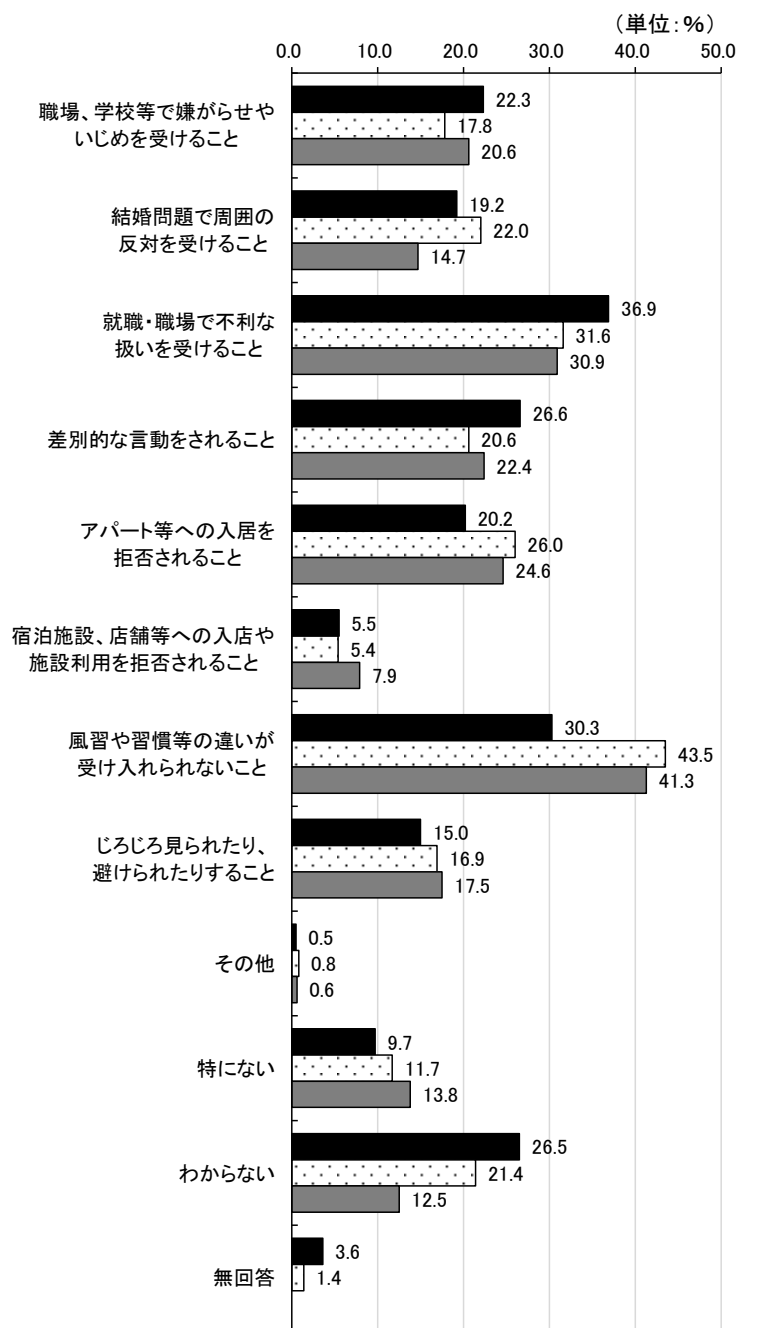
■日本に居住している外国人に関しての人権問題の意識（複数回答／全体）



年度間比較をすると、2015 年度調査では「風習や習慣等の違いが受け入れられないこと」が 43.5%に対し、今回調査では 30.3%と 13.2 ポイント低くなっています。

国の調査と比較すると、内閣府調査では「わからない」が 12.5%に対し、今回調査では 26.5%と 14.0 ポイント低くなっています。

■日本に居住している外国人に関しての人権問題の意識 (複数回答／2015 年度調査、内閣府調査との比較)



■2020年度調査(n=1,065) □2015年度調査(n=651) ▨2017年度内閣府調査(n=1,758)

※内閣府調査データには「無回答」が無いいためグラフに表示していない。

性別にみると、いずれも「就職・職場で不利な扱いを受けること」が最も高くなっていますが『男性』で33.3%、『女性』で39.1%と『女性』の方が5.8ポイント高くなっています。

年代別にみると、『19歳以下』から『60歳代』で「就職・職場で不利な扱いを受けること」が、『70歳代』『80歳以上』で「わからない」がそれぞれ最も高くなっています。

■日本に居住している外国人に関しての人権問題の意識（複数回答／性別、年代別）

	n 数	職場、学校等 で嫌がらせや いじめを受けること	結婚問題で 周囲の反対を 受けること	就職・職場で 不利な扱いを 受けること	差別的な言動を されること	アパート等への 入居を拒否されること	宿泊施設、店舗等 への入店や施設利用を拒否 されること	風習や習慣等の違い が受け入れられないこと	避けられたい見られたい すること	その他	特 に ない	わ か ら な い	無 回 答
全体	100.0 1,065	22.3 238	19.2 204	36.9 393	26.6 283	20.2 215	5.5 59	30.3 323	15.0 160	0.5 5	9.7 103	26.5 282	3.6 38
性別													
男性	100.0 456	17.8 81	17.1 78	33.3 152	21.9 100	17.8 81	4.8 22	29.8 136	11.8 54	0.4 2	14.5 66	25.2 115	3.9 18
女性	100.0 601	25.6 154	20.5 123	39.1 235	30.3 182	22.0 132	6.0 36	30.6 184	17.3 104	0.5 3	6.2 37	27.5 165	3.3 20
答えたくない	100.0 8	37.5 3	37.5 3	75.0 6	12.5 1	25.0 2	12.5 1	37.5 3	25.0 2	— —	— —	25.0 2	— —
無回答	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
年代別													
19歳以下	100.0 27	22.2 6	14.8 4	40.7 11	40.7 11	3.7 1	3.7 1	40.7 11	14.8 4	— —	18.5 5	14.8 4	— —
20歳代	100.0 100	35.0 35	23.0 23	46.0 46	44.0 44	18.0 18	7.0 7	41.0 41	26.0 26	— —	5.0 5	22.0 22	1.0 1
30歳代	100.0 108	32.4 35	25.9 28	44.4 48	43.5 47	25.0 27	13.0 14	38.0 41	29.6 32	— —	4.6 5	20.4 22	0.9 1
40歳代	100.0 157	26.1 41	19.7 31	40.1 63	28.7 45	29.3 46	5.7 9	30.6 48	18.5 29	— —	10.8 17	22.9 36	1.3 2
50歳代	100.0 183	26.8 49	23.5 43	40.4 74	23.5 43	27.9 51	8.7 16	33.9 62	11.5 21	1.6 3	8.7 16	23.0 42	0.5 1
60歳代	100.0 191	18.3 35	19.4 37	38.2 73	21.5 41	18.8 36	4.2 8	33.5 64	15.7 30	— —	9.4 18	24.1 46	4.7 9
70歳代	100.0 206	15.5 32	12.6 26	30.1 62	20.9 43	14.1 29	1.5 3	20.9 43	7.3 15	1.0 2	10.7 22	37.4 77	4.9 10
80歳以上	100.0 84	6.0 5	13.1 11	16.7 14	10.7 9	6.0 5	1.2 1	13.1 11	1.2 1	— —	16.7 14	35.7 30	16.7 14
無回答	100.0 9	— —	11.1 1	22.2 2	— —	22.2 2	— —	22.2 2	22.2 2	— —	11.1 1	33.3 3	— —

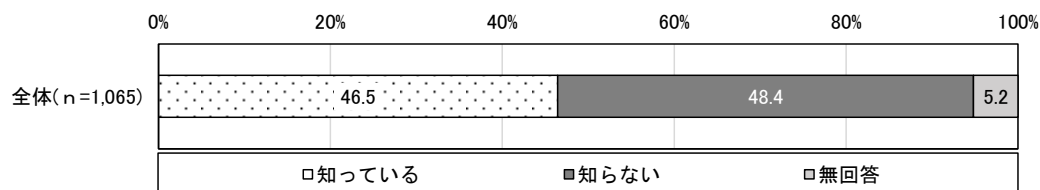
(6)ヘイトスピーチを伴うデモや集会などの認知

問 23 あなたは、ヘイトスピーチ※を伴うデモ、集会、街宣活動等を知っていますか。
(○は1つだけ)

(※) 特定の国の出身者であること又はその子孫であることのみを理由に、日本社会から追い出そうとしたり危害を加えようとしたりするなどの一方的な内容の言動が、一般に「ヘイトスピーチ」と呼ばれています。

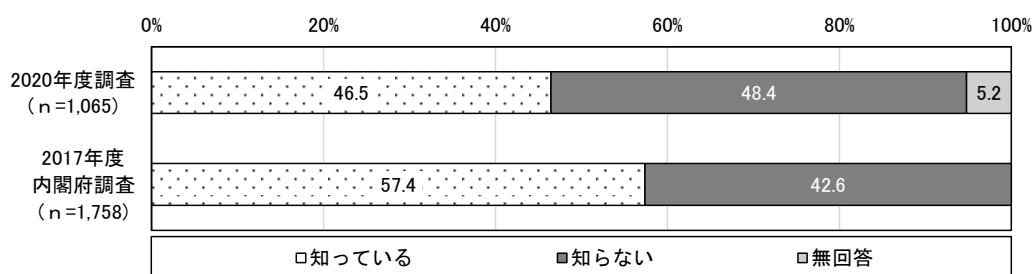
ヘイトスピーチを伴うデモや集会などの認知についてみると、「知らない」が48.4%、「知っている」が46.5%となっています。

■ヘイトスピーチを伴うデモや集会などの認知（単数回答／全体）



国の調査と比較すると、内閣府調査では「知っている」が57.4%に対し、今回調査では46.5%と10.9ポイント低くなっています。

■ヘイトスピーチを伴うデモや集会などの認知（単数回答／内閣府調査との比較）



※内閣府調査データには「無回答」が無いためグラフに表示していない。

性別にみると、『男性』で「知っている」が『女性』で「知らない」がそれぞれ最も高くなっています。

年代別にみると、『40 歳代』から『60 歳代』で「知っている」が高くなっている一方、その他の年代で「知らない」が最も高くなっています。

■ヘイトスピーチを伴うデモや集会などの認知（複数回答／性別、年代別）

	n 数	知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
全体	100.0 1,065	46.5 495	48.4 515	5.2 55

性別

男性	100.0 456	52.2 238	42.3 193	5.5 25
女性	100.0 601	42.4 255	52.6 316	5.0 30
答えたくない	100.0 8	25.0 2	75.0 6	— —
無回答	— —	— —	— —	— —

年代別

19歳以下	100.0 27	33.3 9	66.7 18	— —
20歳代	100.0 100	44.0 44	55.0 55	1.0 1
30歳代	100.0 108	44.4 48	53.7 58	1.9 2
40歳代	100.0 157	50.3 79	45.9 72	3.8 6
50歳代	100.0 183	51.4 94	47.0 86	1.6 3
60歳代	100.0 191	49.7 95	46.6 89	3.7 7
70歳代	100.0 206	44.7 92	46.6 96	8.7 18
80歳以上	100.0 84	38.1 32	40.5 34	21.4 18
無回答	100.0 9	22.2 2	77.8 7	— —

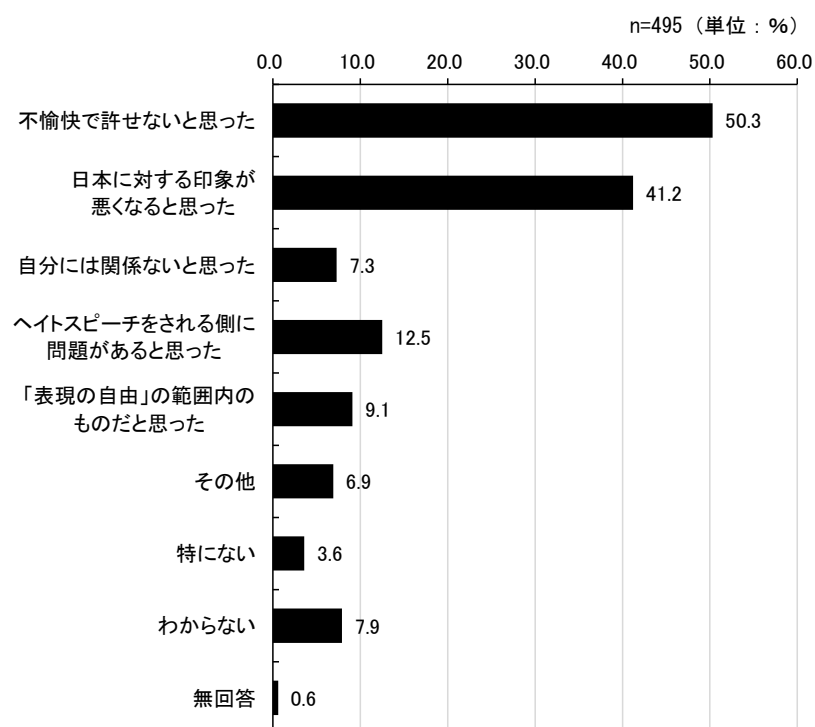
(7)ヘイトスピーチを伴うデモや集会などの印象

(問 23 で「1. 知っている」と答えられた方におたずねします。)

問 24 あなたは、そのようなデモ等を見聞きしてどのように思いましたか。(〇はいくつでも)

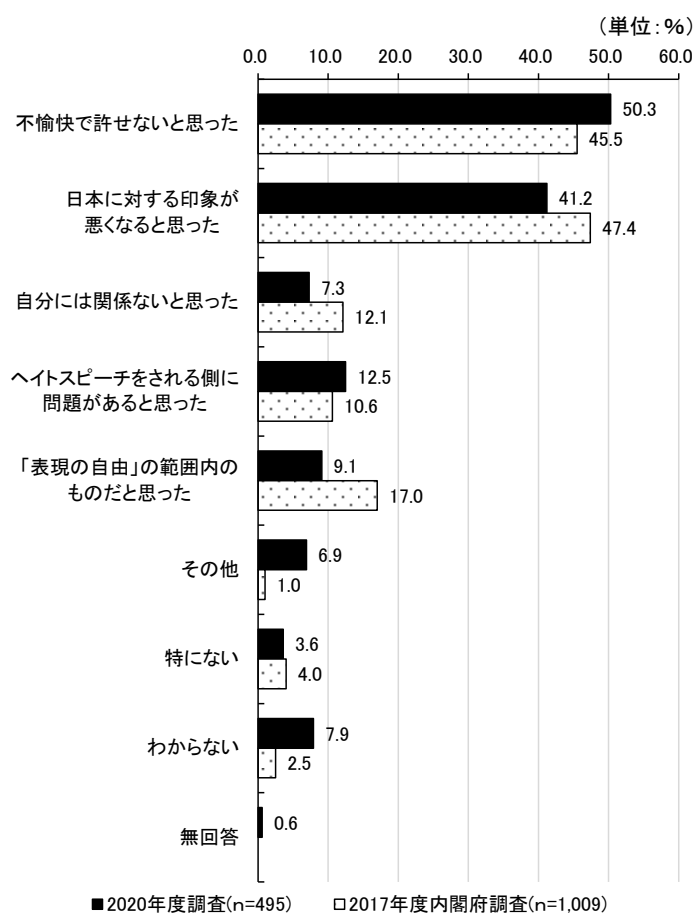
ヘイトスピーチを伴うデモや集会などの印象についてみると、「不愉快で許せないと思った」が 50.3%と最も高く、次いで「日本に対する印象が悪くなったと思った」が 41.2%、「ヘイトスピーチをされる側に問題があると思った」が 12.5%となっています。

■ヘイトスピーチを伴うデモや集会などの印象（複数回答／全体）



国の調査と比較すると、内閣府調査では「表現の自由」の範囲内のものだったと思った」が17.0%に対し、今回調査では9.1%と7.9ポイント低くなっています。

■ヘイトスピーチを伴うデモや集会などの印象（複数回答／内閣府調査との比較）



※内閣府調査データには「無回答」が無いいためグラフに表示していない。

性別にみると、いずれも「不愉快で許せないと思った」が最も高くなっていますが『男性』で46.6%、『女性』で53.7%と『女性』の方が7.1ポイント高くなっています。

年代別にみると、『19歳以下』から『70歳代』で「不愉快で許せないと思った」が、『80歳以上』で「日本に対する印象が悪くなると思った」がそれぞれ最も高くなっています。

■ヘイトスピーチを伴うデモや集会などの印象（複数回答／性別、年代別）

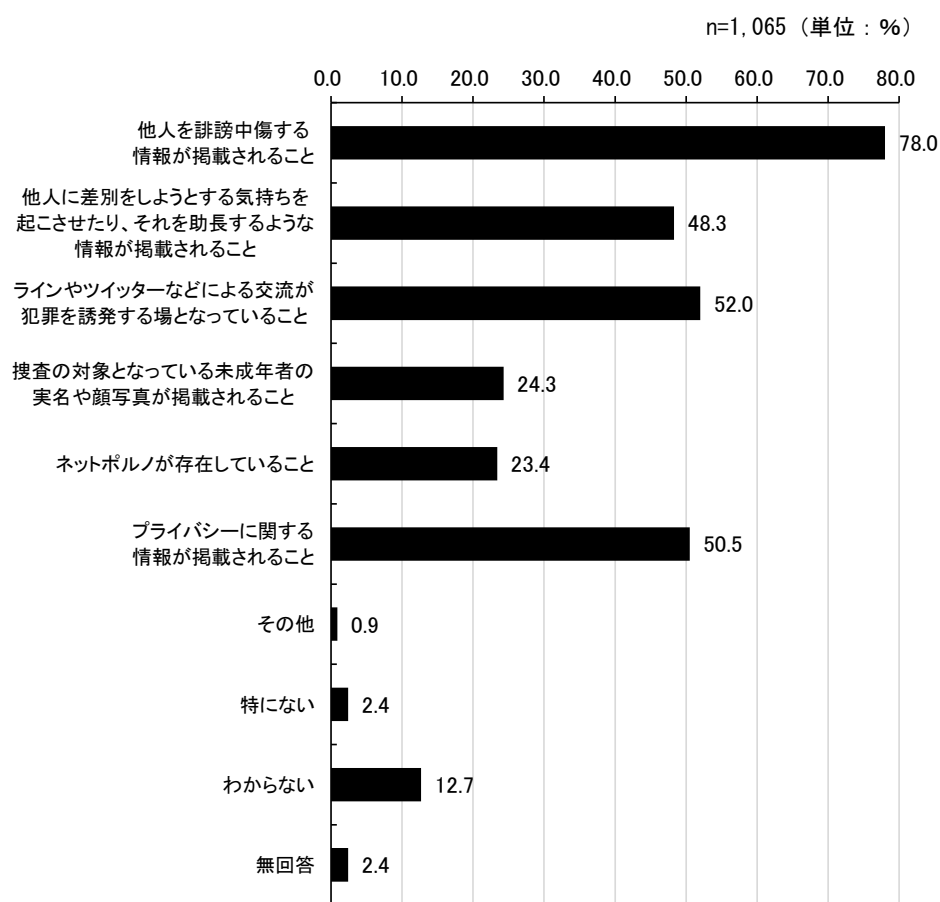
	n 数	不愉快で許せないと思った	悪くなると思っ た日本に対する印象が	自分には関係ないと思っ た	問題があると思っ たヘイトスピーチをされる側に	「表現の自由」の範囲内の ものだと思っ た	その他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
全体	100.0 495	50.3 249	41.2 204	7.3 36	12.5 62	9.1 45	6.9 34	3.6 18	7.9 39	0.6 3
性別										
男性	100.0 238	46.6 111	42.9 102	8.4 20	15.5 37	9.2 22	4.6 11	4.2 10	6.7 16	0.4 1
女性	100.0 255	53.7 137	40.0 102	6.3 16	9.8 25	9.0 23	8.6 22	3.1 8	8.6 22	0.8 2
答えたくない	100.0 2	50.0 1	-	-	-	-	50.0 1	-	50.0 1	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年代別										
19歳以下	100.0 9	66.7 6	44.4 4	11.1 1	11.1 1	22.2 2	-	11.1 1	-	-
20歳代	100.0 44	52.3 23	50.0 22	6.8 3	13.6 6	11.4 5	9.1 4	-	2.3 1	-
30歳代	100.0 48	47.9 23	41.7 20	8.3 4	12.5 6	6.3 3	6.3 3	4.2 2	4.2 2	-
40歳代	100.0 79	45.6 36	40.5 32	6.3 5	13.9 11	12.7 10	12.7 10	1.3 1	7.6 6	1.3 1
50歳代	100.0 94	53.2 50	31.9 30	5.3 5	8.5 8	6.4 6	10.6 10	3.2 3	11.7 11	1.1 1
60歳代	100.0 95	48.4 46	36.8 35	6.3 6	10.5 10	5.3 5	5.3 5	7.4 7	7.4 7	-
70歳代	100.0 92	55.4 51	47.8 44	10.9 10	15.2 14	13.0 12	2.2 2	4.3 4	6.5 6	1.1 1
80歳以上	100.0 32	43.8 14	50.0 16	6.3 2	18.8 6	3.1 1	-	-	15.6 5	-
無回答	100.0 2	-	50.0 1	-	-	50.0 1	-	-	50.0 1	-

（８）インターネットによる人権侵害に関しての人権問題の意識

問 25 あなたは、インターネットによる人権侵害に関して現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。（〇はいくつでも）

インターネットによる人権侵害に関しての人権問題の意識についてみると、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が78.0%と最も高く、次いで「ラインやツイッターなどによる交流が犯罪を誘発する場となっていること」が52.0%、「プライバシーに関する情報が掲載されること」が50.5%となっています。

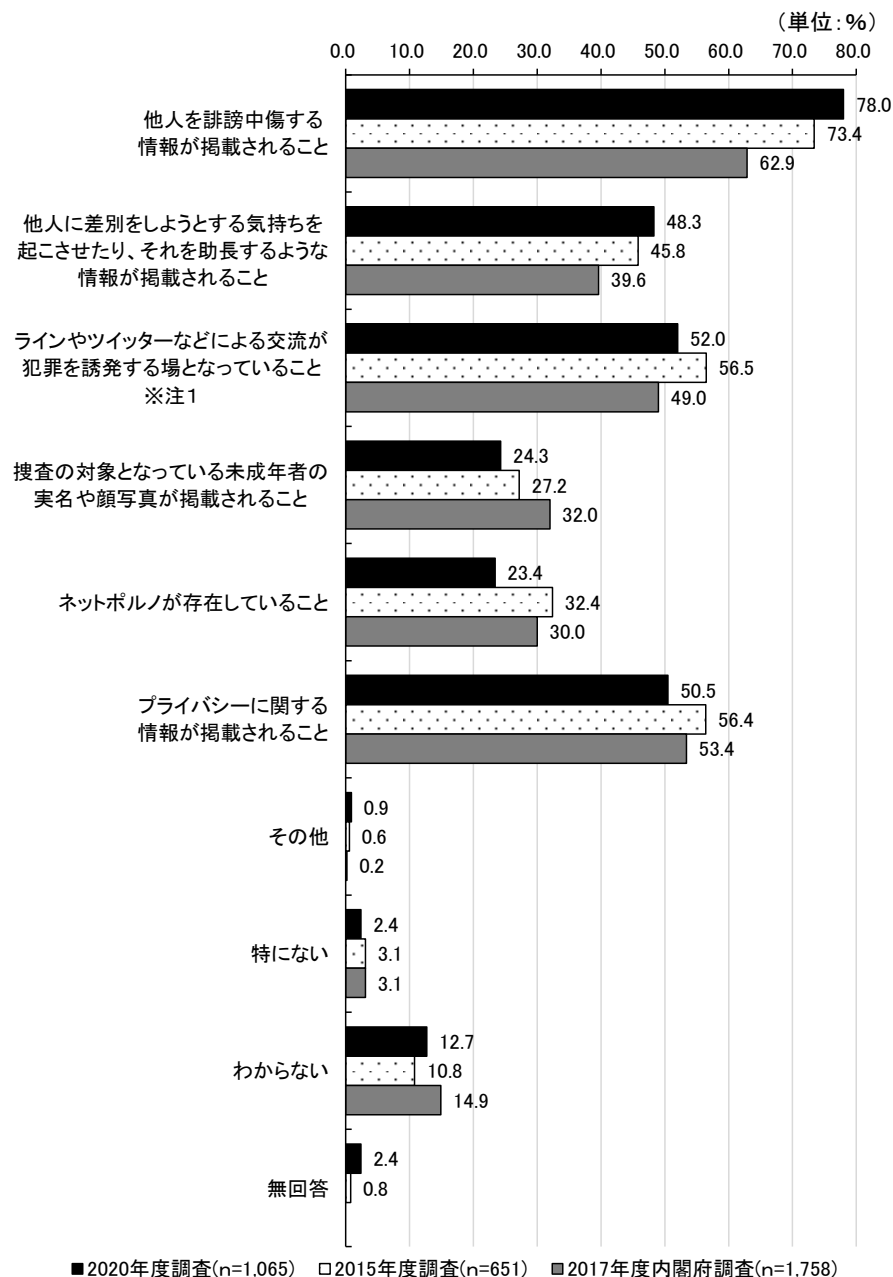
■インターネットによる人権侵害に関しての人権問題の意識（複数回答／全体）



年度間比較をすると、2015 年度調査では「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が 73.4%に対し、今回調査では 78.0%と 4.6 ポイント、同じく 2015 年度調査では「他人に差別をしようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような情報が掲載されること」が 45.8%に対し、今回調査では 48.3%と 2.5 ポイントいずれも高くなっています。

国の調査と比較すると、内閣府調査では「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が 62.9%に対し、今回調査では 78.0%と 15.1 ポイント、同じく内閣府調査では「他人に差別をしようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような情報が掲載されること」が 39.6%に対し、今回調査では 48.3%と 8.7 ポイントそれぞれ高くなっています。

■インターネットによる人権侵害に関しての人権問題の意識 (複数回答／2015 年度調査、内閣府調査との比較)



※内閣府調査データには「無回答」が無いいためグラフに表示していない。

※注1：2015 年度調査では「出会い系サイト等犯罪を誘発する場となっていること」

性別にみると、いずれも「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が最も高くなっていますが『男性』で76.5%、『女性』で79.2%と『女性』の方が2.7ポイント高くなっています。

年代別にみると、いずれの年代も「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が最も高くなっています。

■インターネットによる人権侵害に関しての人権問題の意識（複数回答／性別、年代別）

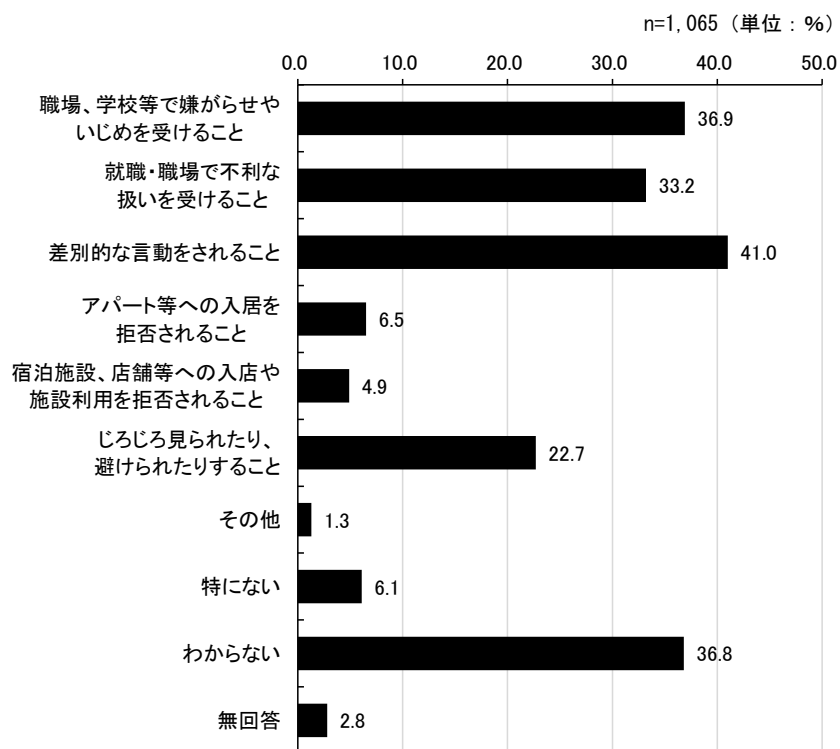
	n 数	他人を誹謗中傷する情報が掲載されること	他人に差別をしようとする気持ちはない、起こせたり、それを助長すること	他人を誘発する場となっている交流	ライオンやツイッタなどの交流	実名や顔写真が掲載される未成年者の	捜査の対象となっている未成年者の	ネットボルトが	存在していること	ネットボルトが	掲載されること	に関する情報が	その他	特にな	わ	から	ない	無	回	答
全体	100.0 1,065	78.0 831	48.3 514	52.0 554	24.3 259	23.4 249	50.5 538	0.9 10	2.4 26	12.7 135	2.4 26									
性別																				
男性	100.0 456	76.5 349	46.7 213	47.4 216	19.5 89	20.0 91	45.4 207	1.8 8	2.6 12	11.4 52	3.3 15									
女性	100.0 601	79.2 476	49.3 296	55.4 333	27.3 164	26.1 157	54.6 328	0.3 2	2.2 13	13.6 82	1.8 11									
答えたくない	100.0 8	75.0 6	62.5 5	62.5 5	75.0 6	12.5 1	37.5 3	— —	12.5 1	12.5 1	— —									
無回答	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —									
年代別																				
19歳以下	100.0 27	77.8 21	51.9 14	40.7 11	14.8 4	22.2 6	48.1 13	— —	3.7 1	7.4 2	— —									
20歳代	100.0 100	89.0 89	56.0 56	52.0 52	38.0 38	31.0 31	59.0 59	1.0 1	1.0 1	4.0 4	— —									
30歳代	100.0 108	93.5 101	71.3 77	57.4 62	38.9 42	39.8 43	62.0 67	1.9 2	— —	2.8 3	0.9 1									
40歳代	100.0 157	87.9 138	58.0 91	58.6 92	29.3 46	33.8 53	61.8 97	1.3 2	2.5 4	3.8 6	1.3 2									
50歳代	100.0 183	86.9 159	53.0 97	54.6 100	27.9 51	25.1 46	56.3 103	1.1 2	1.6 3	7.7 14	2.2 4									
60歳代	100.0 191	80.1 153	46.6 89	56.5 108	19.9 38	22.0 42	50.3 96	0.5 1	2.6 5	11.0 21	1.6 3									
70歳代	100.0 206	60.7 125	34.0 70	49.5 102	13.6 28	10.2 21	33.0 68	0.5 1	3.4 7	25.2 52	3.4 7									
80歳以上	100.0 84	46.4 39	17.9 15	27.4 23	11.9 10	6.0 5	36.9 31	1.2 1	6.0 5	35.7 30	10.7 9									
無回答	100.0 9	66.7 6	55.6 5	44.4 4	22.2 2	22.2 2	44.4 4	— —	— —	33.3 3	— —									

(9) 性的マイノリティに関しての人権問題の意識

問 26 あなたは、性的マイノリティに関して現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(〇はいくつでも)

性的マイノリティに関しての人権問題の意識についてみると、「差別的な言動をされること」が 41.0%と最も高く、次いで「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が 36.9%、「わからない」が 36.8%となっています。

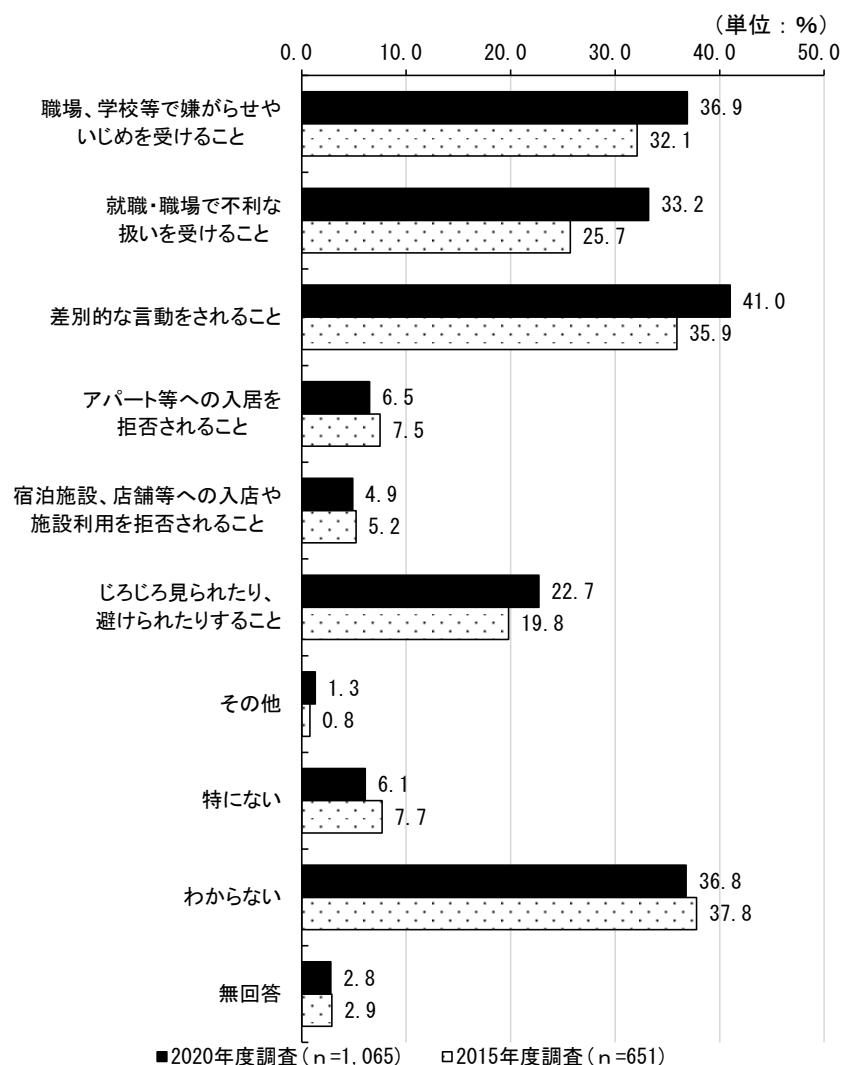
■ 性的マイノリティに関しての人権問題の意識（複数回答／全体）



年度間比較をすると、2015 年度調査では「差別的な言動をされること」が 35.9%に対し、今回調査では 41.0%と 5.1 ポイント高くなっています。

また、2015 年度調査から引き続き、「わからない」が 3 割強と、他の人権問題の設問と比べて、「わからない」の割合が高くなっています。

■性的マイノリティに関しての人権問題の意識（複数回答／2015 年度調査）



性別にみると、いずれも「差別的な言動をされること」が最も高くなっていますが、『男性』で36.6%、『女性』で44.4%と『女性』の方が7.8ポイント高くなっています。

年代別にみると、『19歳以下』から『60歳代』で「差別的な言動をされること」が、『70歳代』『80歳以上』で「わからない」がそれぞれ最も高くなっています。

■性的マイノリティに関しての人権問題の意識（複数回答／性別、年代別）

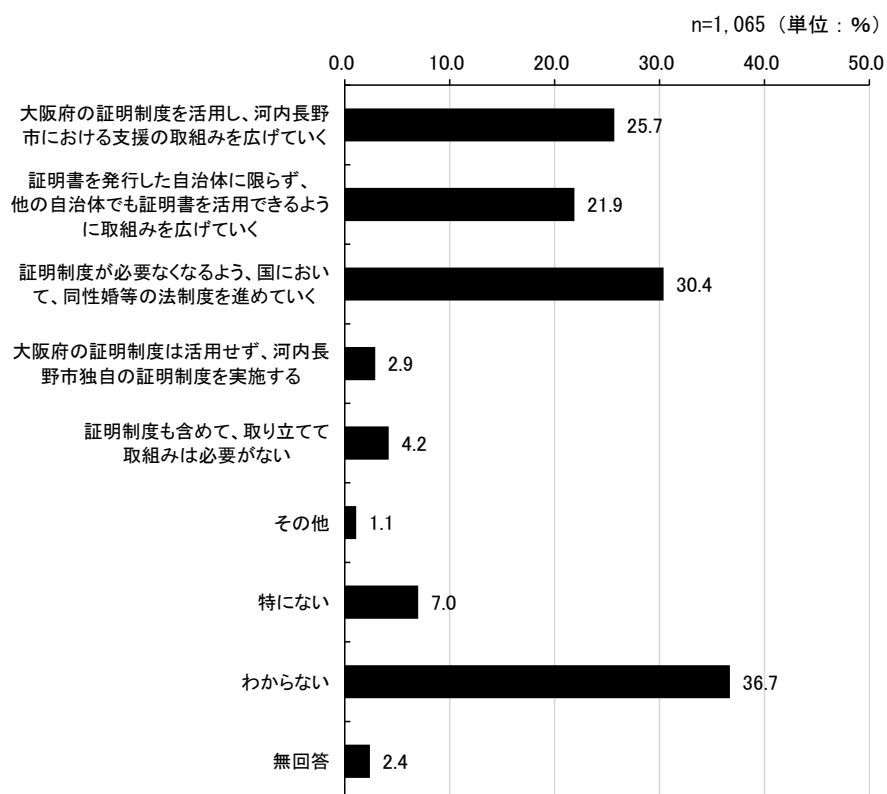
	n 数	職場、 学校等 で嫌が らせや いじめ を受ける こと	就職・ 職場で 不利な 扱いを 受ける こと	差別的 な言動 をされ ること	アパ ート等 への入 居を拒 否され ること	宿泊施 設、店 舗等へ の入居 を拒否 される こと	避けら れられ たりす ること	その他	特にな い	わか らない	無回 答
全体	100.0 1,065	36.9 393	33.2 354	41.0 437	6.5 69	4.9 52	22.7 242	1.3 14	6.1 65	36.8 392	2.8 30
性別											
男性	100.0 456	32.2 147	29.8 136	36.6 167	5.5 25	4.4 20	18.9 86	1.1 5	9.2 42	35.3 161	3.5 16
女性	100.0 601	40.3 242	35.8 215	44.4 267	7.2 43	5.2 31	25.8 155	1.5 9	3.8 23	37.8 227	2.3 14
答えたくない	100.0 8	50.0 4	37.5 3	37.5 3	12.5 1	12.5 1	12.5 1	—	—	50.0 4	—
無回答	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
年代別											
19歳以下	100.0 27	33.3 9	29.6 8	44.4 12	— —	— —	25.9 7	— —	11.1 3	33.3 9	— —
20歳代	100.0 100	60.0 60	41.0 41	60.0 60	6.0 6	9.0 9	32.0 32	2.0 2	5.0 5	19.0 19	1.0 1
30歳代	100.0 108	50.9 55	38.0 41	63.0 68	8.3 9	8.3 9	33.3 36	2.8 3	1.9 2	23.1 25	0.9 1
40歳代	100.0 157	42.7 67	30.6 48	46.5 73	5.7 9	7.0 11	27.4 43	3.2 5	3.8 6	34.4 54	1.3 2
50歳代	100.0 183	36.1 66	39.3 72	45.4 83	8.2 15	6.6 12	26.2 48	1.1 2	5.5 10	31.1 57	1.6 3
60歳代	100.0 191	35.6 68	39.3 75	41.9 80	9.4 18	4.7 9	21.5 41	0.5 1	6.3 12	37.2 71	2.1 4
70歳代	100.0 206	25.2 52	26.2 54	22.8 47	4.9 10	0.5 1	13.6 28	0.5 1	9.2 19	51.0 105	4.4 9
80歳以上	100.0 84	19.0 16	15.5 13	14.3 12	2.4 2	1.2 1	6.0 5	— —	8.3 7	57.1 48	11.9 10
無回答	100.0 9	— —	22.2 2	22.2 2	— —	— —	22.2 2	— —	11.1 1	44.4 4	— —

(10)「同性パートナーシップ宣誓証明制度」の今後の取組み

問 27 大阪府では、令和2年1月より性的マイノリティのカップルをパートナーとして公に認める取組み「大阪府パートナーシップ宣誓証明制度」を始めましたが、今後、どのように取組みを進めていけばよいと思いますか。(〇はいくつでも)

「同性パートナーシップ宣誓証明制度」の今後の取組みについてみると、「わからない」が36.7%と最も高く、次いで「証明制度が必要なくなるよう、国において、同性婚等の法制度を進めていく」が30.4%、「大阪府の証明制度を活用し、河内長野市における支援の取組みを広げていく」が25.7%となっています。

■「同性パートナーシップ宣誓証明制度」の今後の取組み（複数回答／全体）



性別にみると、いずれも「わからない」が最も高くなっていますが『男性』で34.6%、『女性』で38.1%と『女性』の方が3.5ポイント高くなっています。

年代別にみると、『19歳以下』から『50歳代』で「証明制度が必要なくなるよう、国において、同性婚等の法制度を進めていく」が、『60歳代』から『80歳以上』で「わからない」がそれぞれ最も高くなっています。

■「同性パートナーシップ宣誓証明制度」の今後の取組み（複数回答／性別、年代別）

	n 数	い く	大 阪 府 の 証 明 制 度 を 活 用 し、 河 内 長 の 証 明 書 を 発 行 し た 自 治 体 に 限 ら ず、 よ う に 取 組 み を 広 げ て い く	他 の 自 治 体 で も 証 明 書 を 活 用 で き る	証 明 制 度 が 必 要 な く な る よ う、 国 に お い て、 同 性 婚 等 の 法 制 度 を 進 め て	長 大 阪 府 の 証 明 制 度 は 活 用 せ ず、 河 内 長 の 証 明 書 を 発 行 し た 自 治 体 に 限 ら ず、 よ う に 取 組 み を 広 げ て い く	証 明 制 度 も 含 め て、 取 組 み は 必 要 が な い	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
全体	100.0 1,065	25.7 274	21.9 233	30.4 324	2.9 31	4.2 45	1.1 12	7.0 75	36.7 391	2.4 26	
性別											
男性	100.0 456	26.3 120	20.4 93	29.2 133	3.5 16	6.1 28	1.1 5	8.8 40	34.6 158	3.1 14	
女性	100.0 601	25.6 154	23.1 139	31.1 187	2.5 15	2.8 17	1.2 7	5.8 35	38.1 229	2.0 12	
答えたくない	100.0 8	-	12.5 1	50.0 4	-	-	-	-	50.0 4	-	
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
年代別											
19歳以下	100.0 27	29.6 8	22.2 6	55.6 15	3.7 1	-	-	3.7 1	29.6 8	-	
20歳代	100.0 100	43.0 43	31.0 31	52.0 52	4.0 4	4.0 4	3.0 3	-	26.0 26	1.0 1	
30歳代	100.0 108	34.3 37	34.3 37	41.7 45	1.9 2	2.8 3	0.9 1	3.7 4	27.8 30	0.9 1	
40歳代	100.0 157	28.0 44	27.4 43	33.8 53	3.8 6	6.4 10	1.9 3	5.1 8	29.9 47	1.3 2	
50歳代	100.0 183	25.7 47	27.9 51	34.4 63	1.6 3	2.7 5	1.1 2	9.8 18	29.5 54	1.6 3	
60歳代	100.0 191	25.7 49	17.8 34	28.3 54	2.1 4	2.6 5	-	11.0 21	36.1 69	2.1 4	
70歳代	100.0 206	18.0 37	10.7 22	16.0 33	4.4 9	7.8 16	0.5 1	7.3 15	50.0 103	3.9 8	
80歳以上	100.0 84	10.7 9	9.5 8	9.5 8	1.2 1	2.4 2	2.4 2	9.5 8	56.0 47	8.3 7	
無回答	100.0 9	-	11.1 1	11.1 1	11.1 1	-	-	-	77.8 7	-	

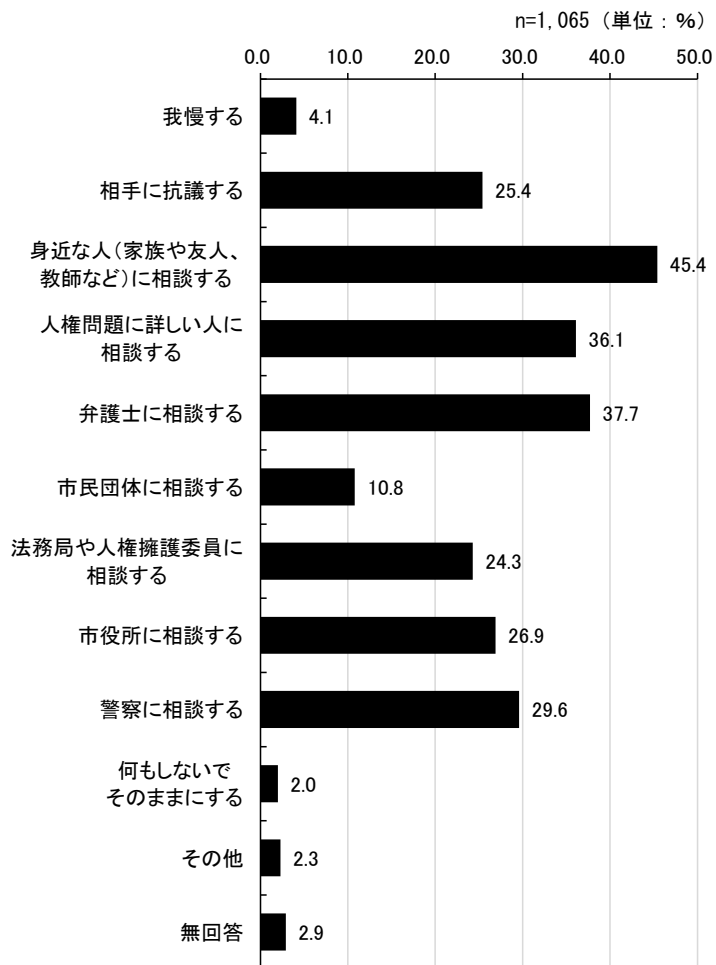
2-5-5. 人権侵害について

(1) 家族などが人権侵害を受けた際の対応

問 28 もし、あなたやあなたの家族の方が人権侵害を受けたら、どのように対応しますか。(〇はいくつでも)

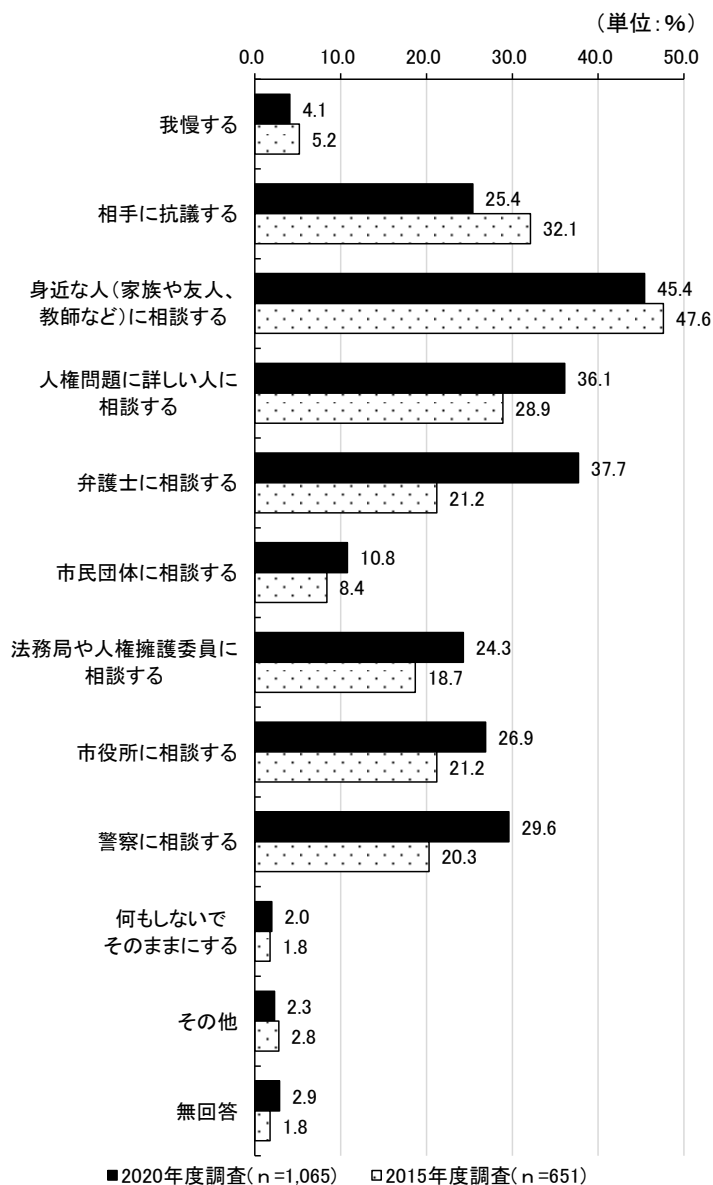
家族などが人権侵害を受けた際の対応についてみると、「身近な人(家族や友人、教師など)に相談する」が 45.4%と最も高く、次いで「弁護士に相談する」が 37.7%、「人権問題に詳しい人に相談する」が 36.1%となっています。

■家族などが人権侵害を受けた際の対応（複数回答／全体）



年度間比較をすると、2015 年度調査と比較して「我慢する」「相手に抗議する」「身近な人（家族や友人、教師など）に相談する」がいずれも今回調査の方が低くなっていますが、その他の項目では今回調査の方が高くなっています。

■家族などが人権侵害を受けた際の対応（複数回答／2015 年度調査）



性別にみると、『男性』で「弁護士に相談する」が、『女性』で「身近な人（家族や友人、教師など）に相談する」がそれぞれ最も高くなっています。

年代別にみると、『19歳以下』『60歳代』『80歳以上』以外の年代で「身近な人（家族や友人、教師など）に相談する」が最も高くなっています。

■家族などが人権侵害を受けた際の対応（複数回答／性別、年代別）

	n 数	我慢 する	相手 に抗議 する	身近な人 （家族や友人、 教師など） に相談する	人権 問題に 詳しい人 に相談する	弁護 士に相 談する	市民 団体に 相談する	法務 局や人 権擁護 委員に 相談する	市役 所に相 談する	警察 に相談 する	何も しないで そのま まにする	その 他	無回 答
全体	100.0 1,065	4.1 44	25.4 270	45.4 484	36.1 384	37.7 402	10.8 115	24.3 259	26.9 286	29.6 315	2.0 21	2.3 25	2.9 31
性別													
男性	100.0 456	3.3 15	33.8 154	34.6 158	32.5 148	41.0 187	12.5 57	29.2 133	32.2 147	36.2 165	2.4 11	2.2 10	2.6 12
女性	100.0 601	4.7 28	18.8 113	53.4 321	38.8 233	35.6 214	9.5 57	21.0 126	22.6 136	24.6 148	1.7 10	2.5 15	3.0 18
答えたくない	100.0 8	12.5 1	37.5 3	62.5 5	37.5 3	12.5 1	12.5 1	— —	37.5 3	25.0 2	— —	— —	12.5 1
無回答	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
年代別													
19歳以下	100.0 27	3.7 1	37.0 10	29.6 8	37.0 10	33.3 9	7.4 2	29.6 8	11.1 3	22.2 6	3.7 1	14.8 4	— —
20歳代	100.0 100	11.0 11	31.0 31	56.0 56	37.0 37	46.0 46	12.0 12	22.0 22	21.0 21	31.0 31	2.0 2	5.0 5	— —
30歳代	100.0 108	3.7 4	29.6 32	63.0 68	38.9 42	36.1 39	13.0 14	13.9 15	25.0 27	27.8 30	0.9 1	1.9 2	0.9 1
40歳代	100.0 157	8.9 14	27.4 43	57.3 90	32.5 51	40.1 63	9.6 15	18.5 29	21.0 33	29.3 46	3.2 5	2.5 4	1.3 2
50歳代	100.0 183	3.3 6	23.5 43	43.7 80	42.6 78	42.1 77	13.7 25	25.7 47	26.2 48	25.7 47	2.2 4	1.6 3	0.5 1
60歳代	100.0 191	2.1 4	25.1 48	39.8 76	43.5 83	44.5 85	9.4 18	28.3 54	27.7 53	26.2 50	2.1 4	1.0 2	2.1 4
70歳代	100.0 206	1.9 4	21.4 44	35.4 73	29.6 61	28.2 58	9.7 20	29.6 61	32.0 66	35.0 72	1.5 3	1.9 4	4.9 10
80歳以上	100.0 84	— —	19.0 16	36.9 31	25.0 21	23.8 20	8.3 7	27.4 23	39.3 33	35.7 30	— —	1.2 1	14.3 12
無回答	100.0 9	— —	33.3 3	22.2 2	11.1 1	55.6 5	22.2 2	— —	22.2 2	33.3 3	11.1 1	— —	11.1 1

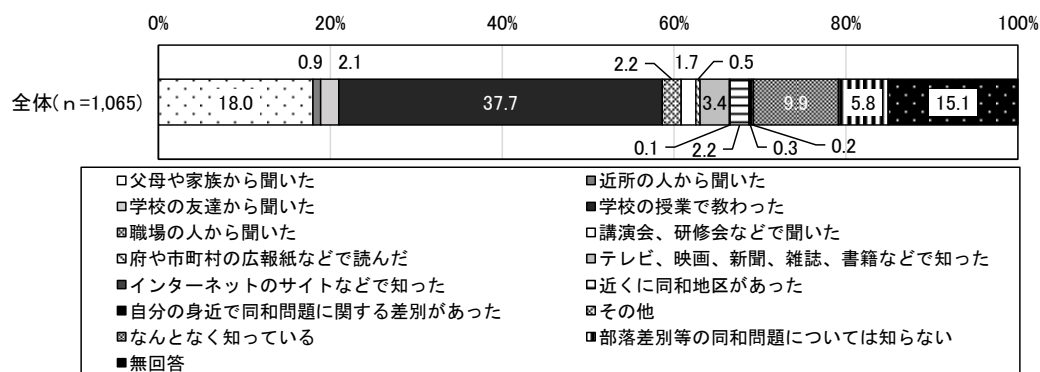
2-5-6. 部落差別等の同和問題について

(1) 部落差別等の同和問題を初めて知ったきっかけ

問 29 あなたは、部落差別等の同和問題について、初めて知ったきっかけは何からですか。(〇は1つだけ)

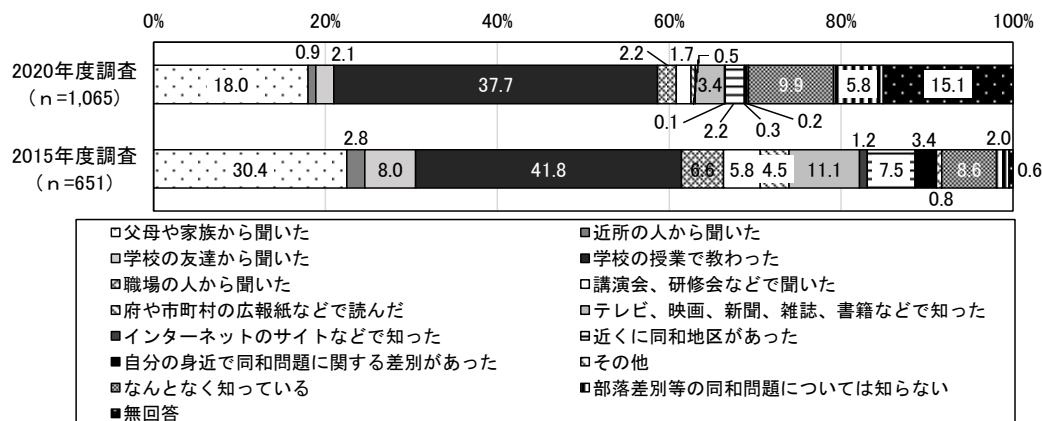
部落差別等の同和問題を初めて知ったきっかけについてみると、「学校の授業で教わった」が37.7%と最も高く、次いで「父母や家族から聞いた」が18.0%、「なんとなく知っている」が9.9%となっています。

■ 部落差別等の同和問題を初めて知ったきっかけ（単数回答／全体）



年度間比較をすると、2015 年度調査では「父母や家族から聞いた」が 30.4%に対し、今回調査で 18.0%と 12.4 ポイント低くなっています。

■ 部落差別等の同和問題を初めて知ったきっかけ（単数回答／2015 年度調査）



性別にみると、いずれも「学校の授業で教わった」が最も高くなっていますが『男性』で35.1%、『女性』で39.9%と『女性』の方が4.8ポイント高くなっています。

年代別にみると、『19歳以下』から『60歳代』で「学校の授業で教わった」が、『70歳代』『80歳以上』で「父母や家族から聞いた」がそれぞれ最も高くなっています。

■部落差別等の同和問題を初めて知ったきっかけ（単数回答／性別、年代別）

	n 数	父 母 や 家 族 か ら 聞 い た	近 所 の 人 か ら 聞 い た	学 校 の 友 達 か ら 聞 い た	学 校 の 授 業 で 教 わ つ た	職 場 の 人 か ら 聞 い た	講 演 会 、 研 修 会 な ど で 聞 い た	読 ん だ 府 や 市 町 村 の 広 報 紙 な ど	書 籍 な ど で 知 つ た	テ レ ビ 、 映 画 、 新 聞 、 雑 誌 、	イン ター ネ ッ ト の サ イ ト な ど で 知 つ た	近 く に 同 和 地 区 が あ つ た	自 分 の 身 近 で 同 和 問 題 に 関 す る 差 別 が あ つ た	そ の 他	な ん と な く 知 つ て い る	部 落 差 別 等 の 同 和 問 題 に つ い て は 知 ら な い	無 回 答
全体	100.0 1,065	18.0 192	0.9 10	2.1 22	37.7 402	2.2 23	1.7 18	0.5 5	3.4 36	0.1 1	2.2 23	0.3 3	0.2 2	9.9 105	5.8 62	15.1 161	
性別																	
男性	100.0 456	18.4 84	0.7 3	2.0 9	35.1 160	2.6 12	2.2 10	0.7 3	3.1 14	0.2 1	3.3 15	0.2 1	0.2 1	10.5 48	6.8 31	14.0 64	
女性	100.0 601	17.6 106	1.2 7	2.2 13	39.9 240	1.8 11	1.3 8	0.3 2	3.7 22	- -	1.3 8	0.3 2	0.2 1	9.3 56	5.0 30	15.8 95	
答えたくない	100.0 8	25.0 2	- -	- -	25.0 2	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	12.5 1	12.5 1	25.0 2	
無回答	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	
年代別																	
19歳以下	100.0 27	11.1 3	- -	- -	44.4 12	- -	- -	- -	3.7 1	3.7 1	- -	- -	- -	- -	7.4 2	29.6 8	- -
20歳代	100.0 100	13.0 13	- -	2.0 2	49.0 49	2.0 2	- -	- -	4.0 4	- -	- -	- -	2.0 2	8.0 8	17.0 17	3.0 3	
30歳代	100.0 108	12.0 13	- -	2.8 3	48.1 52	2.8 3	0.9 1	- -	1.9 2	- -	- -	- -	- -	13.0 14	7.4 8	11.1 12	
40歳代	100.0 157	14.6 23	- -	1.3 2	58.6 92	0.6 1	- -	- -	- -	- -	0.6 1	1.9 3	- -	3.2 5	3.2 5	15.9 25	
50歳代	100.0 183	16.4 30	0.5 1	2.2 4	55.2 101	0.5 1	1.1 2	- -	2.7 5	- -	1.1 2	- -	- -	5.5 10	3.8 7	10.9 20	
60歳代	100.0 191	19.4 37	1.0 2	2.6 5	35.1 67	2.1 4	3.7 7	1.6 3	4.7 9	- -	2.6 5	- -	- -	7.9 15	1.6 3	17.8 34	
70歳代	100.0 206	25.7 53	1.5 3	1.9 4	9.2 19	4.9 10	2.4 5	0.5 1	5.3 11	- -	4.4 9	- -	- -	17.0 35	3.9 8	23.3 48	
80歳以上	100.0 84	22.6 19	4.8 4	2.4 2	9.5 8	2.4 2	3.6 3	1.2 1	3.6 3	- -	7.1 6	- -	- -	16.7 14	6.0 5	20.2 17	
無回答	100.0 9	11.1 1	- -	- -	22.2 2	- -	- -	- -	11.1 1	- -	- -	- -	- -	22.2 2	11.1 1	22.2 2	

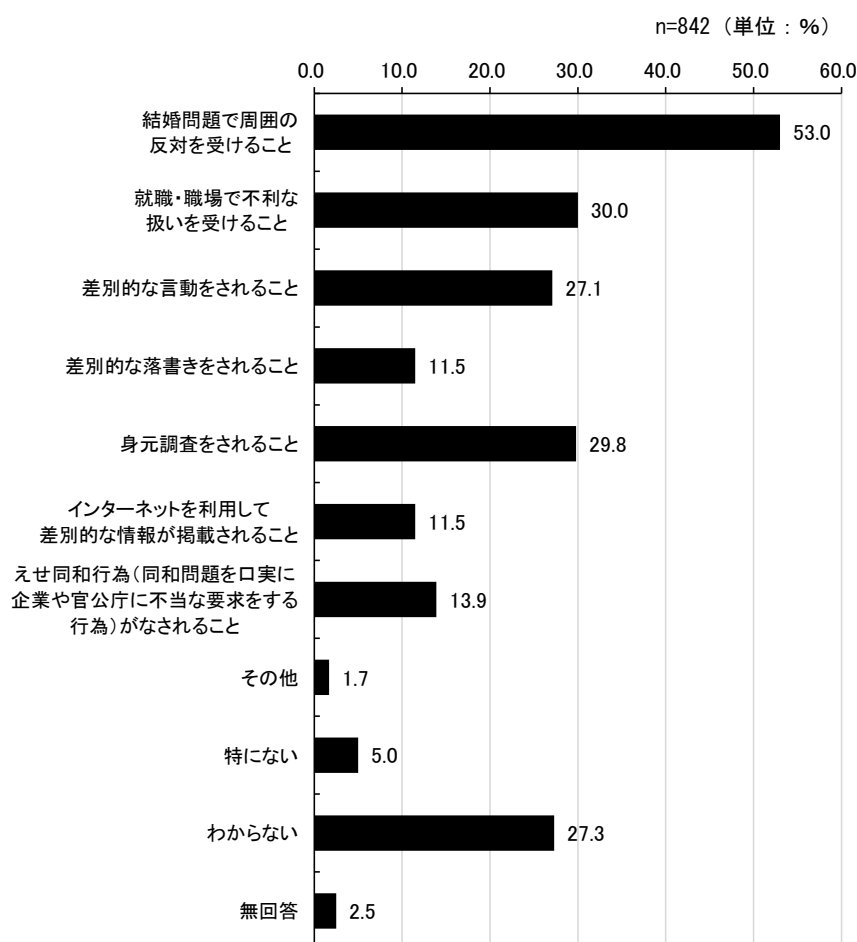
(2) 部落差別等の同和問題に対する認知

(問 29 で「1～13」のいずれかに回答された方におたずねします。)

問 30 あなたは、部落差別等の同和問題に関して現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(〇はいくつでも)

部落差別等の同和問題に対する認知についてみると、「結婚問題で周囲の反対を受けること」が 53.0%と最も高く、次いで「就職・職場で不利な扱いを受けること」が 30.0%、「身元調査をされること」が 29.8%となっています。

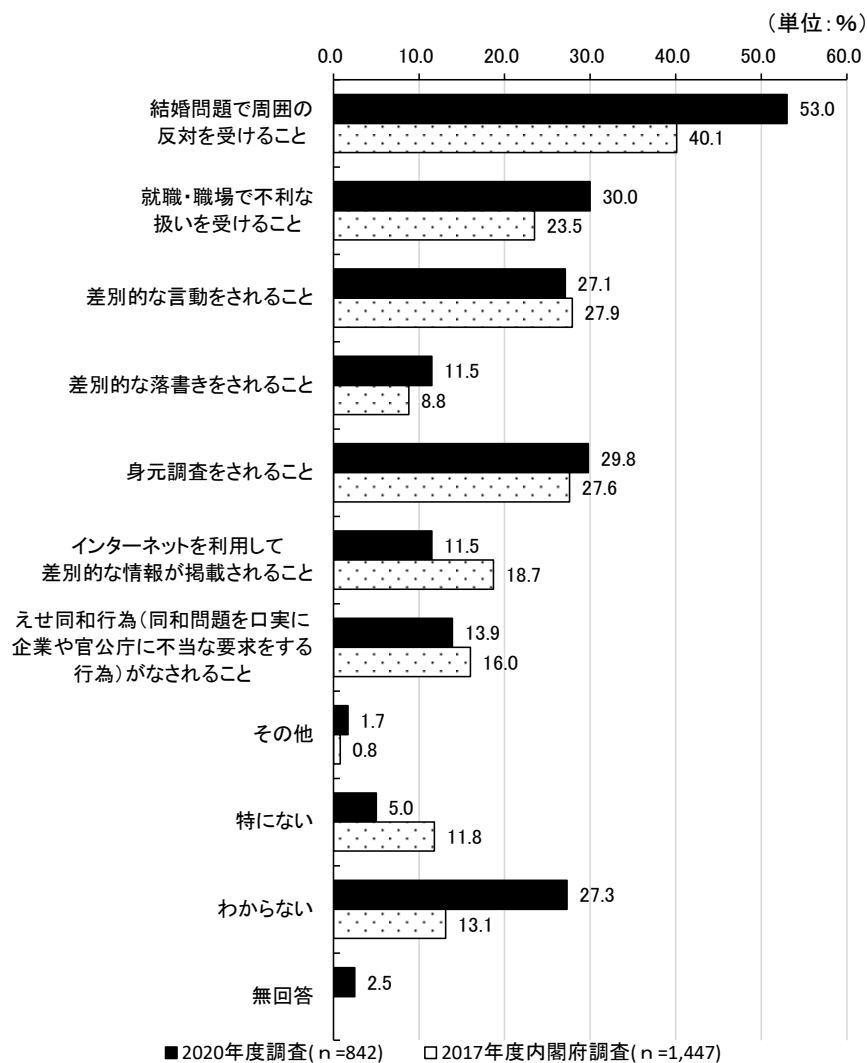
■ 部落差別等の同和問題に対する認知（複数回答／全体）



国の調査と比較すると、内閣府調査では「結婚問題で周囲の反対を受けること」が40.1%に対し、今回調査では53.0%と12.9ポイント高くなっています。

また、内閣府調査では「わからない」が13.1%に対し、今回調査では27.3%と14.2ポイント高くなっています。

■ 部落差別等の同和問題に対する認知（複数回答／内閣府調査との比較）



※内閣府調査データには「無回答」が無いいためグラフに表示していない。

性別にみると、いずれも「結婚問題で周囲の反対を受けること」が最も高くなっています
が『男性』で50.4%、『女性』で55.5%と『女性』の方が5.1ポイント高くなっています。

年代別にみると、『80歳代』を除くいずれの年代も「結婚問題で周囲の反対を受けること」
が最も高くなっています。

■部落差別等の同和問題に対する認知（複数回答／性別、年代別）

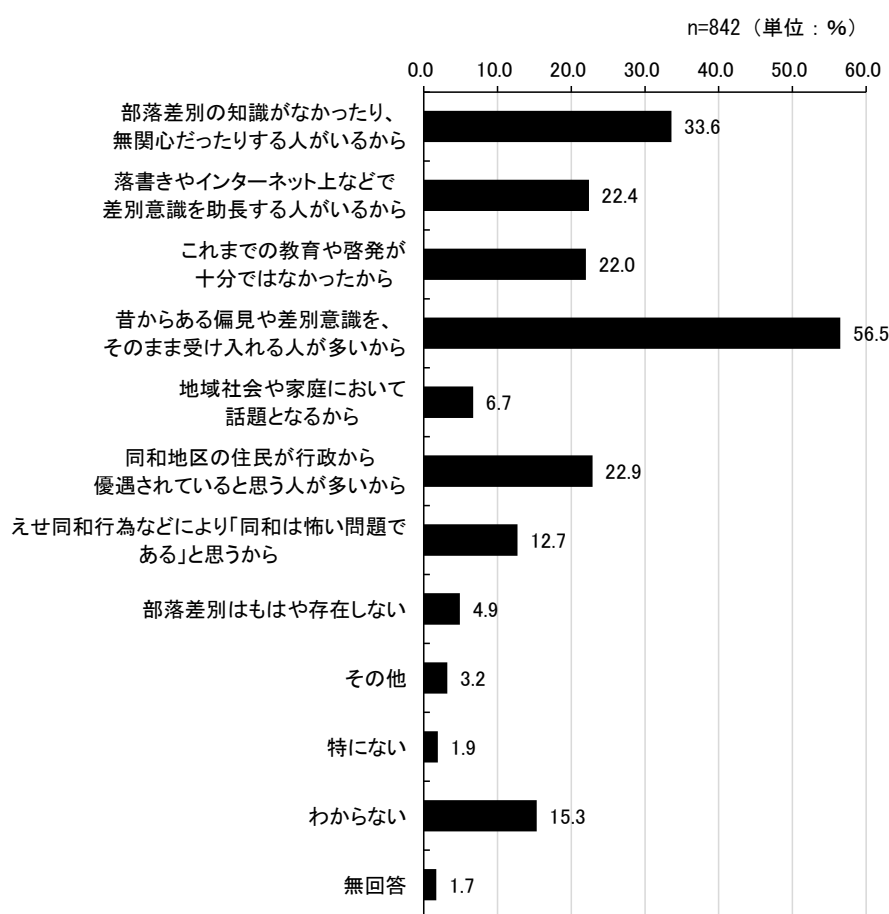
	n 数	結婚問題で周囲の反対を 受けること	就職・職場で不利な扱いを 受けること	差別的な言動をされること	差別的な落書きをされること	身元調査をされること	インターネットを利用して 差別的な情報が掲載されること	えせ同和行為（同和問題を口実に企 業や官公庁に不当な要求をする行 為）がなされること	その他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
全体	100.0 842	53.0 446	30.0 253	27.1 228	11.5 97	29.8 251	11.5 97	13.9 117	1.7 14	5.0 42	27.3 230	2.5 21
性別												
男性	100.0 361	50.4 182	29.6 107	27.4 99	12.5 45	29.9 108	11.9 43	16.9 61	2.2 8	6.6 24	24.1 87	3.0 11
女性	100.0 476	55.5 264	30.7 146	26.7 127	10.5 50	29.8 142	11.3 54	11.8 56	1.3 6	3.8 18	29.6 141	2.1 10
答えたくない	100.0 5	－ －	－ －	40.0 2	40.0 2	20.0 1	－ －	－ －	－ －	－ －	40.0 2	－ －
無回答	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －
年代別												
19歳以下	100.0 19	57.9 11	57.9 11	52.6 10	31.6 6	15.8 3	31.6 6	10.5 2	－ －	15.8 3	5.3 1	－ －
20歳代	100.0 80	56.3 45	33.8 27	45.0 36	16.3 13	25.0 20	21.3 17	13.8 11	－ －	2.5 2	26.3 21	2.5 2
30歳代	100.0 88	64.8 57	40.9 36	46.6 41	29.5 26	37.5 33	19.3 17	13.6 12	1.1 1	3.4 3	20.5 18	－ －
40歳代	100.0 127	62.2 79	31.5 40	26.0 33	10.2 13	32.3 41	10.2 13	13.4 17	3.9 5	1.6 2	25.2 32	2.4 3
50歳代	100.0 156	58.3 91	35.3 55	28.2 44	12.2 19	38.5 60	10.3 16	18.6 29	1.3 2	2.6 4	21.8 34	3.2 5
60歳代	100.0 154	46.8 72	29.9 46	20.1 31	8.4 13	29.2 45	11.7 18	17.5 27	1.3 2	6.5 10	28.6 44	1.9 3
70歳代	100.0 150	45.3 68	20.7 31	15.3 23	2.7 4	25.3 38	6.7 10	9.3 14	1.3 2	7.3 11	34.7 52	2.7 4
80歳以上	100.0 62	35.5 22	11.3 7	12.9 8	3.2 2	17.7 11	－ －	6.5 4	3.2 2	11.3 7	43.5 27	3.2 2
無回答	100.0 6	16.7 1	－ －	33.3 2	16.7 1	－ －	－ －	16.7 1	－ －	－ －	16.7 1	33.3 2

(3) 部落差別等の同和問題に対する意識

問 31 あなたは、現在もなお社会の中で部落差別等の同和問題が存在するのは、なぜだと思いますか。(〇はいくつでも)

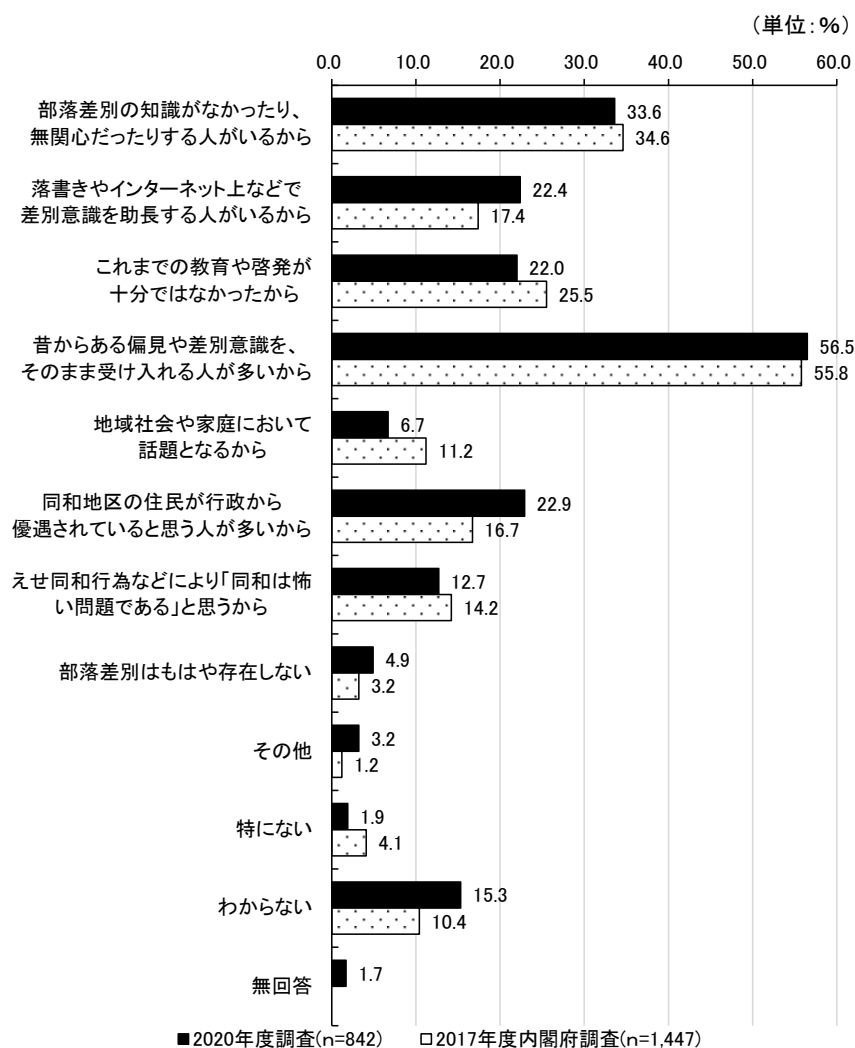
部落差別等の同和問題に対する意識についてみると、「昔からある偏見や差別意識を、そのまま受け入れる人が多いから」が 56.5%と最も高く、次いで「部落差別の知識がなかったり、無関心だったりする人がいるから」が 33.6%、「同和地区の住民が行政から優遇されていると思う人が多いから」が 22.9%となっています。

■ 部落差別等の同和問題に対する意識（複数回答／全体）



国の調査と比較すると、内閣府調査では「同和地区の住民が行政から優遇されていると思う人が多いから」が16.7%に対し、今回調査では22.9%と6.2ポイント高くなっています。

■部落差別等の同和問題に対する意識（複数回答／内閣府調査との比較）



※内閣府調査データには「無回答」が無いいためグラフに表示していない。

性別にみると、いずれも「昔からある偏見や差別意識を、そのまま受け入れる人が多いから」が最も高くなっていますが『男性』で54.3%、『女性』で57.8%と『女性』の方が3.5ポイント高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「昔からある偏見や差別意識を、そのまま受け入れる人が多いから」が最も高くなっています。

■ 部落差別等の同和問題に対する意識（複数回答／性別、年代別）

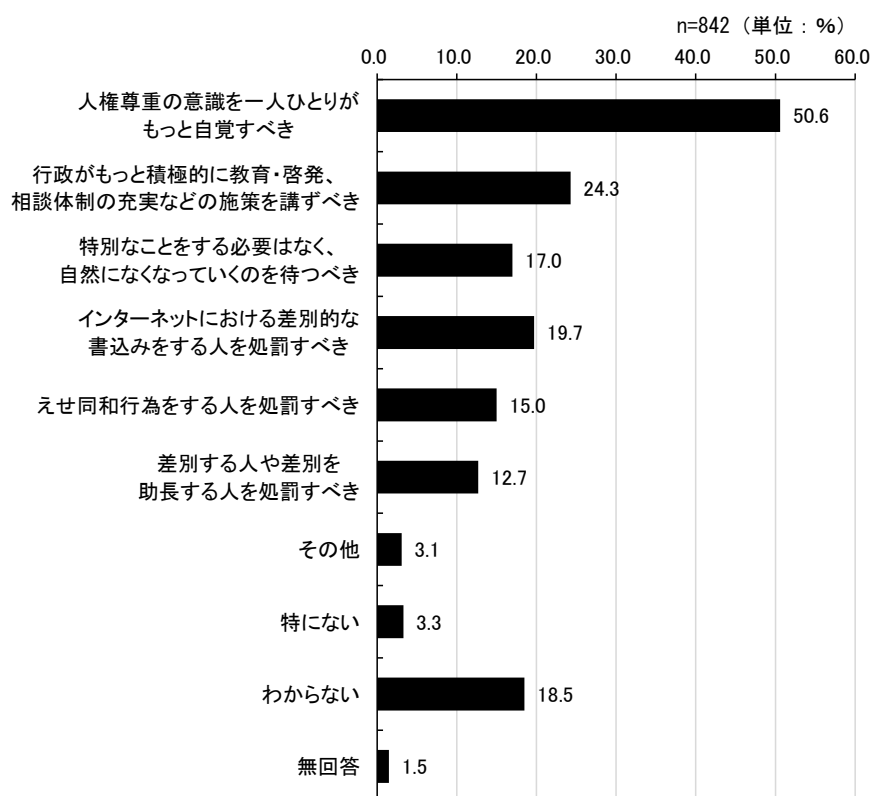
	n 数	心部落差別の知識がなかつたり、無関係意識を助長する人がいるから	別書きやインターネットなどで差別意識を助長する人がいるから	これまでの教育や啓発が十分ではなかつたから	昔からある偏見や差別意識を、そのまま受け入れる人が多いから	地域社会や家庭において	同和地区の住民が行政から優遇されていると思うから	いせ同和行為などにより「同和は怖い問題である」と思うから	部落差別はもはや存在しない	その他	特にな	わからない	無回答
全体	100.0 842	33.6 283	22.4 189	22.0 185	56.5 476	6.7 56	22.9 193	12.7 107	4.9 41	3.2 27	1.9 16	15.3 129	1.7 14
性別													
男性	100.0 361	32.1 116	19.9 72	25.2 91	54.3 196	7.2 26	24.1 87	17.7 64	7.2 26	4.4 16	2.5 9	14.4 52	1.9 7
女性	100.0 476	34.2 163	23.9 114	19.7 94	57.8 275	6.3 30	22.1 105	8.8 42	3.2 15	2.3 11	1.5 7	16.2 77	1.5 7
答えたくない	100.0 5	80.0 4	60.0 3	- -	100.0 5	- -	20.0 1	20.0 1	- -	- -	- -	- -	- -
無回答	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
年代別													
19歳以下	100.0 19	42.1 8	26.3 5	26.3 5	68.4 13	- -	5.3 1	15.8 3	- -	5.3 1	5.3 1	5.3 1	- -
20歳代	100.0 80	43.8 35	28.8 23	21.3 17	63.8 51	15.0 12	15.0 12	12.5 10	- -	1.3 1	1.3 1	10.0 8	1.3 1
30歳代	100.0 88	45.5 40	36.4 32	29.5 26	61.4 54	10.2 9	12.5 11	6.8 6	3.4 3	1.1 1	- -	11.4 10	- -
40歳代	100.0 127	34.6 44	22.8 29	15.0 19	52.8 67	7.9 10	24.4 31	15.7 20	3.1 4	5.5 7	1.6 2	18.9 24	2.4 3
50歳代	100.0 156	25.6 40	25.0 39	23.7 37	60.9 95	7.7 12	30.1 47	17.9 28	3.2 5	2.6 4	- -	14.1 22	1.3 2
60歳代	100.0 154	32.5 50	21.4 33	22.1 34	59.1 91	3.9 6	27.9 43	12.3 19	3.9 6	3.9 6	0.6 1	16.2 25	- -
70歳代	100.0 150	30.7 46	14.0 21	23.3 35	50.7 76	1.3 2	22.0 33	8.7 13	8.7 13	2.0 3	2.7 4	18.0 27	3.3 5
80歳以上	100.0 62	30.6 19	9.7 6	17.7 11	43.5 27	8.1 5	21.0 13	9.7 6	16.1 10	4.8 3	9.7 6	19.4 12	4.8 3
無回答	100.0 6	16.7 1	16.7 1	16.7 1	33.3 2	- -	33.3 2	33.3 2	- -	16.7 1	16.7 1	- -	- -

(4) 部落差別等の同和問題を解消するための対応

問 32 あなたは、部落差別等の同和問題を解消するために、今後どうすればよいと思いますか。(〇はいくつでも)

部落差別等の同和問題を解消するための対応についてみると、「人権尊重の意識を一人ひとりがもっと自覚すべき」が 50.6%と最も高く、次いで「行政がもっと積極的に教育・啓発、相談体制の充実などの施策を講ずべき」が 24.3%、「インターネットにおける差別的な書込みをする人を処罰すべき」が 19.7%となっています。

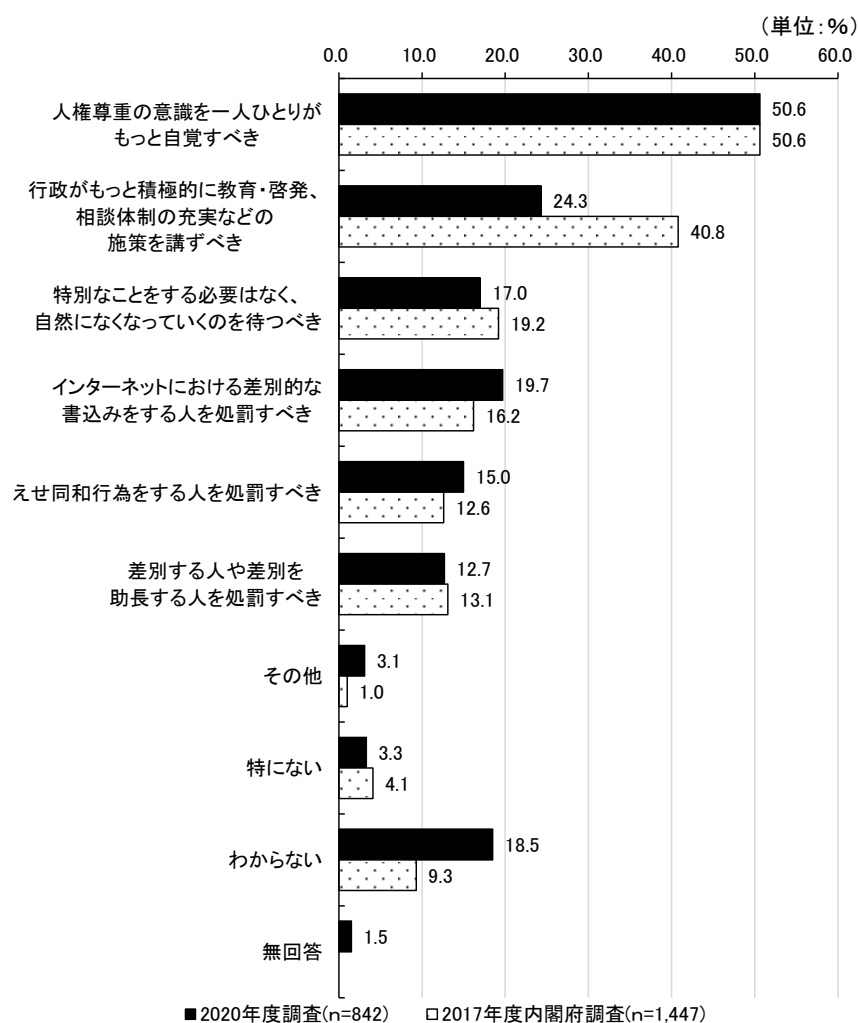
■ 部落差別等の同和問題を解消するための対応（複数回答／全体）



国の調査と比較すると、内閣府調査では「行政がもっと積極的に教育・啓発、相談体制の充実などの施策を講ずべき」が40.8%に対し、今回調査では24.3%と16.5ポイント低くなっています。

また、内閣府調査では「わからない」が9.3%に対し、今回調査では18.5%と9.2ポイント高くなっています。

■ 部落差別等の同和問題を解消するための対応（複数回答／内閣府調査との比較）



※内閣府調査データには「無回答」が無いいためグラフに表示していない。

性別にみると、いずれも「人権尊重の意識を一人ひとりがもっと自覚すべき」が最も高くなっていますが『男性』で50.4%、『女性』で50.6%とほぼ同じ割合となっています。

年代別にみると、すべての年代で「人権尊重の意識を一人ひとりがもっと自覚すべき」が最も高くなっています。

■部落差別等の同和問題を解消するための対応（複数回答／性別、年代別）

	n 数	人権尊重の意識を一人ひとりが もつと自覚すべき	行政がもつと積極的な教育・啓発、 相談体制の充実などの施策を講ずべき	特別なことをする必要はなく、 自然になくなっていくのを待つべき	インターネットにおける差別的な 書き込みをする人を処罰すべき	えせ同和行為をする人を 処罰すべき	差別する人や差別を助長する人を 処罰すべき	その他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
全体	100.0 842	50.6 426	24.3 205	17.0 143	19.7 166	15.0 126	12.7 107	3.1 26	3.3 28	18.5 156	1.5 13
性別											
男性	100.0 361	50.4 182	23.3 84	19.1 69	21.9 79	20.5 74	15.2 55	2.5 9	5.0 18	15.2 55	1.4 5
女性	100.0 476	50.6 241	25.4 121	15.5 74	18.1 86	10.7 51	10.7 51	3.6 17	2.1 10	21.0 100	1.7 8
答えたくない	100.0 5	60.0 3	－	－	20.0 1	20.0 1	20.0 1	－	－	20.0 1	－
無回答	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －
年代別											
19歳以下	100.0 19	68.4 13	21.1 4	10.5 2	26.3 5	21.1 4	15.8 3	－	10.5 2	5.3 1	－
20歳代	100.0 80	56.3 45	30.0 24	13.8 11	35.0 28	12.5 10	18.8 15	－	1.3 1	16.3 13	2.5 2
30歳代	100.0 88	55.7 49	37.5 33	13.6 12	26.1 23	15.9 14	17.0 15	3.4 3	1.1 1	14.8 13	－
40歳代	100.0 127	33.1 42	19.7 25	12.6 16	15.7 20	14.2 18	13.4 17	7.9 10	3.1 4	25.2 32	2.4 3
50歳代	100.0 156	58.3 91	22.4 35	11.5 18	25.0 39	19.9 31	17.9 28	5.1 8	0.6 1	16.7 26	1.9 3
60歳代	100.0 154	51.3 79	25.3 39	18.2 28	15.6 24	14.9 23	9.1 14	1.3 2	3.2 5	21.4 33	0.6 1
70歳代	100.0 150	50.0 75	22.0 33	24.7 37	14.0 21	14.0 21	8.0 12	0.7 1	6.7 10	14.0 21	2.7 4
80歳以上	100.0 62	50.0 31	19.4 12	25.8 16	9.7 6	4.8 3	4.8 3	1.6 1	4.8 3	24.2 15	－
無回答	100.0 6	16.7 1	－	50.0 3	－	33.3 2	－	16.7 1	16.7 1	33.3 2	－

2-5-7. 自由意見

(1) 人権問題や人権教育・啓発についての自由意見

問 33 河内長野市の人権問題や今後の人権教育・啓発について、ご意見・ご要望がありましたら、下の空欄に自由にお書きください。

回答総数 1,065 人中 179 人（16.8％）の意見・要望があり、内容はおおむね以下のように分類できます。

なお、一人の回答が複数の内容にわたる場合には、それぞれを 1 件として分類しています。

・意識調査に関すること・・・・・・・・・・・・・・・・	20 件
・女性の人権について・・・・・・・・・・・・・・・・	1 件
・子どもの人権について・・・・・・・・・・・・・・・・	8 件
・高齢者の人権について・・・・・・・・・・・・・・・・	3 件
・障がい者の人権について・・・・・・・・・・・・・・・・	5 件
・同和問題について・・・・・・・・・・・・・・・・	19 件
・性的マイノリティの人権問題について・・・・・・・・	1 件
・情報社会の人権問題について・・・・・・・・	2 件
・市の人権施策について・・・・・・・・	42 件
・人権や差別問題全般について・・・・・・・・	18 件
・人権教育・啓発について・・・・・・・・	39 件
・その他・・・・・・・・	28 件

①意識調査に関すること

人権問題の教育を受けても、個人の受けとり方、考え方はいろいろだと思うので、この先もなかなか差別はなくならないのかな、とは思います。大人になってからは学生の様に勉強することもないので自分には遠い問題だとかんじてしまう。

いろいろと勉強となりました。有難うございました。

河内長野市は教育水準の高い人々が多く、地方からの移住した住民が大半を占め同和問題やヘイトスピーチに関する話題を耳にした事がない。

人権問題には、あまり感心がなかったので、アンケートは知識がなく難しく答えずらかった。

アンケートを集計したら、〇〇（判読不明）公表して下さい。

設問と関係ありませんが、このアンケートは無作為に選んだとなっているが、当方は世帯主宛で届いた。世帯主宛だと男性が多くなるので、多分、世帯主でない人も選ばれていると思いますが…？ 疑問に思いました。

このようなアンケートに初めて記入しましたが、すばらしい取り組みだと思いました。しかし残念ながら若者世代と言われる10～20代、私の周りの人々は関心が少ないのは事実であり、知識、教養を深めていく必要があると感じています。若者にも知れるようにInstagram、Twitter等SNSで気軽に見れる、知れるようにするのはいかがでしょうか。コロナ禍において大阪府は注目を集めており、府の発信力を借りるのも一つの手であるかもしれません。河内長野市だけでなく、大阪、日本全国に伝えられていくべき問題でもあるかと思ひます。一度ご一考下さい。このような時世で大変な中いつもお疲れ様です。どうぞお体に気を付けて河内長野市の益々の発展をお祈りいたします。

今回のアンケートをするまで人権問題について全然考えてなかったです。だからと言って、これから何かするということもなさそうです。すいません。今の生活が幸せなので特に人権問題について考えることもないというのが本音です。

そもそも、この時代に手書きのアンケートはどうかと思う。マークシートを使用したり、他にも方法はあつた。これを集計するための時間とお金（給料）のむだ使いです。

②女性の人権について

女性管理職の数値目標などがあれば、それは本人の能力を見ずに性別で管理職を選んでいるのと同じであり、完全に撤廃し、一人一人個別の能力を見て、その評価をすべき。

③子どもの人権について

▶ずっと思っていたけど「虐待かな？」と思っても、電車の中にいたりしたら、周りの人に通報してるのがバレるし、相手も余計に機嫌が悪くなるしと考えている間に虐待かと思われる親子が電車を降りたりすると、正直電話での通報はやりにくい。ホームページにでもメッセージで送れる所があると有難いし、もし本当に虐待だった時に助けてあがられたかと思えた。「何駅で何時にどこ行きの電車をおりたか」を伝えれば、助けるのに役立てるのではないかなと思う。

▶いじめは正直「やってない、そんなつもりなかった」と言われれば相談したのもバテて余計何か言われるので、味方になってくれる人（教師）が必要だと思う。いじめと分かっても見逃す人も多く相談して助けを求めても何もしてくれず結果なくなるのはおかしい。→教師に対して、いじめに対する研修などもっと沢山してほしい。友人も居ない子の最後の居場所を一人でいいから教師が作ってあげるべき。（正直、国や市に出来ることはあまりなく、身近な人が大切になる。）

子供をもつ一人の親として、人権について問われたらいろいろと考えてしまいます。将来、学校や職場で何か問題が起きた時、「ここに逃げてきたらいい、安全なんだよ」と助けを求められる場所があればなと思います。きっと今もいじめをうけて助けを求めていると思います。

親による虐待、子ども間のいじめ、教師からの体罰、教師への生徒からのいやがらせ等、身近な人権問題をなくす取組み。気軽に悩みを離したり、教育・啓発する機会を増やす等。

小学校、中学校の活動として、一クラス単位、学年単位、学校全体の単位に分けて月一回、年一回、講師として差別を受けた一般の住民から専門知識のある方をお招きし、体験、話し合い、今後どうすれば良いか等々話し合う機会があれば良いのではと思っています。

母子家庭、子供の人権、大切にしたい。一人一人に違った事情があります。きちんと話を聞き、考えて欲しかったで。アンケートをする前に、窓口にて相談者に対し傾聴すれば良いかと思いました本当に残念です。

④高齢者の人権について

高齢者が多い市だからこそ、経済をまわす為には高齢者の働き口をひろくする。また、単親の方を集めて共同で居住できる施設等、介護・健康保険に頼らない、高齢者を自立した人間（人権）とした見方へ変える時代と思う。

⑤障がい者の人権について

私が小学生の頃、支援学校の子たちと毎月一緒に勉強などする日がありました。なので私は今も障がい者の方には特にへんけんなどありません。もっと交流の場、機会を増やし、子どもが小さい頃から一緒に生きていく社会をつくれればと思います。区別をわざわざ最初からする意味が分からない。

・大阪市（モデル都市）の様に障がい者（軽度）でも、受けれる支援を増やしてほしい。普通のコトをするのが大変なのに、いちいち申請したり、お金をだしてまで（障がい者年金）長期の手続きをするのは大変です。まるで、このルールで生きれない人は生きていくな。と言われているみたいです。

⑥同和問題について

河内長野に移り住んで25年になりますが、同和問題が存在するのを知ったのは初めてです。日常生活でそれを感じた事は一度もありません。

部落差別や同和問題について学校で学ぶまで知らなかった。

その地区に産まれただけで差別をする事は無いと思いますが、子供はわけもわからないのに親が子供に言ったりするから、そうなるのでは？ 私が20才代の頃、職場の横が部落差別の人達でしたが、会社にも勤務されてたので皆やさしい良い人達でした。同じ人間です。

人権問題は、部落民の問題を意味すると私等の年代は考えて居ります。幸いな事に、小生が子供の頃は、しばしばこの事を話題にする社会でしたが、現在は本件を口にした話題にしたりする人は極度に減少しています。つまり人々は本件を意識しなくなって来ていると見ます。事実、何の意味もない差別ですから、これで良いのです。さわぎ立てて話題にする人の意図は補償などをねらっているのかも知れませんが、本件は自然に消滅する過程にあるではありませんか。人権とは諸々の権利を意味していることは承知していますが、敢えて部落民をとり上げました。

えせ同和行為で私腹を肥やす人々には注意して下さい。

子供の時から現在まで同和の人等が住んでいなかったのも特に何も感じなかったし学校で同級生もいましたが普通に他の生徒と同じように友達だったので特に人権問題と考えた事もなかった。

河内長野市にて先日閉館が決まった部落・同和展示館の資料展示をして公開する。

人権教育、啓発、騒ぎたてずに、そっとしておいた方が良い。同和問題など知らない若い世代にわざわざ教えるようなものです。

私自身、両親から部落差別問題を聞くまで知らなかった。啓発することは重要と思う。昔からの偏見を断ち切ることは本当に難しいことと思うが、粘り強く取り組む問題と思う。

⑧情報社会の人権問題について

SNSの使い方など小学校低学から教えてくべきだと思います。

ネット上で、未成年（女子）がかんたんに知らない人に連絡する事をもっと女子達にきつく注意すべきです。成人達がバッセられても、未成年と言う事で終わってしまう。親の教育問題です。

⑩市の人権施策について

身近に人権問題は感じないが、何かあった時、相談窓口など情報を提供して欲しい。

例えばあちこちに表記などするほうが逆効果に思う。人権問題に取り組む町河内長野的なアピールはかえってよくない。学校や企業に対して啓発を積極的に水面下で行うのは大いにお願ひしたいが。素直に受け入れやすい小学生での教育が一番効果的に思う。

五感で直接コミュニケーションのとれる町作りの中により好い人権意識が生まれるのではないのでしょうか。

1つの市だけが決起しても力は小さいが、府・国と手を取り合い、情報の交換・共有していくことで数年で結果が出なくとも、未来への財産となることを信じて市民を中心として問題について取り組んでいただきたい。河内長野市には骨をうずめる所存です。期待しております。

子育てをしている私にとっては人権は最も大切なことだと思います。人は、たった一人では生きていくことができず、私達は多くの様々な人達が集まって生活しています。その一人一人がより輝けるような河内長野市になって欲しいと願うと同時に、私も父親として人権を大切に、日々、小さな力ですが努力したいと思っています。今回はありがとうございました。

人権問題をなくす事は非常に困難ではあるが人権問題をかかえる人々がより良いくらしができる取組みはできと思うので推進を願います。

皆が相談できる場所がある、ということを本当に困っている人の目に届くように知らせてあげて欲しいです。

河内長野に住んでから平素の生活において、差別や問題を見聞きすることがないので、あまり関心を払っていない。世の中には人権に限らず様々な差別が存在するが、行政が立法や政策でなくせる差別があればなくすべきで、差別されている人達の生活が改善するまで取り組むべき

同和問題についてきいたことがあるか、と子供にたずねましたら、きいたことがない、とのことでした。（授業で習ってない!?）私自身、授業で習ったはずですがあまり覚えてなくしっかり理解してないところがあります。公報などで改めて教えて頂けるとよいかなと思いました。

継続した施策が、根気よくされるべきと思う。

①市政だよりでの周知 ②教育、啓発のための番組、映画、動画等の制作 ③学校への教材配布

河内長野市が市内の企業と連携し、人権教育・啓発についての取り組みを具体的に示したポスターなどをその企業のお店などにアピールしてもらい、逆に、河内長野市も市役所内等で、協力いただいた企業を掲示する事で、その企業のPRIにもつながりますので、お互いにより良い関係が築けると思います。

人権や権利に関しては、すべて双方向であり、一方向的なものは排除すべきである。存在するのは優先性（法や物理的な根拠に基づく）であると考えられる。この様な意識をもって施策を行うべきでは？
職場では人権問題や人権教育・啓発を行っているが、地域で教育、啓発、相談体制が充実しているとは思えない。行政が主導で地域住民での教育、啓発、相談体制を充実すべきだと思います。地域の啓発活動を推進してほしい。
各自が差別意識をなくし、行政が相談体制を充実させる。
人間が居る限り、人権問題は無くならない。行政も教育に力を入れていると思うが小・中・高・大で、人権問題を教育できる教師を育てるのも大事
どういう人権教育、啓発を市が行っているか、学校教育以外で何も知らない人が私も含めて大半ではないか。知ろうとしない方も問題だが、メッセージのうちだし方に問題があると思う。
実際に直視して、啓発、教育、なくすための具体的なことを取りくむ。性教育もできていない。人権意識が遅れている!! 薄い。古い田舎の封建的な考え方が根強く残っている。それにフタをする体質。
市役所の窓口で夫のことを「ご主人」と言われた。男女差別を気にする人もいます。公の場で使う言葉ではない。
河内長野で、人権被害にあっている人がどれだけいるのかわかりませんが、その方たちがいなくなるのが正しいと思っている人たちが増えることがないよう、またはその気持ちがどうしてわきおこるのか、そちらも考えていく必要があると感じます。どちらにもよりそうのは難しいことかと思ひます。良い人もいやな人も、こどもも大人も何やっても、救いのあるやさしい社会になるとよいですね。汚い字で長々とすいません。
これまで同和教育を中心に育んできたことが一定の成果があったと感じています。これからは地域市民が主体となれるよう戦略と方法を求められるでしょう。諸外国の人権教育と実践に学び応用可能な内容を積極的に取り入れながら行政としてアドバイスを願う

⑪ 人権や差別問題全般について

今まで私は幸いといえますか、人権問題にぶち当たった事はありません。小学校の頃、授業で差別はいけない「いけない」という言葉だけが残っており、実際、具体的になにがいけないか分かってないと思ひました。
人間である限り何らかの差別意識は生じます。（金持ちや地位等）差別をする側、受ける側ともしっかりとした意識を持つ事と法を整備すべきと感じます。
「理不尽な差別を受ける人」「いわれなき誹謗中傷を受けている人」を社会全体が守る責任がある。只「最大多数の最大幸福」が絶対とは言わないが多数をなおざりにして、少数に労力、時間、金をかけ過ぎるのも問題。「弱者」の定義はむづかしいが、「強者」を増加させない、減らすのが政治と思う。
人権問題に関心の低い層の方々に対して、誰にでも関わりがあることを気づかせるような投げかけをまずはしていただきたいと感じます。昔からある偏見や差別意識を減らしていくには、ひとりひとりが自分の今の価値観や本当に正しいのかと自問自答していくことが大事だと思います。
人権侵害の被害が深刻な場合は周囲の人々や様々な機関等の適切な支援はあるのが良いと思う。ただ、過剰な気使いが逆に誰かを傷つけたりする可能性も否めないでその辺の判断する冷静な視点を失うことがない様にしていけると良いと思う（己も含め）。誰が考えるにしろとても難しいところだろうけど。
こうしてアンケートで人権問題を考える機会があったこと自分の遠い問題と思ってしまっていることを反省します。北朝鮮の拉致問題も用紙があるものの署名にはいたらなかった。反省。
他の市町村と比べて特に河内長野市は・・・という事はなく、他の市町村と同じだと思う。国全体として人権問題はかなり改善されて来ていると思う。
いじめや差別をする人たちは何故そうするのか？ その心と向き合っていく人との関係が大切だと思います。あらゆるいじめがこの世の中からなくなることを切に望みます。
令和の時代こそ、人権問題、同和教育がなくなっていくことを希望します。
差別はいけない事!! でも〇〇が悪い、いけないと声を大きくあげると逆にそれを意識して差別がうまれてくる現実もあると思います。

⑫ 人権教育・啓発について

小、中学校の頃に、わかりやすく正しい人権問題を知ること、その記憶は意外とあるものなので、大人の意見に惑わされず、人権問題に対して自分の意見をもてるはずなので、退屈に感じる内容でなく、わかりやすく簡単にアニメーションを使ったりして人権問題を子どもたちに知らせてください。
どんなに教育や制度が充実しても、人間の中にある他人より上に立ちたいという思いは消えない。それでも社会全体が差別は悪であることを啓発し広まっていけば自分の思いが悪い事であると認識する様になるだろうから教育・啓発を続けてほしい。
教育現場では時代に合った人権問題を教える必要があると思いますが、昔から言われているものなどの問題はずっと教育し続けたいといけなと思います。コロナ禍でコロナに感染した方への誹謗中傷などもあってはならない事なので。知識がない方が人の気持ちを考えずに行っているんだらうなとメディアなどを見ていて思っています。
今も根強く残る偏差値教育の現場において、ともすれば自分だけ良ければというエゴイストが生じる偏狭な専門家に、単なる知識だけでなく知恵と創造力の啓発が最も大事な課題であると思います。キーワードは社会、そして人々の為に貢献する生き方、教育のあり方の重要性を痛感します。
人権問題は何十年、何百年経ってもむずかしい問題だと思う。色々な人権問題がありますが教育を受ける年齢から常に身近に取り扱う事だと思う。
子どもの差別意識を助長しないよう、どちらかというと大人が学ぶ場、学ぶ意識が必要だと感じます。

幼い頃からの教育、そして各家庭でのきちんとした家族単位での理解が必要であると思います。子ども達と一緒に大人ももう一度学ぶ取り組みがあってもいいと思います。
自ら、勉強している、知ろうとする姿勢でなかったため、あいまいな記憶になっている。自身も小学生のときの授業は少なかったように思う。中・高では授業がなかった気がする。今の授業内容は知らないけど、もう少し授業を増やしてもいいのではないかなと思う。
大人に人権教育や啓発を行っても、あまり意味はないように思える。未来を担う子供達への人権教育が大切だと思う。今すぐは消滅させるのは難しいと思うが、効果はすぐに現れなくても10年、20年と続けていくことで人権意識を持つ人の人口は増えていくと思う。
必要以上の人権教育は問題を助長する人を増やす。取り上げない方向で進めた方が、過去のものになってなくなりやすくなると思う。
私は今38歳ですが、小学校5、6年生の時に授業で受けた人権教育での記憶、印象が強く残っています。差別については同和、障がい、男女、職業など現在ほど多様ではなかったのもあり、繰り返し考える機会があったように思います。その時の担任の先生のお話は今も覚えています。差別問題に最初に触れることになる低学齢の時期の教育は非常に大事だと思います。
差別の根底にあるのは歴史から生じた問題だと思います。歴史教育と人権問題を同時教育が必要だと思います。
小さい頃から、人権問題を具体的にわかりやすく教えることで、差別などすべきでないことを知る機会を増やしてほしい。会社でうける人権研修は実際、差別を受けた部落の人や障がい者の人の話をきくことがとても勉強になった。（知らない何と何も改善しないし、悪いことだと認識できない）
子どもの時から、何がいけないかを意識することで差別はダメという社会になっていくのでは?? 障がい者の人と接することがあまりなく、道ですれちがったりしたら自分の子どもが笑ったり、何かおかしいという事がある。家でもその都度話をしているが、例えば学校などで障がい者の方との交流などあればもっと身近な存在になるのではと思いました。（障がい者の人が何を感じて何に困っているかなど知れる。）
様々な人権問題についての知識（知る事）子どもの頃から、たくさん経験できるようにしていけたら…と思います。様々な差別をなくすためには、やはり知ることが一番大切だし、それを自分のこととして考えられるように子どもにも伝えていきたいと思っています。学校での人権教育や市の講座など充実を願います。
子供の頃に、道徳の時間の教材で「にんげん」を使って学びました。かなりシビアな内容でしたが、とても印象に残っています。人権問題の汚い部分を大人が恐れず公平公正な正しい視点で、子供達に伝え、また私達大人が1人1人実践してゆく事が重要かと思料します。
人権問題についての啓発活動を今以上に活発に行い、根強く活動していくようにする。根強くある差別問題の解決は長い歴史の中で生きているので、なかなか人々の意識を変えることはむずかしいが、一人ひとりの人権意識を高めるよう努力していく。
人権を教える側の大人がしっかりと理解できていなければ、子供にはちゃんと届かないし、むしろ、間違っ
て伝わる。聴覚障害の方、いじめに対して道徳の授業でこえの形というアニメを小学生に一度観て欲しい。
1人1人がもっと自覚すべきである

⑬ その他

河内長野市は人権問題ではなく、もっと他の事に力を入れていけば良いと思う。例えば、子育て、学校教育、道徳教育、スポーツ教育（プロの誘致）など。そういうことを通して相手を思いやる気持ちや地元を愛する気持ちが育っていくのだと思っています。
人権に関しては特にありません。とにかく、交通整備してほしいです。不便すぎる。
勝手ながら今のところ自分や家族など身近な人に問題がないのであまり真剣に考えて行動していくつもりはありません。

令和2年度 河内長野市市政アンケート調査のお願い

日頃は何かと市政の推進にご協力いただきありがとうございます。

河内長野市では、住みよい河内長野市の実現をめざして日々、行政を推進しているところですが、市民のみなさんの率直なご意見をお聴きし、各種施策をすすめるうえでの参考資料とするため、市政アンケート調査を定期的の実施しています。

今年は、テーマ＜人権に関する意識調査＞を中心に調査を行うこととしました。

みなさんのご意見は、人権施策推進プランの改訂にあたり、参考とさせていただきますので、ぜひ、あなたの河内長野市についての率直なお考えをお聞かせください。

お忙しいこととは存じますが、アンケートの趣旨をご理解のうえ、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

令和2年8月

河内長野市長

- このアンケートは、18 歳以上の市民の中から無作為に 2,000 人の方々を選び、郵送でアンケート票をお送りしています。
- このアンケートには、ご本人による記入が難しい場合を除き、封筒のあて名の方がご自身でご記入ください。
- 回答内容は、統計的に処理し、調査の目的以外に利用することはありません。
- アンケート結果の概要は、後日、市ホームページなどを通じてお知らせします。
- ご記入いただいたアンケート票は、無記名のまま、8月17日(月)までに同封の返信用封筒に入れてお送りください。(切手を貼る必要はありません。)

【お問い合わせ先】

このアンケートについてのお問い合わせは、下記までお願いします。

河内長野市役所

設問 11～33 総合政策部 人権推進課 (内線 558)

上記以外の設問 総合政策部 政策企画課 (内線 341)

(代表電話番号) 0721-53-1111

(ファックス) 0721-55-1435

(メー ル) kikaku@city.kawachinagano.lg.jp



令和 2 年度 河内長野市市政アンケート 調査票

まず、回答していただくあなたご自身についておうかがいします。

A 性別をおたずねします。(自認する性別の番号に○は1つだけ)

- | | | |
|-------|-------|-----------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. 答えたくない |
|-------|-------|-----------|

B 年齢をおたずねします。() 内に数字を記載してください。

満() 歳

C あなたの家族構成はどれですか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------------|-----------|------------|
| 1. 単身(ひとりぐらし)世帯 | 2. 夫婦のみ世帯 | 3. 親子2世代世帯 |
| 4. 親子孫3世代世帯 | 5. その他() | |

D あなたは、どのくらいの期間、河内長野市にお住まいですか？(○は1つだけ)

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. 1年未満 | 2. 1年～5年未満 | 3. 5年～10年未満 |
| 4. 10年～15年未満 | 5. 15年～20年未満 | 6. 20年～30年未満 |
| 7. 30年以上 | | |

E あなたは、現在どこ(小学校区)に住んでおられますか？(○は1つだけ)

- | | | |
|-------------|------------------|--------------|
| 1. 長野小学校区 | 2. 小山田小学校区 | 3. 天野小学校区 |
| 4. 高向小学校区 | 5. 三日月小学校区 | 6. 天見小学校区 |
| 7. 川上小学校区 | 8. 千代田小学校区 | 9. 楠小学校区 |
| 10. 加賀田小学校区 | 11. 石仏小学校区 | 12. 美加の台小学校区 |
| 13. 南花台小学校区 | 14. わからない(住所は:) | |

F あなたは、現在のお住まいに来られる以前はどこに住んでおられましたか？(○は1つだけ)

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1. ずっと現在のところに住んでいる | 2. 現在地以外の河内長野市内 |
| 3. 河内長野市以外の南河内地域(*) | 4. 堺市 |
| 5. 大阪市 | 6. その他大阪府 |
| 7. 和歌山県 | 8. 奈良県 |
| 9. その他の都道府県または外国() | |

(*)富田林市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村

G あなたの職業は何ですか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------------|---------------|
| 1. 会社員・公務員 | 2. 自営業 |
| 3. 自由業(医師、弁護士など専門的職業) | 4. パート・アルバイト |
| 5. 家事専業 | 6. 学生 |
| 7. 無職 | 8. その他(具体的に) |

河内長野市での定住意向についておうかがいします。

問1 あなたは、これからも河内長野市に住みつづけたいと思いますか？（○は1つだけ）

1. ずっと今の場所で住みつづけたい
2. 河内長野市内で転居したい（転居したい地域： ）
3. 1. 2. のどちらともいえないが河内長野市には住みつづけたい
4. 特に住みつづけたいわけではないが、今のところ住みつづけるつもり
5. いずれ市外に移りたい（移りたい都市・地域名： ）
6. すぐに市外に移りたい（移りたい都市・地域名： ）
7. 何ともいえない
- 問2へお進みください。
- 問4へお進みください。
- 問3へお進みください。
- 問10へお進みください。

問1で「1. ずっと今の場所で住みつづけたい」「2. 河内長野市内で転居したい」「3. 1. 2. のどちらともいえないが河内長野市には住みつづけたい」と答えられた方におたずねします。

問2 住みつづけたい理由は何ですか。(○は2つまで)

1. 生まれ育ったまちだから
2. 住みなれたまちだから
3. 親せきや知人がいるから
4. 近所づきあいがしやすいから
5. 自然環境がよいから
6. 田舎の良さが残っているから
7. 魅力ある歴史・文化があるから
8. 教育環境がよいから
9. 買い物が便利だから
10. 通勤、通学に便利だから
11. 医療環境がよいから
12. レジャー・娯楽施設が多いから
13. 福祉サービスが整っているから
14. 働く場所としての魅力が多いから
15. 今後発展すると思うから
16. その他（具体的に： ）

問1で「5. いずれ市外に移りたい」「6. すぐに市外に移りたい」と答えられた方におたずねしま
す。

問3 市外に移りたい理由は何ですか。(○は2つまで)

1. 市内で住みかえたいが、希望に合う住宅がないから
2. 転勤等仕事の関係で
3. 生活環境が悪いから
4. 人間関係がよくないから
5. 買い物など日常生活に不便だから
6. 通勤・通学に不便だから
7. 子どもの教育の関係で
8. その他（具体的に：_____）

すべての方におたずねします。

問4 これからも河内長野市に住みつづけるためには、どんなことが必要だと思いますか？
(○は2つまで)

1. 一戸建てや賃貸住宅など、ニーズにあった住環境の充実
2. 市内で働ける場所の充実
3. 身近な緑など自然環境の充実
4. 歴史・文化を感じられる地域づくりの充実
5. 隣近所など地域との良好な人間関係
6. 買い物などの日常生活の便利さの充実
7. 通勤・通学などの交通環境の充実
8. 子どもの教育環境の充実
9. 老後も安心して暮らせる福祉サービスの充実
10. その他（具体的に： ）

河内長野市の取組についておうかがいします。

問5 次の1から41の各項目について、①現在の生活の中でどの程度満足していますか。また、②今後に向けてどの程度重要だと思いますか。各項目の①および②のそれぞれについて、お考えに近い番号に○をつけてください。(①、②それぞれについて○は1つだけ)

項 目		①現在の満足度						②今後の重要度				
		非常に満足	やや満足	普通	やや不満	不満	わからない	非常に重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない
安全・安心	1. 防災	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	2. 消防・救急	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	3. 防犯	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	4. 交通安全	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	5. 消費者行政	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
福祉・健康	6. 地域の支え合い	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	7. 高齢者にとっての暮らしやすさ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	8. 障がい者にとっての暮らしやすさ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	9. 社会保障制度	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	10. 健康づくりを進める環境	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
子育て・教育・生涯学習	11. 児童に対する福祉	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	12. 子育てのしやすさ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	13. 小中学校の教育環境	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	14. 青少年の健全な育成	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	15. 各種講座や施設など生涯学習の環境	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	16. 文化芸術活動などの環境	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	17. 歴史文化遺産の保存・活用	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	18. スポーツ施設や活動などの環境	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
人権	19. 人権の尊重と平和意識の高揚	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	20. 男女共同参画の推進	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	21. 国際交流や多文化共生社会の推進	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
環境	22. 自然環境への配慮	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	23. リサイクル施策など循環型社会への取り組み	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	24. 騒音・悪臭などの少なさ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	25. まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
都市基盤	26. 市街地の整備	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	27. 住環境	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	28. 公園や緑地などの環境	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	29. 道路や橋などの交通網	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	30. バスなどの公共交通サービス	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	31. 上下水道	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5

(つづき)

項 目		①現在の満足度						②今後の重要度				
		非常に満足	やや満足	普通	やや不満	不満	わからない	非常に重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない
産業	32. 商業地などの賑わい	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	33. 農林業の振興	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	34. 観光事業	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	35. 身近な場での働きやすさ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
協働・行財	36. 市民同士の連携や市民と行政の協働	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	37. 行政改革への取り組み	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	38. 適正で透明性の高い財政運営	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
人事	39. 市職員の窓口や電話等での対応	1	2	3	4	5	6					
40. 都市ブランドの創出・都市魅力の発信		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
41. 市全体として		1	2	3	4	5	6					

問5の①現在の満足度で、「4. やや不満」「5. 不満」と答えられた方におたずねします。

問6 特に不満を感じられている項目の番号を2つまで選んで、それぞれについて不満を感じる理由を記入してください。

【項目の番号】	左の項目が「4. やや不満」「5. 不満」と感じる理由

すべての方におたずねします。

問7 あなたはこの1年で、市内の「地域やまちづくり活動」※にどの程度参加されましたか。(○は1つだけ)

(※)「地域やまちづくりの活動」とは、自治会、町内会、PTA、教育、青少年育成、環境、美化、福祉など、有償・無償を問わず、幅広い活動のことを言います。

1. 週に2～3回以上	2. 週に1回程度
3. 月に1回程度	4. 年に数回程度
5. 年に1回程度	6. ほとんどない

問8 次の1から3の項目について、どのように感じていますか。各項目について、お考えに近い番号に○をつけてください。(○は1つだけ)

項 目	非常に感じ	やや感じる	普通	あまり感じない	ほとんど感じない	わからない
1. 地域のまちづくり活動が充実していると感じている	1	2	3	4	5	6
2. 河内長野市に住みつづけたいと感じている	1	2	3	4	5	6
3. 河内長野市に愛着と誇りを感じている	1	2	3	4	5	6

災害に対する備えについておうかがいします。

問9 地震や台風が来た場合に備え、ご家庭に非常用物品の備蓄を行っていますか。

1. 非常食（レトルト食品、缶詰等）の備蓄（○は1つだけ）

1. 7日分以上 2. 3日分以上 3. 1日分以上 4. 備蓄していない

2. 水の備蓄（○は1つだけ）

1. 7日分以上 2. 3日分以上 3. 1日分以上 4. 備蓄していない

3. 生活用品（ラジオ、懐中電灯、毛布等）の備蓄（○は1つだけ）

1. 備蓄している 2. 備蓄していない

問10 現在のコロナ禍の中で、災害時の避難方法についてあなたが想定しているものに○をつけてください。（○は1つだけ）

1. 在宅避難 2. 親戚・友人宅へ避難 3. 近隣避難所へ避難

人権問題についておうかがいします。

問11 次の人権問題について、あなたが関心のあるものに○をつけてください。

（○はいくつでも）

- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| 1. 女性の人権問題 | 2. 子どもの人権問題 |
| 3. 高齢者の人権問題 | 4. 障がい者の人権問題 |
| 5. 同和問題 | 6. 外国人の人権問題 |
| 7. HIV※感染者等の人権問題 | 8. ハンセン病※患者・回復者等の人権問題 |
| 9. 犯罪被害者等の人権問題 | 10. インターネットによる人権侵害 |
| 11. アイヌの人々の人権問題 | 12. 刑を終えて出所した人の人権問題 |
| 13. 北朝鮮当局によって拉致された被害者等の人権問題 | |
| 14. ホームレスの人権問題 | 15. 性的マイノリティ※の人権問題 |
| 16. ヘイトスピーチ※ | |
| 17. その他（具体的に： | ） |
| 18. 特になし | |

（※）HIV：ヒト免疫不全ウイルス。エイズ（後天性免疫不全症候群）の原因となるウイルス

（※）ハンセン病：「らい菌」によって引き起こされる感染症。現在は後遺症を残さず治る病気

（※）性的マイノリティ：性的少数者。同性愛や両性愛など性的指向において少数派である人々や性別に違和感を覚える人々、性同一性障がいなどの人々

（※）ヘイトスピーチ：特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動

問12 一般的に「差別」というものについて、あなたはどのようなお考えをお持ちですか。
次の1から8の各項目について、お考えに近い番号に○をつけてください。
(それぞれについて○は1つだけ)

項 目	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	何とも言えない
1. 差別は人間として恥すべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない	1	2	3	4	5
2. 差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ	1	2	3	4	5
3. 差別問題に関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である	1	2	3	4	5
4. 差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い	1	2	3	4	5
5. 差別をなくすために、行政は努力する必要がある	1	2	3	4	5
6. どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ	1	2	3	4	5
7. 差別を受けてきた人に対しては、格差をなくすために行政の支援が必要だ	1	2	3	4	5
8. 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる	1	2	3	4	5

問13 あなたは、学校、職場及び地域で、人権問題についての学習を受けたことがありますか。(○はいくつでも)

1. 小学校で受けた	2. 中学校で受けた
3. 高校・高等専修学校で受けた	4. 大学・短大・専門学校で受けた
5. 市民対象の講座などで受けた	6. 職場の研修で受けた
7. P T Aや民間団体が主催する研修で受けた	
8. その他（具体的に：	）
9. はっきりと覚えていない	} →問15へお進みください
10. 受けたことはない	

問13で「1～8」のいずれかに回答された方におたずねします。

問14 その中で、あなたの人権意識を高めるうえで特に役に立った(いちばん印象に残っている)ものはどれですか。(○は1つだけ)

1. 小学校で受けたもの	2. 中学校で受けたもの
3. 高校・高等専修学校で受けたもの	4. 大学・短大・専門学校で受けたもの
5. 市民対象の講座などで受けたもの	6. 職場の研修で受けたもの
7. P T Aや民間団体が主催する研修で受けたもの	
8. その他（具体的に：	）
9. 役に立った(印象に残った)と思うものはない	

問15 これまでにあなたが、学校、職場及び地域で、経験したことがある人権問題についての学習は、どのような分野に関するものでしたか。(〇はいくつでも)

- 問 16 結婚相手を考える際に、気になること（なったこと）はどんなことですか。①あなたご自身の結婚の場合と、②お子様の結婚の場合とに分け、気になる項目を選んでください。お子様がいらっしゃらない方も「いる」と想定してお答えください。
（①及び②のそれぞれについて○はいくつでも）

問17 あなたが家を買ったり借りたりする際に重視する（した）立地条件は何ですか。
（○はいくつでも）

-
- 123

問18 あなたは、女性に関して現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。
(○はいくつでも)

- | | |
|--|-----------|
| 1. 男女の固定的な役割分担意識(「家事は女性」等)に基づく差別的取扱いを受けること | |
| 2. 職場において差別待遇(女性が管理職になりにくい等)を受けること | |
| 3. セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ) | |
| 4. ドメスティック・バイオレンス(配偶者やパートナーからの暴力) | |
| 5. 痴漢やストーカーなどの性的暴力 | 6. 売春・買春 |
| 7. 女性に「令夫人」「婦人」「未亡人」「家内」という言葉を用いること | |
| 8. アダルトビデオ等への出演強要 | |
| 9. その他(具体的に：) |) |
| 10. 特にない | 11. わからない |

問19 あなたは、子どもに関して現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。
(○はいくつでも)

- | | |
|---|-----------|
| 1. いじめを受けること | |
| 2. 体罰を受けること | |
| 3. 虐待(身体的・心理的・性的・経済的虐待または子育ての放棄等)を受けること | |
| 4. いじめ、体罰や虐待を見て見ぬふりをする | |
| 5. 学校や就職先の選択等の子どもの意見について、大人がその意見を見做すること | |
| 6. 児童買春・児童ポルノ等の対象となること | |
| 7. 携帯電話・スマートフォン・SNS*等での仲間はずれや無視があったり、犯罪に巻き込まれたりすること | |
| 8. その他(具体的に：) |) |
| 9. 特にない | 10. わからない |

※SNS：ソーシャル・ネットワーキング・サービス。友人・知人等の社会的ネットワークをインターネット上で提供することを目的とする、コミュニティ型のサービス

問20 あなたは、高齢者に関して現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。
(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------------------|-----------|
| 1. 働く能力を発揮する機会が少ないこと | |
| 2. 差別的な言動をされること | |
| 3. 悪徳商法の被害が多いこと | |
| 4. アパート等への入居を拒否されること | |
| 5. 家庭内での看護や介護において嫌がらせや虐待を受けること | |
| 6. 病院での看護や介護施設において劣悪な処遇や虐待を受けること | |
| 7. 邪魔者扱いされ、つまはじきにされること | |
| 8. 意見や行動が尊重されないこと | |
| 9. 経済的に自立が困難なこと | |
| 10. その他(具体的に：) |) |
| 11. 特にない | 12. わからない |

問21 あなたは、障がい者に関して現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。
(○はいくつでも)

1. 職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること
2. 結婚問題で周囲の反対を受けること
3. 就職・職場で不利な扱いを受けること
4. 差別的な言動をされること
5. 悪徳商法の被害が多いこと
6. アパート等への入居を拒否されること
7. 宿泊施設、店舗等への入店や施設利用を拒否されること
8. スポーツ・文化活動・地域活動に気軽に参加できないこと
9. じろじろ見られたり、避けられたりすること
10. その他（具体的に：)
11. 特にない 12. わからない

問22 あなたは、日本に居住している外国人に関して現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(○はいくつでも)

1. 職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること
2. 結婚問題で周囲の反対を受けること
3. 就職・職場で不利な扱いを受けること
4. 差別的な言動をされること
5. アパート等への入居を拒否されること
6. 宿泊施設、店舗等への入店や施設利用を拒否されること
7. 風習や習慣等の違いが受け入れられないこと
8. じろじろ見られたり、避けられたりすること
9. その他（具体的に：)
10. 特にない 11. わからない

問 23 あなたは、ヘイトスピーチ※を伴うデモ、集会、街宣活動等を知っていますか。
(○は1つだけ)

1. 知っている →問24へお進みください 2. 知らない →問25へお進みください

(※) 特定の国の出身者であること又はその子孫であることのみを理由に、日本社会から追い出そうとしたり危害を加えようとするなどの一方的な内容の言動が、一般に「ヘイトスピーチ」と呼ばれています。

問23で「1. 知っている」と答えられた方におたずねします。

問24 あなたは、そのようなデモ等を見聞きしてどのように思いましたか。
(○はいくつでも)

1. 不愉快で許せないと思った 2. 日本に対する印象が悪くなったと思った
3. 自分には関係ないと思った
4. ヘイトスピーチをされる側に問題があると思った
5. 「表現の自由」の範囲内のものだと思った
6. その他（具体的に：)
7. 特にない 8. わからない

すべての方におたずねします。

問25 あなたは、インターネットによる人権侵害に関して現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(〇はいくつでも)

1. 他人を誹謗中傷する情報が掲載されること
2. 他人に差別をしようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような情報が掲載されること
3. ラインやツイッターなどによる交流が犯罪を誘発する場となっていること
4. 捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真が掲載されること
5. ネットポルノが存在していること
6. プライバシーに関する情報が掲載されること
7. その他(具体的に:)
8. 特にない
9. わからない

問26 あなたは、性的マイノリティに関して現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(〇はいくつでも)

1. 職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること
2. 就職・職場で不利な扱いを受けること
3. 差別的な言動をされること
4. アパート等への入居を拒否されること
5. 宿泊施設、店舗等への入店や施設利用を拒否されること
6. じろじろ見られたり、避けられたりすること
7. その他(具体的に:)
8. 特にない
9. わからない

問27 大阪府では、令和2年1月より性的マイノリティのカップルをパートナーとして公に認める取組み「大阪府パートナーシップ宣誓証明制度」を始めましたが、今後、どのように取組みを進めていけばよいと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 大阪府の証明制度を活用し、河内長野市における支援の取組みを広げていく
2. 証明書を発行した自治体に限らず、他の自治体でも証明書を活用できるように取組みを広げていく
3. 証明制度が必要なくなるよう、国において、同性婚等の法制度を進めていく
4. 大阪府の証明制度は活用せず、河内長野市独自の証明制度を実施する
5. 証明制度も含めて、取り立てて取組みは必要がない
6. その他(具体的に:)
7. 特にない
8. わからない

問28 もし、あなたやあなたの家族の方が人権侵害を受けたら、どのように対応しますか。
(○はいくつでも)

1. 我慢する
2. 相手に抗議する
3. 身近な人（家族や友人、教師など）に相談する
4. 人権問題に詳しい人に相談する
5. 弁護士に相談する
6. 市民団体に相談する
7. 法務局や人権擁護委員に相談する
8. 市役所に相談する
9. 警察に相談する
10. 何もしないでそのままにする
11. その他（具体的に： _____）

問29 あなたは、部落差別等の同和問題について、初めて知ったきっかけは何からですか。
(○は1つだけ)

1. 父母や家族から聞いた
2. 近所の人から聞いた
3. 学校の友達から聞いた
4. 学校の授業で教わった
5. 職場の人から聞いた
6. 講演会、研修会などで聞いた
7. 府や市町村の広報紙などで読んだ
8. テレビ、映画、新聞、雑誌、書籍などで知った
9. インターネットのサイトなどで知った
10. 近くに同和地区があった
11. 自分の身近で同和問題に関する差別があった
12. その他（具体的に： ）
13. なんとなく知っている
14. 部落差別等の同和問題については知らない

→問30へお進みください

→問33へお進みください

問29で「1～13」のいずれかに回答された方におたずねします。

問30 あなたは、部落差別等の同和問題に関して現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(○はいくつでも)

1. 結婚問題で周囲の反対を受けること
2. 就職・職場で不利な扱いを受けること
3. 差別的な言動をされること
4. 差別的な落書きをされること
5. 身元調査をされること
6. インターネットを利用して差別的な情報が掲載されること
7. えせ同和行為（同和問題を口実に企業や官公庁に不当な要求をする行為）がなされること
8. その他（具体的に： ）
9. 特にない
10. わからない

問31 あなたは、現在もなお社会の中で部落差別等の同和問題が存在するのは、なぜだと思いますか。（〇はいくつでも）

1. 部落差別の知識がなかったり、無関心だったりする人がいるから
2. 落書きやインターネット上などで差別意識を助長する人がいるから
3. これまでの教育や啓発が十分ではなかったから
4. 昔からある偏見や差別意識を、そのまま受け入れる人が多いから
5. 地域社会や家庭において話題となるから
6. 同和地区の住民が行政から優遇されていると思う人が多いから
7. えせ同和行為などにより「同和は怖い問題である」と思うから
8. 部落差別はもはや存在しない
9. その他（具体的に： _____）
10. 特にない
11. わからない

問32 あなたは、部落差別等の同和問題を解消するために、今後どうすればよいと思いますか。（〇はいくつでも）

1. 人権尊重の意識を一人ひとりがもっと自覚すべき
2. 行政がもっと積極的に教育・啓発、相談体制の充実などの施策を講ずべき
3. 特別なことをする必要はなく、自然になくなっていくのを待つべき
4. インターネットにおける差別的な書込みをする人を処罰すべき
5. えせ同和行為をする人を処罰すべき
6. 差別する人や差別を助長する人を処罰すべき
7. その他（具体的に： _____）
8. 特にない
9. わからない

すべての方におたずねします。

問33 河内長野市の人権問題や今後の人権教育・啓発について、ご意見・ご要望がありましたら、下の空欄に自由にお書きください。

～以上、ご協力ありがとうございました～

ご記入いただいた調査票は、無記名のまま同封の返信用封筒（切手は不要）に入れて、

8月17日（月）までにご投函ください。